
JD Edwards EnterpriseOne 受注設計生産 8.11 SP1 PeopleBook

2005 年 8 月

JD Edwards EnterpriseOne 受注設計生産 8.11 SP1 PeopleBook
SKU E1_APPS811SP1AEO-B JPN
Copyright © 2005, Oracle. All rights reserved.

本プログラム（ソフトウェアおよび文書）には、知的財産が含まれています。本プログラムは、使用および公開に関する制約が明記されたライセンス契約に従うことを条件として提供され、著作権、特許権などの知的財産権法および産業財産権法により保護されています。本プログラムのリバースエンジニアリング、逆アセンブル、逆コンパイルは、他の独立したソフトウェアとの相互運用性の確保に必要とされる範囲または法的に規定された範囲を除き、禁じます。

本書に記載されている情報は、予告なく変更されることがあります。本書の内容に問題があった場合は、当社まで書面によりご通知ください。また、当社は、本書の内容に全く誤りがないことを保証するものではありません。ライセンス契約に明示的に規定された場合を除き、形式、手段（電子的、機械的など）、および目的の如何にかかわらず、本プログラムを複写、複製、または転送することを禁じます。

本プログラムが、アメリカ合衆国政府、またはその代理として本プログラムを使用する者に提供される場合には、以下の条項が適用されます。

U.S. GOVERNMENT RIGHTS

Programs, software, databases, and related documentation and technical data delivered to U.S. Government customers are “commercial computer software” or “commercial technical data” pursuant to the applicable Federal Acquisition Regulation and agency-specific supplemental regulations. As such, use, duplication, disclosure, modification, and adaptation of the Programs, including documentation and technical data, shall be subject to the licensing restrictions set forth in the applicable Oracle license agreement, and, to the extent applicable, the additional rights set forth in FAR 52.227-19, Commercial Computer Software—Restricted Rights (June 1987). Oracle Corporation, 500 Oracle Parkway, Redwood City, CA 94065.

本プログラムは、原子力、航空、大量輸送、医療などの本質的に危険を伴う用途を目的として作成されていません。危険を伴う用途に本プログラムを使用する場合の障害対策、バックアップ、および冗長構成などの適切な措置を講じた安全性の確保は、ライセンス供与を受けた者の責任とし、これらの用途に使用された場合のいかなる損失や障害について、当社は一切責任を負いません。

本プログラムには、Web サイトへのリンクが含まれており、サードパーティのコンテンツ、製品、およびサービスへのアクセスが発生する場合があります。サードパーティの Web サイトの運用およびそのコンテンツについて、Oracle は一切責任を負いません。これらのコンテンツの使用上の全ての責任は、使用者が負うこととします。サードパーティから製品またはサービスを購入する場合は、その購入者とサードパーティの間の直接取引になります。(a) サードパーティの製品またはサービスに関する品質、(b) サードパーティとの契約におけるいかなる条件の遵守（製品またはサービスの提供、また、購入された製品またはサービスに関する保証義務など）について、Oracle は一切責任を負いません。サードパーティとの取引に伴ういかなる損失や障害について、Oracle は一切責任を負いません。

Oracle、JD Edwards、PeopleSoft、Retek は米国 Oracle Corporation およびその関連会社の登録商標です。その他の会社名および製品名は所有各社の商標です。

オープンソースの利用について

Oracle は、オープンソースまたはシェアウェアのソフトウェアの使用または配布について責任を負いません。また、これらのソフトウェアまたはドキュメンテーションの使用によるいかなる損失や障害についても一切責任を負いません。Oracle の PeopleSoft 製品には以下のオープンソースソフトウェアが使用される場合があります、これらには下記の免責条項が適用されます。

この製品には、Apache Software Foundation 社 (<http://www.apache.org/>) によって開発されたソフトウェアが含まれています。Copyright (c) 1999-2000 The Apache Software Foundation. All rights reserved. このソフトウェアは現状のまま提供されており、商品性や特定の目的への適合性に対する保証はもとより、明示的にも暗示的にも、一切の保証はありません。Apache Software Foundation 社およびその共同提供者は、いかなる損害に対しても責任を負いません。これは、その損害が、直接的、間接的、付随的、特殊、典型的、または必然的であるか否かを問いません。また、代替品の購入や代替サービスの利用、有用性およびデータや利益の損失、業務の中断に対する保証もいたしません。本ソフトウェアの使用によるあらゆる損害の発生に対して、契約の記載や、重大な過失などによる権利侵害の有無にかかわらず、また、そのような損害の可能性について報告を受けていたとしても、Apache Software Foundation 社は一切責任を負いません。

目次

はじめに

この PeopleBook について	vii
JD Edwards EnterpriseOne アプリケーションを使用するにあたって必要な知識.....	vii
JD Edwards EnterpriseOne アプリケーションの基礎.....	vii
印刷・製本されたドキュメンテーションの入手.....	viii
印刷・製本されたドキュメンテーションの注文.....	viii
追加情報.....	ix
表記規則.....	ix
表記規則.....	x
注意事項の表示.....	x
国、地域、業種の表記.....	xi
通貨コード.....	xi
ご意見・ご要望をお寄せください.....	xii
全ての PeopleBook で使用する共通フィールド.....	xii

まえがき

JD Edwards EnterpriseOne 受注設計生産 - まえがき.....	xvii
対象の製品.....	xvii
アプリケーションの基礎.....	xvii
この PeopleBook で使用する共通フィールド.....	xvii

第 1 章

JD Edwards EnterpriseOne 受注設計生産 - はじめに.....	1
受注設計生産の概要.....	1
受注設計生産の統合.....	1
受注設計生産の導入.....	3
グローバル導入手順.....	3
受注設計生産の導入手順.....	4

第 2 章

受注設計生産について.....	5
JD Edwards EnterpriseOne 受注設計生産システム.....	5
プロジェクトのライフサイクル.....	6

受注設計生産システムの機能.....	7
受注設計生産のテーブル.....	8
第 3 章	
受注設計生産の設定.....	11
受注設計生産の設定について.....	11
ETO プロジェクトのタスク タイプ.....	11
プロジェクト固有の資材.....	12
ETO の行タイプと行タイプ固定情報.....	12
事前設定.....	13
ETO のユーザー定義コードの設定.....	13
原価分類および勘定科目分類の設定.....	14
原価分類および勘定科目分類について.....	15
原価分類および勘定科目分類の設定に使用するフォーム.....	15
原価分類 (P31P301) の処理オプションの設定.....	15
原価分類の設定.....	16
勘定科目分類の設定.....	17
作業原価の統合の設定.....	17
作業原価の統合について.....	17
事前設定.....	18
作業原価の統合の設定に使用するフォーム.....	18
プロジェクトの勘定科目表の追加.....	18
ETO と Microsoft Project の統合.....	19
ETO のエクスポート/インポート処理について.....	20
MS Project へのエクスポート (R31P404) と MS Project からのインポート (R31P801) の処理オプションの設定.....	20
Microsoft Project への ETO プロジェクト情報のエクスポート.....	20
Microsoft Project からの ETO プロジェクト情報のインポート.....	21
第 4 章	
プロジェクトの立ち上げ.....	23
プロジェクトの立ち上げ処理について.....	23
プロジェクトの作成.....	23
プロジェクトの作成について.....	24
プロジェクトの作成に使用するフォーム.....	25
プロジェクト ワークベンチ (P31P001) の処理オプションの設定.....	25
プロジェクトの作成.....	29
プロジェクト情報の検討.....	34

プロジェクト タスクの利用.....	35
プロジェクト タスクについて.....	35
プロジェクト タスクの処理に使用するフォーム.....	37
プロジェクト タスクの追加.....	37
プロジェクト タスクのスケジューリング.....	39
プロジェクト タスクのスケジューリングについて.....	40
事前設定.....	41
プロジェクト タスクのスケジューリングに使用するフォーム.....	41
タスク従属関係の定義.....	41
プロジェクト タスクのスケジューリング.....	42
見積および提案の生成.....	43
見積および提案の生成処理について.....	43
事前設定.....	45
見積の作成に使用するフォーム.....	45
プロジェクト見積 (P31P100) の処理オプションの設定.....	45
プロジェクトの見積の作成.....	47

第 5 章

受注設計生産でのプロジェクト プランニングの利用.....	51
ETO でのプロジェクト プランニングについて.....	51
事前設定.....	52
作業原価予算へのプロジェクト予算のロード.....	52
作業原価予算のアップロード処理について.....	52
作業原価予算のアップロード (R31P800) の処理オプションの設定.....	52
作業原価予算のアップロード.....	54
プロジェクト所要量計画の実行.....	54
PRP について.....	54
事前設定.....	57
プロジェクト所要量計画の実行に使用するフォーム.....	57
複数事業所プロジェクト所要量計画の生成.....	57
複数事業所 PRP のメッセージの処理.....	58
複数事業所 PRP の需要/供給の検討.....	58
プロジェクトのオーダーの作成.....	58
プロジェクトのオーダーの作成について.....	58
プロジェクトのオーダーの作成に使用するフォーム.....	62
プロジェクトの資材の購買オーダーの入力.....	62
プロジェクト ワークベンチ プログラムを使用した購買オーダー情報の入力.....	62
関連オーダー (P31P204) の処理オプションの設定.....	63
プロジェクトの関連オーダーの作成.....	63

プロジェクトへの既存の作業オーダーの添付.....	64
関連オーダーの原価更新.....	64
プロジェクトのコミットメントの設定.....	64
プロジェクトのコミットメントについて.....	64
プロジェクトの作業オーダーの在庫引当の検討に使用するフォーム.....	66
プロジェクトの作業オーダーの在庫引当の検討.....	67
コミットメント再作成 (R31P993) の処理オプションの設定.....	67
コミットメント監査証跡の作成.....	67
第 6 章	
プロジェクトの実行および統制の利用.....	69
プロジェクトの実行および統制について.....	69
事前設定.....	71
プロジェクト ワークベンチへの実際原価の積み上げ.....	71
事前設定.....	72
プロジェクトのレポートと警告の生成.....	72
プロジェクトのレポートと警告について.....	73
プロジェクト スケジュール レポート (R31P400) の処理オプションの設定.....	73
プロジェクト スケジュール レポートの実行.....	74
プロジェクト原価レポート (R31P401) の処理オプションの設定.....	74
プロジェクト原価レポートの実行.....	75
プロジェクト在庫レポート (R31P402) の処理オプションの設定.....	75
プロジェクト在庫レポートの実行.....	76
プロジェクトの完了.....	76
プロジェクトの完了処理について.....	76
プロジェクト締め切りアナライザ (R31P403) の処理オプションの設定.....	77
プロジェクト締め切りアナライザ プログラムの実行.....	77
EnterpriseOne 用語集.....	79
索引	91

この PeopleBook について

PeopleBook には、JD Edwards EnterpriseOne アプリケーションの導入と使用に必要な情報が提供されています。

ここでは、以下の事項について説明します。

- JD Edwards EnterpriseOne アプリケーションを使用するにあたって必要な知識
- JD Edwards EnterpriseOne アプリケーションの基礎
- 印刷・製本されたドキュメンテーションの入手
- 追加情報
- 表記規則
- ご意見・ご要望について
- PeopleBook で使用する共通フィールド

注: PeopleBook には、システムで使用されている全てのフィールドについて説明されているわけではありません。アプリケーションで共通して使用される主なフィールドは、共通フィールドとしてまとめて説明しています。全てのアプリケーションで共通するフィールドはこの PeopleBook に、各アプリケーションで共通するフィールドは、それぞれの製品ライン、PeopleBook、またはその章やセクションごとに、共通フィールドとしてまとめて説明されています。それ以外に説明が必要だと思われるものについては、処理や業務を実行する具体的なページの説明と併せて、フィールドやチェック ボックスの説明をそれぞれ記載しています。

JD Edwards EnterpriseOne アプリケーションを使用するにあたって必要な知識

この PeopleBook の内容を十分に理解して活用するには、JD Edwards EnterpriseOne アプリケーションの基本的な使い方を熟知している必要があります。

また、JD Edwards EnterpriseOne の入門トレーニング コースを少なくとも 1 つ修了していることが推奨されます。

この PeopleBook では、ユーザーが JD Edwards EnterpriseOne システムを操作でき、メニューやページ、フォームなどを使って情報を追加、更新、削除できることを前提としています。また、Web ブラウザと、Microsoft Windows または Microsoft Windows NT の操作に習熟していることも必要です。

ここでは、JD Edwards EnterpriseOne システムを操作できることを前提としているため、操作手順についての説明は省略しています。この PeopleBook では、JD Edwards EnterpriseOne システムを効果的に使用するために必要な情報や、JD Edwards EnterpriseOne アプリケーションを導入するために必要な情報を提供します。

JD Edwards EnterpriseOne アプリケーションの基礎

各アプリケーションの PeopleBook では、JD Edwards EnterpriseOne アプリケーションを導入して使用するための情報を提供しています。

また、システムを設定したり設計するときに必要な情報が、製品ラインで共通する『JD Edwards EnterpriseOne アプリケーションの基礎 PeopleBook』に書かれている場合もあります。ほとんどの製品ラインについて『JD Edwards EnterpriseOne アプリケーションの基礎 PeopleBook』が用意されています。それぞれの PeopleBook のまえがきに、関連する『JD Edwards EnterpriseOne アプリケーションの基礎 PeopleBook』の情報が記載されています。

『JD Edwards EnterpriseOne アプリケーションの基礎 PeopleBook』で取り上げている項目は、製品ラインのどのアプリケーションにも当てはまる、あるいはその多くに共通する重要なものばかりです。JD Edwards EnterpriseOne システムを導入する場合、製品ラインの中から 1 つのアプリケーションだけを導入する、いくつかのアプリケーションを組み合わせて導入する、または製品ライン全体を導入する、といういずれの場合でも、この『JD Edwards EnterpriseOne アプリケーションの基礎 PeopleBook』に書かれている内容を十分に理解しておくことが必要です。基礎的な内容を理解することが、導入タスクに着手する出発点となります。

印刷・製本されたドキュメンテーションの入手

このセクションでは、印刷・製本されたドキュメンテーションの注文について説明します。

印刷・製本されたドキュメンテーションの注文

PeopleBooks CD-ROM に収録されているドキュメンテーションは、印刷・製本された形のものも用意されています。印刷・製本されたドキュメンテーションは、以下のいずれかの方法でご注文いただけます。

- Web サイト
- 電話（米国およびカナダのみ）
- 電子メール

Web サイト

PeopleSoft の Web サイトである Customer Connection から注文できます。Ordering PeopleBooks リンクをクリックすると、PeopleBooks Press の Web サイトにアクセスすることができます。このサイトは、PeopleSoft と印刷会社 MMA Partners 社が共同で運営しています。ご注文の際、クレジットカード、郵便為替、銀行小切手、または注文書をご利用いただけます。

電話（米国およびカナダのみ）

877 588 2525 (MMA Partners 社) までご連絡ください。

電子メール

peoplebookspress@mmapartner.com (MMA Partners 社) までご連絡ください。

関連項目:

PeopleSoft Customer Connection
<https://www.peoplesoft.com/corp/en/login.jsp>

追加情報

PeopleSoft Customer Connection Web サイトから、以下の情報を入手できます。

情報	ナビゲーション
アプリケーションのメンテナンス情報	[Updates + Fixes]
ビジネスプロセス マップ	[Support]、[Documentation]、[Business Process Maps]
データモデル	[Support]、[Documentation]、[Data Models]
エンタープライズ インテグレーション ポイント (EIP) のカタログ	[Support]、[Documentation]、[Enterprise Integration Point (EIP) Catalog]
ハードウェア要件とソフトウェア要件	[Implement, Optimize + Upgrade]、[Implementation Guide]、[Implementation Documentation and Software]、[Hardware and Software Requirements]
インストール ガイド	[Implement, Optimize + Upgrade]、[Implementation Guide]、[Implementation Documentation and Software]、[Installation Guides and Notes]
PeopleBook ドキュメンテーションのアップデート	[Support]、[Documentation]、[Documentation Updates]
サポート ポリシー	[Support]、[Support Policy]
製品出荷予定	[Support]、[Roadmaps + Schedules]
リリースノート	[Implement, Optimize + Upgrade]、[Upgrade Guide]、[Upgrade Documentation and Software]、[Release Notes]
テーブルのロード順序	[Implement, Optimize + Upgrade]、[Implementation Guide]、[Implementation Documentation and Software]、[Table Loading Sequences]
トラブルシューティング情報	[Support]、[Troubleshooting]
アップグレード関連のドキュメンテーション	[Implement, Optimize + Upgrade]、[Upgrade Guide]

表記規則

このセクションでは、以下の事項について説明します。

- 表記規則
- 注意事項の表示
- 国、地域、業種の表記
- 通貨コード

表記規則

PeopleBook は、次の表記規則に従って記述されています。

表記規則	説明
太字	PeopleCode の関数名、メソッド名、言語要素や、関数呼び出しで、そのまま記述すべき PeopleCode の予約語は太字で記述しています。
斜体	PeopleCode の構文で、プレースホルダとなる引数部分は斜体になっています。
キー+キー	キーを組み合わせる操作を示しています。キー名とキー名の間にプラス記号がある場合は、最初のキーを押しながら2番目のキーを押すという意味です。たとえば、Alt+W は、Alt キーを押しながら W キーを押すことを表します。
Monospace font (固定幅のフォント)	PeopleCode のプログラムや、その他のコードの例の表記には、この固定幅のフォントを使用しています。
...(省略記号)	PeopleCode の構文で、先行要素の任意の繰り返しを示します。
{ }(中かっこ)	PeopleCode の構文で、2つの選択肢のうちいずれか一方を選択することを示します。選択肢は縦棒 () で区切られています。
[](角かっこ)	PeopleCode の構文で、省略できる要素を示します。
&(アンパサンド)	PeopleCode の構文で、アンパサンドが頭に付いたパラメータはインスタンス化されたオブジェクトであることを示します。 また、PeopleCode の変数は必ずアンパサンドが頭に付きます。

注意事項の表示

PeopleBook では、注意事項が以下のような形式で示されています。

注

JD Edwards EnterpriseOne システムを使って作業するときに注意すべき事項が書かれています。

注: 注意事項は、このような形式で示しています。

システムが正しく機能するために必ず守るべき大切な事柄は、“重要:”と示されています。

重要: 重要な注意事項は、このような形式で示しています。

警告

JD Edwards EnterpriseOne システムの導入にあたって、特に注意しなければならない重要な事柄は、“警告:”と示されています。“警告:”と書かれた部分には十分な注意を払ってください。

警告: 警告は、このような形式で示しています。

相互参照

相互参照は、“参照:”、または“関連項目:”という形で示しています。すぐ前で説明した情報に関連する他のドキュメンテーションが相互参照として示されています。

国、地域、業種の表記

特定の国、地域、業種にのみ関連する情報については、国や地域名などをかっこ書きで付記して示しています。このような国や地域の表示は、通常はセクションの見出しに付記されますが、注意事項などに付記されることもあります。日本語版では対応していない機能に関する記述については、英語で表記されています。

特定の国を対象とした見出しの例: 「従業員の採用 (FRA)」

特定の地域を対象とした見出しの例: 「減価償却の設定 (中南米)」

国の表記

国際標準化機構 (ISO) が定める国コードを使って表記しています。

地域の表記

地域を表す名称で表記しています。以下に例を示します。

- アジア太平洋
- ヨーロッパ
- 中南米
- 北米

業種の表記

業種を表す名称か略称を使って表記しています。以下に例を示します。

- USF (米国連邦政府)
- E&G (教育/公的機関)

通貨コード

金額は、ISO が定める通貨コードを使って表記しています。

ご意見・ご要望をお寄せください

PeopleBook についてのご意見、ご要望を下記にお寄せください。

〒154-0005
東京都世田谷区三宿 1-13-1
東映三宿ビル 5 階

日本オラクル インフォメーション システムズ株式会社
エンタープライズ ランゲージ サービス マネジャー宛

TEL : 03-5251-8768

または、ETSJPN_US@ORACLE.COM へ電子メールでご連絡ください。

いただいた電子メール全てにご返答のできない場合もありますが、弊社では皆様のご意見やご要望に留意し、貴重な情報として今後の参考にさせていただきます。

全ての PeopleBook で使用する共通フィールド

以下 Enterprise の用語です。

指定日	どの日付までのデータが、レポートまたはプロセスの対象となるかを指定します。
ビジネスユニット	業務上、区分された上位レベルの組織の ID です。ビジネスユニットを利用して、1 つの大きな組織の中に地域別または部門別に複数のユニットを定義することができます。
名称	30 文字までのテキストを入力できます。
有効日	テーブル行が有効になる日付、またはアクションが開始される日付です。たとえば、元帳を 6 月 30 日に締める場合、元帳締めの有効日は 7 月 1 日となります。データを表示、変更できる時期も有効日により管理されます。この情報を使用するページやバッチ処理では、現在行が使用されます。
1 回限り、常時、実行しない	“1 回限り” を選択すると、次のバッチ処理実行時にリクエストが実行されます。バッチ処理が実行されると、処理頻度は自動的に“実行しない”に設定されます。 “常時” を選択すると、バッチ処理が実行されるたびに毎回リクエストが実行されます。 “実行しない” を選択すると、バッチ処理が実行されてもこのリクエストは実行されません。
プロセス モニター	このリンクをクリックすると、プロセス リスト ページに移動して、送信したプロセス リクエストのステータスを確認できます。
レポート マネージャ	このリンクをクリックすると、レポート リスト ページに移動して、レポート内容の表示、レポート ステータスの確認、レポートと配信リストの詳細を表示する内容詳細メッセージの照会を行うことができます。

リクエスト ID	レポートまたはプロセスの選択条件のセットを表す ID です。
実行	このボタンをクリックしてプロセス リクエスト ページにアクセスすると、プロセスまたはジョブの実行場所、およびプロセスの出力フォーマットを指定できます。
セットID	コントロール テーブル情報のセット、つまり、テーブルセットを表す ID です。テーブルセットを使用すると、コントロール テーブル情報や処理オプションをビジネス ユニット間で共有できます。これにより、データの重複やシステムのメンテナンス作業を減らすことができます。ビジネスユニット内のレコード グループにセットID を割り当てると、レコード グループ内の全てのテーブルは、そのビジネスユニットと、そのレコード グループに同じセットID を割り当てているその他のビジネス ユニットとの間で共有されます。たとえば、複数のビジネスユニットで共通する職務コードのグループを定義して共有することができます。職務コードを共有する各ビジネス ユニットには、そのレコードについて同じセットID が割り当てられます。
略称	15 文字までのテキストを入力できます。
ユーザー ID	トランザクションを実行するユーザーを表す ID です。
以下 EnterpriseOne の用語です。	
住所番号	エンティティのマスター レコードを識別する固有の番号です。住所番号は、顧客、仕入先、会社、従業員、応募者、加入者、テナント、などの ID として使用できます。アプリケーションによっては、ページ上の住所番号フィールドが、顧客番号、仕入先番号、会社番号、従業員番号、応募者番号、加入者番号、などに相当する場合があります。
仮定通貨コード	取引金額を表示する際に使用する通貨を指定する 3 文字のコードです。このコードを指定することにより、取引の入力時に実際に使用された通貨ではなく、指定した通貨に基づいて取引金額を参照することができます。
バッチ番号	システムによって処理される取引のグループを識別する番号です。入力ページでは、ユーザーが手動でバッチ番号を割り当てるか、自動採番プログラム (P0002) によって自動的に割り当てることもできます。
バッチ日付	バッチが作成された日付です。このフィールドを空白のままにすると、自動的にシステム日付がバッチ日付として指定されます。
バッチ状況	<p>バッチの転記状況を示すユーザー定義コード (UDC) 98/IC の値を表示します。有効値は以下のとおりです。</p> <p>空白: バッチが転記されていないか、承認待ちです。</p> <p>A: バッチの転記が承認され、貸借も一致していますが、まだ転記されていません。</p> <p>D: バッチが正常に転記されました。</p> <p>E: バッチにエラーが発生しました。転記の前にエラーを修正する必要があります。</p> <p>P: バッチの転記処理中です。転記処理が完了するまで、バッチにアクセスすることはできません。転記中にエラーが発生した場合は、バッチ状況コードが E に変更されます。</p>

U: ほかのユーザーがこのバッチを使用しているか、バッチが開かれている間に電源障害が発生したために、バッチが一時的に使用できなくなっています。

事業所	倉庫、作業、プロジェクト、作業所、支店、工場など、配送業務や製造業務が行われる場所や単位を表すコードです。システムによっては、ビジネスユニットと呼ばれる場合もあります。
ビジネスユニット	個別に費用がトラッキングされる各エンティティを表すコードです。システムによっては、事業所とも呼ばれます。
カテゴリコード	各カテゴリを表すコードです。カテゴリコードは、ユーザー定義コードで、トラッキングや申告など、組織の業務要件に合わせてカスタマイズできます。
会社	組織、資金、報告主体などを識別するコードです。会社コードは、F0010に定義済みである必要があり、このコードで表される単位ごとに、完全な貸借対照表を備えている必要があります。
通貨コード	取引の通貨を表す3文字のコードです。EnterpriseOneでは、国際標準化機構 (ISO) に準拠した通貨コードを提供しています。通貨コードは F0013 テーブルに格納されています。
伝票会社	伝票に関連付けられた会社番号です。この番号は、伝票番号、伝票タイプ、元帳日付と併せて使用され、当初伝票を一意に識別します。 会社と会計年度によって次の番号を割り当てる場合、この会社番号に基づいて、その会社の次の番号が自動的に抽出されます。 同じ伝票番号と伝票タイプが複数の当初伝票に割り当てられていても、伝票会社番号を使用すれば、目的の当初伝票を表示することができます。
伝票番号	伝票、請求書、仕訳入力、タイムシートなどの当初伝票を識別する番号です。入力ページでは、ユーザーが当初伝票番号を割り当てるか、自動採番プログラムによって自動的に割り当てることもできます。
伝票タイプ	取引のソースおよび目的を表すユーザー定義コード 00/DT の値 (2文字) です。伝票、請求書、仕訳入力、タイムシートなどがあります。EnterpriseOneでは、伝票タイプに以下のプレフィックスが予約されています。 P: 買掛伝票 R: 売掛伝票 T: 時間/給与伝票 I: 在庫伝票 O: 購買伝票 S: 受注伝票
有効日付	住所、品目、取引、レコードなどがアクティブになる日付です。このフィールドは、プログラムによって意味が変わります。たとえば、以下のような日付を表すことがあります。 <ul style="list-style-type: none">• 住所変更が有効になる日付• 賃貸契約が有効になる日付• 価格が有効になる日付• 為替換算レートが有効になる日付

- 税率が有効になる日付

会計期間、会計年度

元帳の期間、年度を表す番号です。多くのプログラムでは、このフィールドを空白のままにできます。その場合、会社固定情報プログラム (P0010) で定義された現在の会計期間と会計年度が自動的に使用されます。

元帳日付

取引の転記先の会計期間を示すための日付です。取引に対してこの日付が入力されると、その会社に割り当てられている会計期間パターンと比較して、適切な会計期間および会計年度が抽出されます。日付の検証も併せて行われます。

JD Edwards EnterpriseOne 受注設計生産 – まえがき

この章では、以下の内容について説明します。

- 対象の製品
- アプリケーションの基礎
- この PeopleBook で使用する共通フィールド

対象の製品

この PeopleBook では、以下の製品についての情報も記載されています。

- JD Edwards EnterpriseOne 在庫管理
- JD Edwards EnterpriseOne 製造管理 – 製造現場
- JD Edwards EnterpriseOne 製造管理 – 製造データ管理
- JD Edwards EnterpriseOne プロジェクト原価管理

アプリケーションの基礎

『JD Edwards EnterpriseOne 受注設計生産 8.11 SP1 PeopleBook』では、EnterpriseOne 受注設計生産システムのインプリメンテーションと処理情報が提供されています。ただし、システムの設定や設計に必要な基本情報は、この PeopleBook の姉妹編に記載されています。この姉妹編は EnterpriseOne 製品ラインの多くまたは全てに適用される重要なトピックで構成されています。したがって、以下の PeopleBook の内容を理解しておく必要があります。

- 『JD Edwards EnterpriseOne 在庫管理 8.11 SP1 PeopleBook』
- 『JD Edwards EnterpriseOne 製造データ管理 8.11 SP1 PeopleBook』
- 『PeopleSoft EnterpriseOne Job Cost 8.11 SP1 PeopleBook』
- 『JD Edwards EnterpriseOne 製造原価計算および製造会計 8.11 SP1 PeopleBook』

この PeopleBook で使用する共通フィールド

プロジェクトNo.

システムで受注設計生産プロジェクトを識別する番号を指定します。プロジェクトの設定は、プロジェクトの追加/改訂プログラム (P31P011) で行います。

第 1 章

JD Edwards EnterpriseOne 受注設計生産 - はじめに

この章では、以下の内容について説明します。

- 受注設計生産の概要
- 受注設計生産の統合
- 受注設計生産の導入

受注設計生産の概要

JD Edwards EnterpriseOne 受注設計生産 (ETO) により、受注設計生産および受注生産を行う企業は、収益性や生産性を向上させ、所有している関連データを有効に活用できます。受注設計生産では、以下の項目を実行していくことで、目標を達成します。

- プロジェクトに関する詳細情報の検討およびトラッキング
- プロジェクト タスクのスケジューリング
- 最新の原価情報の検討

受注設計生産の統合

このセクションでは、受注設計生産をサポートする他のシステムの特徴について説明します。

在庫管理

在庫品目を定義する在庫管理を使用します。この情報により、サプライチェーン全体を通して在庫を処理できます。プロジェクト固有の品目を定義し、一般在庫と区別できます。

製造データ管理

製造データ管理を使用して、製造プロジェクト タスクを実行するために必要な製造情報を設定します。以下のような情報が含まれます。

- 部品表
- 作業場
- 作業工程
- 製造原価計算情報
- 設計変更管理

このシステムは、工程能力や資材所要量計画に関するクリティカルな情報を管理するためにも使用されます。

製造現場管理

製造現場管理を使用して、プロジェクト用に作成された製造作業オーダーの処理、資材出庫、作業オーダーの実行、プロジェクト品目の作成に必要な時間と労力の報告を行います。

所要量計画

このシステムを使用して、現行の手持在庫数量と需要についての情報を検討し、以下の情報を予測します。

- 製品の販売または交換部品
- 事業所間の在庫ニーズ
- 設備/工場の保守に必要な部品所要量
- 購買オーダーまたは製造現場生産から発生する在庫品目の引当可能数量

作業原価

作業原価を使用して、プロジェクトおよび作業を管理し、原価および収益をモニタリングできます。このシステムを使用して、以下のタスクを実行できます。

- 作業に対する原価コード構造の作成と管理
- 原価内訳構成 (CBS) を作成し、作業階層構造 (WBS) と照合する
- 作業予算の作成
- プロジェクトや作業に関連する原価および収益のトラッキングおよび管理
- 収益性の分析
- サービス請求/契約請求システムの使用

キャピタル アセット マネジメント

保有資産管理システムを使用して、設備の保守およびサービスを行います。このシステムは、ダウンタイムおよび修理費の削減と生産性および品質の向上に役立ちます。収益、原価、および資産運用をトラッキングでき、事態がひっ迫する前に、ワークフロー アラートを使用して問題に対応して解決できます。

品質管理

品質管理を使用して、プロジェクトの一部として生産する品目の資材の品質に関連したデータを入力および管理します。管理が行き届いた一貫性のある方法で品質試験の結果を記録し、高品質の製品を製造するためにモニタリングできます。

受注管理

受注管理を使用して、以下の処理を行います。

- プロジェクトの受注オーダーの作成
- 顧客および品目優先プロファイルの管理
- 受注オーダー行のトラッキング

調達管理

調達管理システムを使用して、以下のようなさまざまな購買アクティビティをトラッキングします。

- 在庫の補充
- プロジェクト用の資材購入
- 特定の部署、作業、またはビジネスユニットに対する、購入した部材やサービスの費用配賦

契約請求、サービス請求

受注設計生産プロジェクトに作業原価を使用する場合、プロジェクトの一部として発生した商品およびサービスの顧客への請求に、契約請求/サービス請求システムを使用できます。両システム共に、部門間振替および対顧客請求に利用できる特徴を備えています。契約請求/サービス請求システムを使用して、以下の処理を行います。

- 商品やサービスの原価の計上
- 収益計上のための原価の精算
- 提供した商品とサービスの料金請求
- 費用の請求事由を示す証明書の提供
- 商品とサービスの仕訳作成

受注設計生産の導入

このセクションでは、受注設計生産を導入するために必要な手順の概要について説明します。

導入プランの作成段階では、導入のガイドやトラブルシューティング情報など、提供される全ての情報を活用するようにしてください。これらのリソースの一覧は、『この PeopleBook について』のまえがきに、各リソースの最新バージョンの入手方法と共に掲載されています。

グローバル導入手順

以下のリストは、受注設計生産アプリケーションのグローバル導入の推奨手順です。

手順	参照
1. グローバルユーザー定義コードテーブルを設定します。	『PeopleSoft EnterpriseOne Tools 8.95 PeopleBook: Foundation』
2. 会計期間パターン、会社、ビジネスユニットを設定します。	
3. システム自動採番を設定します。	
4. 勘定科目を設定します。	
5. 一般会計固定情報を設定します。	JD Edwards EnterpriseOne 一般会計 8.11 SP1 PeopleBook、「一般会計システムのセットアップ」、「一般会計固定情報の設定」
6. 通貨コードと為替レートなど、多通貨処理の設定をします。	
7. 元帳タイプ規則を設定します。	JD Edwards EnterpriseOne 一般会計 8.11 SP1 PeopleBook、「一般会計システムのセットアップ」、「一般会計システムの元帳タイプの設定」

手順	参照
8. 住所録レコードを入力します。	JD Edwards EnterpriseOne 住所録 8.11 SP1 PeopleBook、「住所録レコードの入力」
9. デフォルト事業所およびプリンタを設定します。	『PeopleSoft EnterpriseOne Tools 8.95 PeopleBook: Foundation』
10. 事業所固定情報を設定します。	JD Edwards EnterpriseOne 在庫管理 8.11 SP1 PeopleBook、「品目在庫情報の入力」、「事業所情報の入力」
11. 製造および流通自動仕訳(AAI)を設定します。	JD Edwards EnterpriseOne 在庫管理 8.11 SP1 PeopleBook、「在庫管理システムの設定」、「流通システムのAAI設定」
12. 伝票タイプを設定します。	JD Edwards EnterpriseOne 在庫管理 8.11 SP1 PeopleBook、「在庫管理システムの設定」、「伝票タイプ情報の設定」
13. 製造現場カレンダーを設定します。	JD Edwards EnterpriseOne 製造現場管理 8.11 SP1 PeopleBook、「製造現場管理システムの設定」、「製造現場カレンダーの設定」
14. 製造固定情報を設定します。	JD Edwards EnterpriseOne 製造データ管理 8.11 SP1 PeopleBook、「製造データ管理の設定」、「製造固定情報の設定」

受注設計生産の導入手順

以下の表は、受注設計生産の導入手順を示しています。

手順	参照
1. 受注設計生産ユーザー定義コードを設定します。	<u>第3章、「受注設計生産の設定」、「ETOのユーザー定義コードの設定」、13ページ</u>
2. プロジェクト品目を設定します。	JD Edwards EnterpriseOne 在庫管理 8.11 SP1 PeopleBook、「品目在庫情報の入力」
3. 製造原価を設定します。	JD Edwards EnterpriseOne 製造原価計算および製造会計 8.11 SP1 PeopleBook、「製造原価計算および製造会計システムの設定」、「品目の原価計算方式と原価の指定」
4. 原価分類および勘定科目分類を設定します。	<u>第3章、「受注設計生産の設定」、「原価分類および勘定科目分類の設定」、14ページ</u>
5. 作業原価の統合を設定します。	<u>第3章、「受注設計生産の設定」、「作業原価の統合の設定」、17ページ</u>

第 2 章

受注設計生産について

この章では、以下の内容について説明します。

- JD Edwards EnterpriseOne 受注設計生産システム
- プロジェクトのライフサイクル
- 受注設計生産システムの機能
- 受注設計生産のテーブル

JD Edwards EnterpriseOne 受注設計生産システム

JD Edwards EnterpriseOne 受注設計生産 (ETO) により、受注設計生産および受注生産を行う企業は、収益性や生産性を向上させ、所有している関連データを有効に活用できます。受注設計生産では、以下の項目を実行していくことで、これらの目標を達成します。

- プロジェクトに関する詳細情報の検討およびトラッキング
- プロジェクト タスクのスケジューリング
- 最新の原価情報の検討

さらに、ETO をサプライチェーンのアプリケーションと完全に統合させて、プロジェクトの効率化を推進します。

ETO は、一般的に受け入れられているプロジェクト管理の実践と戦略に沿って機能します。以下の 4 つのフェーズをプロジェクトが進行していくように、情報とメカニズムを提供します。

- プロジェクト立ち上げ
- プロジェクト プランニング
- プロジェクト実行
- プロジェクト完了

プロジェクトの立ち上げフェーズ

立ち上げフェーズでは、顧客からの見積要求の分析、プロジェクトの範囲の見積、およびプロジェクト情報の定義を行います。これには、見積提出に必要となる作業階層構造 (WBS)、タスクのスケジュール、原価見積などが含まれます。

プロジェクト プランニング フェーズ

見積が顧客に承認され、プロジェクトのスコープ、タスク、スケジュール、リソース、および財務情報の検討が完了したら、プロジェクト プランニング フェーズに移ります。タスクにリソースを割り当て、作業オーダーの条件を満たすための財務処理や在庫引当などを行います。プロジェクトのベースラインの完成が、プランニングの最終フェーズになります。このフェーズの終了後、変更管理を使用して、プロジェクトの変更を必要に応じて行います。

プロジェクト実行フェーズ

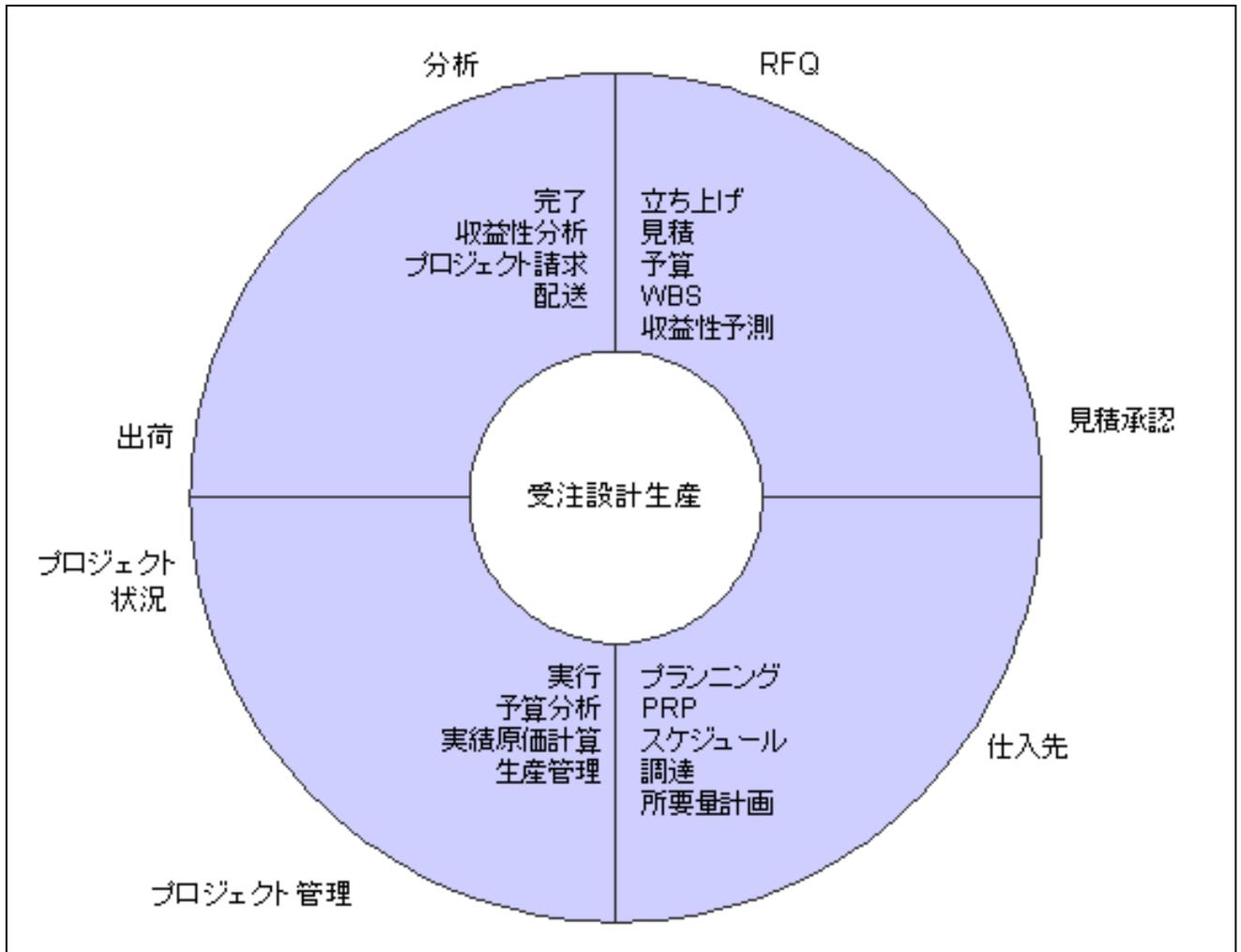
プランニングが完了し、作業階層構造および予算金額が固定されたら、プロジェクトは実行および管理のフェーズに移ります。このフェーズでは、スケジュールリングされたプロジェクト タスクを実行し、進捗および実行内容を確認し、計画通りに進んでいなければ補整措置を取れるようにします。

プロジェクト完了フェーズ

プロジェクトの完了フェーズには、タスク、製品の出荷、資産の資本化、財務報告に関連した完了処置があります。

プロジェクトのライフサイクル

以下の図は、プロジェクトの典型的な進行の概要を示しています。



プロジェクトのライフサイクル

受注設計生産システムの機能

大規模プロジェクトの作成および実行をサポートするために、受注設計生産は以下の機能を提供し、プロジェクト管理に含まれるさまざまなタスクを遂行できるようにします。

機能	説明
原価計算と予算作成	作成されて開始されたプロジェクトの原価を作成および管理できます。原価見積は、見積が承認されるとプロジェクト予算にアップロードされます。プロジェクト予算を設定して原価の対予算実績も管理できます。
見積	見積を作成して見込み客に送り、顧客が希望する品目の見積価格を提供することができます。
提案	希望を受けた製品に付随する資料を作成し、顧客がその資料を検討できるようにします。

機能	説明
資材調達計画	プロジェクトに必要な資材のオーダー所要量を提案し、プロジェクトのアクティビティによって生じた需要/供給を明確にします。
スケジュールとレポート	スケジュールを作成および管理し、全てのプロジェクトアクティビティがプロジェクトの最終品目に向けて計画どおりに進んでいるかトラッキングできます。
警告	スケジュールどおりにプロジェクトが進行していない場合、プロジェクト管理者に警告を出すことができます。

受注設計生産のテーブル

受注設計生産は、他の多くの EnterpriseOne システムと統合可能であるため、ETO を作成して使用するときに、他のシステムのテーブルを使用できます。たとえば、作業オーダー マスター テーブル (F4801) を使用して、プロジェクト見出しやタスク情報を保存できます。さらに、以下の受注設計生産固有のテーブルにもプロジェクト情報を保存できます。

テーブル	説明
プロジェクト属性 (F31P01)	このテーブルには、状況情報やプロジェクトの処理設定など、プロジェクト見出しに入力される情報が保存されます。
プロジェクト見積見出し (F31P10)	このテーブルには、バージョンや見積作成先の顧客番号など、プロジェクトに関連する見積の見出し情報が保存されます。
プロジェクト見積明細 (F31P11)	このテーブルには、各行の粗利益率と見積額を共に見積に含めるために選択する作業階層構造からの明細行が保存されます。
タスク従属関係 (F31P12)	このテーブルには、タスク間遅延時間などの作業階層構造のタスク間に設定したタスク従属関係が保存されます。
原価分類 (F31P21)	このテーブルには、正しくプロジェクトの原価情報を積み上げるために必要な原価タイプと勘定科目マッピングが保存されます。

テーブル	説明
プロジェクト引当明細 (F410211)	このテーブルには、プロジェクト固有の在庫引当が保存されます。引当がリリースされた時点で、このレコードは削除されます。
関連オーダー相互参照 (F4080)	このテーブルには、プロジェクトの記述タスクを関連オーダーにリンクするために使用されるオーダー情報が保存されます。このテーブルには、記述タスクのオーダー番号とオーダータイプ、および伝票タイプ、合計原価、オーダー状況などの関連オーダーからの明細情報が含まれます。

第 3 章

受注設計生産の設定

この章では、受注設計生産 (ETO) の設定の概要、事前設定、および以下の方法について説明します。

- ETO のユーザー定義コード (UDC) の設定
- 原価分類および勘定科目分類の設定
- 作業原価の統合の設定
- ETO と Microsoft Project の統合

受注設計生産の設定について

受注設計生産を使用するには、さまざまなプロジェクト コンポーネントを適切に処理するために必要な情報を設定する必要があります。ETO の設定には、ユーザー定義コードと、伝票タイプ固定情報などのその他の必要な情報が含まれます。さらに、プロジェクトの原価を正しく積み上げるために、原価の分類体系やプロジェクト固有項目の設定も必要になります。

プロジェクトでプロジェクト原価管理システムの機能を使用する場合、プロジェクトの作業マスターと勘定科目表の情報も定義する必要があります。

プロジェクト ワークベンチ プログラム (P31P011) にアクセスできない社員とのプロジェクトに関する連絡を円滑にするために、Microsoft Project にプロジェクト情報をエクスポートする処理を設定できます。

このセクションでは、以下の項目について概要を説明します。

- ETO プロジェクトのタスク タイプ
- プロジェクト固有の資材
- ETO の行タイプと行タイプ固定情報

参照: JD Edwards EnterpriseOne 製造データ管理 8.11 SP1 PeopleBook、「製造データ管理の設定」、「作業オーダーの伝票タイプ固定情報の定義」

ETO プロジェクトのタスク タイプ

受注設計生産により、WBS の一部としていくつもの異なるタスク タイプを使用できます。各タスク タイプは、プロジェクト管理者やプロジェクト責任者のさまざまな任務まで含む場合もあるプロジェクトに関連したアクティビティの各タイプを示します。伝票タイプ保守管理プログラム (P40040) で設定されたタスク タイプのみ使用できます。

ETO には、製造タスクと非製造タスクの 2 つのカテゴリがあります。非製造タスクには、集計/明細タスク、設備オーダー、サービス オーダーなどがあります。製造タスクには、作成、サービス、管理に使用する製造作業オーダーがあります。製造タスクが常に品目と関連している一方、非製造タスクでは品目番号は任意です。WBS の全てのタスクは、作業オーダー マスター テーブル (F4801) に保存されている作業オーダー マスター レコードです。

また、タスク タイプによって、原価の積み上げの設定や実行方法が決まります。製造タスクでは、原価は原価タイプ別にマッピングされ、製造原価テーブル (F3102) に保存されます。非製造タスクでは、原価は金額別にマッピングされ、取引明細テーブル (F0911) に保存されます。

プロジェクト固有の資材

ETO プロジェクトを処理する際、一般在庫からプロジェクト用に購入または製造する資材を区別する必要があります。プロジェクト固有としてプロジェクトで使用する品目を定義しない場合、プロジェクト供給という面で問題が発生する場合があります。プロジェクト固有の資材を定義することにより、以下のことが可能です。

- プロジェクト固有の在庫引当の管理
- 完了時点のプロジェクト固有最終品目の認識
- プロジェクト固有の会計上のコミットメントの実行

事業所品目プログラム (P41026) で品目を設定する際、在庫タイプ コード UDC テーブル (41/1) から 2 つのコードのうちいずれかを割り当てることで、プロジェクト固有品目を定義します。現在 2 つの事前に定義されたコードがあります。G (プロジェクト用製造品目) と H (プロジェクト用購入品目) です。両コード共、特殊取扱コード P を含んでおり、2 つの在庫タイプが設定された品目はプロジェクト固有として処理されることを示します。計画作成のため、[記述 2] フィールドには、品目が購入されるのか製造されるのかを示すコードが含まれます。

関連項目:

JD Edwards EnterpriseOne 在庫管理 8.11 SP1 PeopleBook、「品目在庫情報の入力」、「事業所情報の入力」

ETO の行タイプと行タイプ固定情報

特定の在庫タイプを割り当ててプロジェクト固有として品目を定義することに加え、プロジェクトで使用する品目の会計上のコミットメントを管理できる行タイプを使用してプロジェクト固有品目を設定します。事業所品目プログラム (P41026) でプロジェクト固有品目を設定する際、在庫インターフェイス C で定義される行タイプを割り当てます。在庫インターフェイスは、行タイプ固定情報プログラム (P40205) の行タイプのその他の行タイプ固定情報に沿って設定します。

この在庫インターフェイスにより、在庫品目の会計上のコミットメントを作成できます。在庫インターフェイス C は、在庫インターフェイス Y (在庫) の機能と A (勘定科目) と B (勘定科目と非在庫) を結合します。会計上のコミットメントを作成できるので、プロジェクト管理者は作業原価システムを使用して最終予測原価を算出できます。

注: 会計上のコミットメントを作成するには、コミットメント伝票タイプ UDC テーブル (40/CT) にコミットメント伝票タイプを定義する必要があります。

行タイプの [資材出庫プログラムの呼出し] オプションを有効にして、資材が入荷したら作業オーダー用に購買された資材が自動的に出庫されるようにもできます。

参照: JD Edwards EnterpriseOne 調達管理 8.11 SP1 PeopleBook、「調達管理システムの設定」、「オーダー行タイプの定義」

事前設定

伝票タイプ固定情報を定義します。

参照: JD Edwards EnterpriseOne 製造データ管理 8.11 SP1 PeopleBook、「製造データ管理の設定」、
「作業オーダーの伝票タイプ固定情報の定義」

ETO のユーザー定義コードの設定

EnterpriseOne では、以下のユーザー定義コード テーブルを提供し、ビジネス環境に応じた仕様に従って受注設計生産処理を定義できるようにします。

ユーザー定義コード	説明
オーダータイプ (48/OT)	作業オーダー マスターテーブル (F4801) の各作業オーダーレコードを他の作業オーダータイプのレコードと区別します。たとえば、同じ伝票タイプ、作業オーダータイプを使用して設備作業オーダーと製造作業オーダーを示すことはありません。
原価分類 (31P/CC)	プロジェクトワークベンチプログラム (P31P001) で使用される原価バケットを一覧表示して、製造原価 (F3102) と取引明細 (F0911) の各テーブルに保存される原価を、見やすさとプロジェクトの WBS における積み上げのために分類します。
プロジェクト見積状況 (31P/QP)	顧客への見積提出で作成される異なる見積バージョンの進行状況をトラッキングする際に使用される状況の定義を提供します。ハードコード化された 5 つの見積状況を提供します。
プロジェクト見積無効の理由コード (31P/RC)	見積が無効状況に設定された理由を表示します。
タスク従属タイプ (31P/DT)	WBS のタスク間の従属関係を設定する際に使用する標準タスク従属タイプを表示します。
在庫タイプコード (41/I)	品目マスタープログラム (P4101) で品目に割り当てられる在庫タイプを表示します。在庫タイプコードを使用してプロジェクト固有として品目を指定します。
コミットメント伝票タイプ (40/CT)	会計上のコミットメント用の伝票タイプを表示します。
プロジェクト会計 (31P/AI)	プロジェクトの会計処理が使用できるよう設定された AAI を表示します。
プロジェクト請求方法 (31P/PB)	[プロジェクトの追加/改訂] フォームでプロジェクトに選択するプロジェクト請求方法を表示します。
DRP (流通所要量計画) (34/DR)	流通所要量計画 (DRP) のプロジェクト固有数量タイプを表示します。

ユーザー定義コード	説明
DRP 未調整 (34/DU)	未調整 DRP 用のプロジェクト固有数量タイプを表示します。
電子メールボックス (02/MB)	プロジェクトの通知用電子メールボックスが含まれます。
在庫インターフェイス (H40/IV)	作業原価インターフェイスのあるプロジェクトの会計上のコミットメントを使用可能にする在庫インターフェイス C が含まれます。
MRP (資材所要量計画) 管理 (34/MM)	資材管理計画のプロジェクト固有数量タイプを表示します。
MPS (基準生産日程計画) (34/MS)	基準生産日程計画 (MPS) 用のプロジェクト固有数量タイプを表示します。
工場保守管理 (34/PM)	工場保守管理のプロジェクト固有数量タイプを表示します。
MRP (資材所要量計画) (34/MR)	MRP 用のプロジェクト固有数量タイプを表示します。
数量タイプ (34/QT)	需要/供給用のプロジェクト固有数量タイプを表示します。
リソース割り当てレベル (48/RL)	作業オーダーの伝票タイプに基づいて、リソース割り当てが作業オーダーレベルか、または作業オーダー労務詳細レベルかを指定します。労務詳細レベルで割り当てるには、この UDC テーブルを使用して作業オーダー伝票タイプを指定する必要があります。
テキスト代替の基準テーブル (42/01)	生成伝票プログラム (P00391) に必要なユーザー定義コードを表示します。
テキスト代替コード (42/02)	生成伝票プログラムに必要なユーザー定義コードを表示します。

原価分類および勘定科目分類の設定

このセクションでは、原価分類および勘定科目分類の概要と以下の方法について説明します。

- 原価分類 (P31P301) の処理オプションの設定
- 原価分類の設定
- 勘定科目分類の設定

原価分類および勘定科目分類について

プロジェクト関連の原価管理は、プロジェクト管理者にとって最も重要な事項の一つです。予算を管理するために、プロジェクト管理者は、プロジェクトのライフサイクルのどの時点のどのプロジェクト タスクについて報告された実際原価でも検討できる必要があります。プロジェクト管理者が、プロジェクトのどの段階でも実際原価と見積原価、予算原価、または計画原価を比較できるように、見積原価に利用できる同じ原価バケットに実際原価を関連付ける必要があります。さらに、正しい原価バケットに原価をマッピングすることで、WBS の各明細レベルから次の親レベルへ、さらにプロジェクト レベルへと原価を積み上げることができます。プロジェクト ワークベンチ プログラム (P31P001) で使用されている原価バケットの例としては、労務、資材、その他、および特別があります。原価分類 UDC テーブル (31P/CC) でユーザー定義コードとしてこれらの原価バケットを設定します。

原価分類プログラム (P31P301) により、原価を原価タイプ別または勘定科目コード別に原価バケットにマッピングできます。これらのオプションにより、プロジェクトは、製造作業オーダーのような製造タスクと、プロジェクト管理タスクおよび出張などの非製造タスクの 2 つのタイプを持つことができます。原価タイプ別に保存されている製造原価テーブル (F3102) から製造タスクに関連する実際原価を取り込みます。非製造タスクに関連する原価は、取引明細テーブル (F0911) に保存されます。したがって、非製造タスク原価をプロジェクト管理者が確認できるようにし、プロジェクト構造の上位レベルまで原価を積み上げるために、該当勘定科目とユーザー定義の原価バケットを関連付ける必要があります。

以下の組み合わせのいずれかに対して原価タイプおよび勘定科目マッピングを定義できます。

- 特定プロジェクトの事業所とプロジェクト番号
- プロジェクト番号が空白になっているプロジェクトの事業所
- 全ての事業所とプロジェクト (両フィールド共空白のまま)

前のリストは、プロジェクト ワークベンチ プログラムで原価を表示し、実際原価を積み上げるために正しいカテゴリを取り込む際に使用される階層を定義します。この情報は、原価分類テーブル (F31P21) に保存されています。

原価分類および勘定科目分類の設定に使用するフォーム

フォーム名	フォーム ID	ナビゲーション	用途
[原価タイプの処理], [勘定科目コードの処理]	W31P301A	[原価分類] (G31P31)、[原価分類]	原価タイプまたは勘定科目を検索し、検討します。
[原価タイプの改訂]	W31P301B	[原価タイプの処理] フォームで、[追加] ボタンをクリックします。	原価タイプ分類を設定します。
[勘定科目コードの改訂]	W31P301B	[勘定科目コードの処理] フォームで、[追加] ボタンをクリックします。	勘定科目分類を設定します。

原価分類 (P31P301) の処理オプションの設定

以下の処理オプションでは、原価分類プログラムのデフォルト処理を指定します。

デフォルト

この処理オプションは、このプログラムを使用する際に、原価タイプまたは勘定科目コードのどちらを処理できるようにするかを制御します。

1. **デフォルト表示** プログラムの表示方法を指定します。有効値は以下のとおりです。

ブランクまたは 1: 原価タイプ

2: 勘定科目コード

原価分類の設定

[原価タイプの改訂] フォームにアクセスします。

原価分類 - 原価タイプの改訂			
OK(O) 検索(D) 削除(D) キャンセル(L) ツール(T)			
<input type="text"/>			
<input type="text"/>			
レコード 1-2 グリッドのカスタマイズ			
	原価タイプ	原価タイプ記述	原価分類
<input checked="" type="radio"/>	B1	直接労務費	L
<input type="radio"/>			

[原価タイプの改訂] フォーム

[原価タイプ]

品目の原価要素を識別するコードを入力します。原価タイプの例は次のとおりです。

A: 購買原材料

B1: 直接労務費

B2: 段取労務費

C1: 機械変動間接費

C2: 機械固定間接費

Dx: 外注費

Xx: 光熱費や水道代などの追加間接費

通常、その他経費の計算にはタイプ Xx (追加間接費) を使用します。この原価構造により、原価要素を必要なだけ使用して別の原価積み上げを計算できます。この原価要素は、ユーザー定義の 6 つの集計原価バケットのうちの 1 つと関連付けられます。

[原価分類]

資材費、労務費、その他費用、または特別費など、原価バケットと原価タイプまたは勘定科目コードを関連付ける値を原価分類 UDC テーブル (31P/CC) から選択します。原価分類を正しく設定することにより、プロジェクト ワークベンチ プログラム (P31P001) で正しい原価バケットに原価が積み上げられます。

勘定科目分類の設定

[勘定科目コードの改訂] フォームにアクセスします。

原価分類 - 勘定科目コードの改訂

OK(O) 検索(I) 削除(D) キャンセル(L) ツール(T)

事業所

プロジェクトNo.

レコード 1-2 グリッドのカスタマイズ   

	勘定科目コード	勘定科目コード 記述	原価 分類
<input type="radio"/>	1.1110.BEAR	Bear Creek National Bank	L
<input checked="" type="radio"/>	<input type="text"/>		<input type="text"/>

[勘定科目コードの改訂] フォーム

[勘定科目コードの改訂] フォームを表示するには、原価分類プログラム (P31P301) の処理オプションを設定して、原価タイプ別ではなく勘定科目別にプログラムを表示する必要があります。

作業原価の統合の設定

このセクションでは、作業原価の統合の概要、事前設定、およびプロジェクトの勘定科目表の追加方法について説明します。

作業原価の統合について

ビジネス環境によって異なりますが、作業原価システムを ETO と統合することができます。作業原価の機能を使用して、収益性を分析したり作業原価システムからアクセスできるサービス請求/契約請求システムの機能を使用できます。作業原価システムと ETO システムを共に使用すると、長期プロジェクトなどの複雑な製造環境に特に威力を発揮します。

製造作業オーダーの会計上のコミットメントを実行する場合、作業原価の統合が必要です。製造作業オーダーの会計上のコミットメントを実行するには、コミットメント伝票タイプ UDC テーブル (40/CT) で製造作業オーダー伝票タイプを設定する必要があります。

プロジェクト固有の会計を可能にするには、プロジェクト会計 UDC テーブル (31P/AI) の特殊取扱コードフィールドを使用して、以下の自動仕訳を設定してプロジェクト固有の勘定科目を含めます。

- 3110 (在庫/原材料)
- 3120 (仕掛品)
- 3130 (半組立品/完成品)

- 3140 (プロジェクト相手科目)
- 4310 (在庫)
- 4315 (非在庫)

プロジェクトの属性を設定するときに作業原価システムを有効にするには、プロジェクト属性の [作業原価インターフェイス] オプションをオンにします。作業原価システムの機能を使用するには、元帳クラスコードを定義する必要があります。次に、追加作業マスター (F5108) にレコードを作成します。追加作業マスターレコードのビジネスユニットは、プロジェクト見出しとタスクのデフォルトのビジネスユニットになります。プロジェクトとタスクに割り当てる補助科目を提供する勘定科目表を追加する必要があります。作業原価の統合が有効な場合、WBS の各タスクには補助科目が必要です。

注: 作業マスターレコードを作成する処理オプションを設定した場合、プロジェクトを追加またはコピーする際に、作業原価マスターの改訂プログラム (P51006) が自動的に呼び出されます。

勘定科目表

勘定科目表を追加するには、作業原価コード構造プログラム (P51091) を使用します。勘定科目表を対話形式で追加する代わりに、処理オプションを設定して他のレコードから勘定科目表をコピーできます。この場合、勘定科目表情報のコピー元ソース (勘定科目表または作業) と表または作業の名前を指定する必要があります。

勘定科目表を追加したら、ETO プロジェクトとタスクに補助科目を割り当てます。[補助科目] フィールドを使用して、タスクの補助科目を入力できます。また、処理オプションを設定して親タスクから全ての子タスクに補助科目をコピーすることもできます。

事前設定

バックグラウンドで勘定科目表をコピーするには、プロジェクトワークベンチプログラム (P31P001) の処理オプションを使用して、作業のコピー元として勘定科目表または作業のいずれかを選択します。

作業原価の統合の設定に使用するフォーム

フォーム名	フォーム ID	ナビゲーション	用途
[プロジェクトの処理]	W31P001B	[プロジェクト・ワークベンチ] (G31P12)、[プロジェクト・ワークベンチ]	作業原価の統合を設定するプロジェクトを検索します。
[プロジェクトの追加/改訂]	W31P011A	[プロジェクトの処理] フォームの [ロー] メニューから [属性] を選択します。	作業原価の統合を指定します。
[原価コードのコピー]	W31P011C	[プロジェクトの追加/改訂] フォームで、[フォーム] メニューから [勘定科目表のコピー] を選択します。	勘定科目表情報のコピー元になる勘定科目表または作業の名前を指定することにより、プロジェクトの勘定科目表を追加します。

プロジェクトの勘定科目表の追加

[原価コードのコピー] フォームにアクセスします。

プロジェクト・ワークベンチ - 原価コードのコピー

OK(O) キャンセル(L) ツール(T)

コピー元

科目表タイプ

コピー先

作業

原価コード範囲

原価コード:開始 原価タイプ:開始

原価コード:終了 原価タイプ:終了

詳細レベル

[原価コードのコピー] フォーム

[科目表タイプ]

プロジェクトの作業にコピーする勘定科目表タイプを入力します。

注: 処理オプションでコピー元として作業を指定すると、このフィールドに“作業”というラベルが表示され、原価コードをコピーする作業を選択できます。

[作業]

選択したプロジェクトの原価コードのコピー先の作業またはビジネスユニットを選択します。

[原価コード:開始]、[原価コード:終了]

プロジェクトにコピーしたい補助科目の範囲を定義します。この情報は、原価配賦の決定に使用されます。

[原価タイプ:開始]、[原価タイプ:終了]

プロジェクトの主科目の範囲を定義します。

[詳細レベル]

プロジェクト勘定科目の詳細レベルを指定します。この値は、総勘定元帳の勘定科目の集計および分類に使用されます。

ETO と Microsoft Project の統合

このセクションでは、ETO のエクスポート/インポート処理の概要と以下の方法について説明します。

- MS Project へのエクスポート (R31P404) と MS Project からのインポート (R31P801) の処理オプションの設定
- Microsoft Project への ETO プロジェクト情報のエクスポート
- Microsoft Project からの ETO プロジェクト情報のインポート

ETO のエクスポート/インポート処理について

ETO を処理する際、Microsoft Project を使用して ETO 機能を補足する Microsoft Project の機能を利用できます。プロジェクト ワークベンチ プログラム (P31P001) で作成した作業階層構造 (WBS) を Microsoft Project ファイルにエクスポートできます。WBS をエクスポートしたら、ガント図表、PERT 図などの Microsoft Project のイメージ機能を使用してよりビジュアルなフォーマットでプロジェクト情報を表示できます。Microsoft Project ファイルを変更して当初の WBS に影響を与えずに what-if 分析を実行できます。さらに、プロジェクト ワークベンチ プログラムのプロジェクト情報にアクセスできない従業員と、エクスポートされたプロジェクト情報を共有することもできます。

MS Project へのエクスポート (R31P404) と MS Project からのインポート (R31P801) の処理オプションの設定

以下の処理オプションでは、MS Project のインポートおよびエクスポート プログラムのデフォルト処理を制御します。

処理

以下の処理オプションは、ETO と Microsoft Project の間のファイルの移動方法を制御します。

1. **フラット ファイルの名前とパス** フラット ファイルの名前を指定します。フラット ファイルが存在するディレクトリ パスが含まれます。
(例 C: ¥Project.csv)
2. **日付形式** データベースに保管される日付形式を指定します。処理オプションで指定する日付形式は、システム日付の形式と一致させる必要があります。MS Project ファイルの日付形式も、システム日付の形式と一致させる必要があります。

EnterpriseOne プログラムでは、YMD、MDY、DMY、および EMD の日付形式が有効です。このフィールドがブランクの場合、ワークステーションのオペレーティング システムの設定に基づいて日付が表示されます。Microsoft Windows NT では、[コントロール パネル] の地域設定によって、ワークステーションのオペレーティング システムの設定が制御されます。

Microsoft Project への ETO プロジェクト情報のエクスポート

[MS Project インテグレーション] (G31P13) の [MS Project へのエクスポート] を選択します。

プロジェクト情報をエクスポートする際、WBS の全てのタスク レコードに対する作業オーダー マスター テーブル (F4801) の全てのフィールドを含むカンマ区切りフラット ファイル (.csv) が作成されます。フラット ファイルは、MS Project へのエクスポート プログラム (R31P404) の処理オプションで指定したロケーションに保存されます。

エクスポートを確実に実行するには、MS Project で以下の情報を定義する必要があります。

1. MS Project を開き、プロジェクト ファイルに名前を付け、Microsoft Excel Workbook ファイル タイプで保存します。
2. [保存] ボタンをクリックすると、[エクスポート マップ] フォームが表示されます。
3. [データの選択] タブで、[新しいマップ] ボタンをクリックします。
4. [インポート/エクスポート マップの定義] フォームで、インポート/エクスポート マップの名前を入力します。

5. [オプション] タブで、以下の選択および値を確認します。

- [インポート/エクスポートするデータ] グループ ボックスの [タスク] オプション
- [Microsoft Excel オプション] グループ ボックスの [ヘッダー行をエクスポートまたはインポートする] オプション
- テキスト区切り値の「.」

Microsoft Project でフラット ファイルを開くと、フラット ファイルは作成する Microsoft Project ファイルの対応フィールドにマッピングされます。統合を適切に行うには、以下のフィールドを対応する Microsoft Project フィールドにマッピングする必要があります。

フラット ファイル	Microsoft Project	コメント
SEQN	Unique ID	タスク順序フィールドを使用して Microsoft Project のタスク ID が決定されます。
DL01	Name	Microsoft Project で、全てのタスクに名前が必要です。
STRT	Start	このフィールドは、ガント図表の作成に必要です。
DRQJ	Finish	このフィールドは、ガント図表の作成に必要です。
Successors	Successors	このフィールドは、Microsoft Project でタスクリンクを表示するために必要です。
Outline Level	Outline Level	このフィールドは、Microsoft Project で親子関係を表示するために必要です。
DOCO	Text01	このフィールドは、Microsoft Project から情報をインポートするために必要です。
DCTO	Text02	このフィールドは、Microsoft Project から情報をインポートするために必要です。
PARS	Text03	このフィールドは、Microsoft Project から情報をインポートするために必要です。

その他の全てのフィールドは任意です。エクスポート マッピングを保存します。

Microsoft Project からの ETO プロジェクト情報のインポート

[MS Projectインテグレーション] (G31P13) の [MS Projectからのインポート] を選択します。

プロジェクト ワークベンチ プログラムに Microsoft Project ファイルを再インポートできるようにするには、前のセクションの表に定義されているとおりに、正しくファイルをマッピングする必要があります。受注設計生産には、標準マッピングを含む Microsoft Project のテンプレートが用意されています。

Microsoft Project でプロジェクトを設定したら、必要なだけ変更を加えたり、情報をやり取りしたりできます。ファイルを保存する際は、.csv ファイルとして保存して、Microsoft Project にフラット ファイルをインポートした際に使用したのと同じマッピングを選択します。結果として作成される .csv ファイルには、マッピング仕様にある全てのフィールドが含まれます。

Microsoft Project でプロジェクトを処理する際は、プロジェクト ワークベンチ プログラムにプロジェクト ファイルをインポートできるよう、以下の規則を順守する必要があります。

- WBS にタスクを追加/削除しない。
プロジェクト ワークベンチ プログラムに当初エクスポートしたレコードをインポートできます。
- 一部のフィールドは変更できない。
たとえば、作業オーダー在庫完了プログラム (P31114) を実行するだけで、F4801 テーブルの完了数量フィールドを更新できます。
- 従属関係の遅延時間は日数で表示する。

変更が終了したら、プロジェクト ワークベンチ プログラムに .csv ファイルをインポートできます。MS Project からのインポート プログラムの処理オプションを使用して、インポートするフラット ファイルのロケーションを指定します。

注: Microsoft Project で読み込まれるフラット ファイルにプロジェクト情報をエクスポートする際、フラット ファイルのロケーションを指定する必要があります。オペレーティング システムとサーバーに応じて、さまざまな方法でファイルのロケーションを指定できます。たとえば、UNIX 環境の場合は、フラット ファイルはバイナリ ファイルであり、ディレクトリ構造は Windows 環境の構造とは異なります。

ガイドライン

エクスポート/インポート処理を円滑に行うために、Microsoft Windows ベースのファイル システムを使用して、パスとファイル名を指定してください (Microsoft Project は Windows 環境で最適に動作するため)。

その他の設定には、MS Project へのエクスポート プログラムと MS Project からのインポート プログラムの処理オプションで、一貫性を保つためのワークステーション上のデータ フォーマットの設定などがあります。

第 4 章

プロジェクトの立ち上げ

この章では、プロジェクトの立ち上げ処理の概要と以下の方法について説明します。

- プロジェクトの作成
- プロジェクト タスクの利用
- プロジェクト タスクのスケジューリング
- 見積および提案の生成

プロジェクトの立ち上げ処理について

プロジェクトの立ち上げは、大規模な受注設計生産または受注生産のアクティビティの開始フェーズです。顧客の特殊な要件に応じて製品を生産する業種では、最終製品で顧客の要件を全て満たすことができるように、プロジェクト管理の慣習に従います。このようなプロジェクトでは、期間が 1 年以上に及ぶため、立ち上げフェーズでプロジェクトに必要な情報を分かりやすく正確に入力する必要があります。

受注設計生産を実行する環境の場合、通常は顧客から特定の製品の見積要求を受けたときのみプロジェクトを立ち上げます。顧客から見積要求が送られてきたら、見積に必要な情報を準備するために、以下のアクティビティを実行します。

- プロジェクトの作成
- フェーズおよびタスクの概要の定義
- 見積スケジュールの確定
- 見積原価の計算
- 価格の確定と提案の生成

これらのアクティビティの目的は、見積を受け入れるか却下するかを決めるための十分な情報を顧客に提供することです。顧客からの質問や要件に応えるために、プロジェクト立ち上げのアクティビティには繰り返すものもあります。プロジェクト立ち上げフェーズでは、顧客が見積を受け入れてから実際にプロジェクトのタスクを計画して作業を開始するタイミングを決定します。

プロジェクトの作成

このセクションでは、プロジェクトの作成の概要および以下の方法について説明します。

- プロジェクト ワークベンチ プログラム (P31P001) の処理オプションの設定
- プロジェクトの作成

- プロジェクト情報の検討

プロジェクトの作成について

生産を提案する製品の見積情報を顧客から要求された場合、第 1 段階としてプロジェクトを設定します。プロジェクトの作成にはいくつかの方法があります。プロジェクトの追加/改訂プログラム (P31P011) を使用して新規プロジェクトを作成するか、または既存のプロジェクトをコピーして、プロジェクトの見出し情報を適宜変更することもできます。一般的なプロジェクト情報を全て定義したら、タスクおよびスケジュール情報、金額の見積を追加します。この重要な情報が、プロジェクトに必要なアクティビティや、実行した場合に発生する原価を把握する手がかりとなります。この情報がないと、プロジェクトで利益をあげるための現実的な見積を顧客に提供するのが困難な場合があります。

注: 新規のプロジェクトを作成するためにプロジェクトをコピーすると、プロジェクトに関連付けられたタスクの情報もコピーされます。ただし、タスクの従属関係はコピーされません。

プロジェクトのレコードは、F4801 テーブルに保管されます。新規のプロジェクトを設定する場合、以下の必須情報を入力します。

- プロジェクトの記述
- 事業所
- オーダー タイプ
- 予定開始日付
- 予定完了日付

[プロジェクトの追加/改訂] フォームの [プロジェクト情報] タブでは、ビジネスユニットや顧客番号などの補足情報を追加できます。事業所の値は、ビジネスユニットを入力しなかった場合のデフォルトとなります。受注設計生産を作業原価システムと併用する場合、事業所とは異なるビジネスユニットを入力できます。システムにないビジネスユニットを入力し、[作業原価インターフェイス] オプションをオンにした場合、追加作業マスター テーブル (F5108) に新しいレコードを追加できます。プロジェクト見積プログラム (P31P100) から販売見積を生成するには、顧客番号が必要です。顧客番号を使用して、税率などの原価情報を読み込むことも可能です。

[担当者] タブで、管理者や監督者など、プロジェクトにかかわる人物の情報を入力し、状況の変更通知やプロジェクトの警告用に電子メール配布リストを指定することもできます。

[プロジェクト属性] タブには、重要な処理情報が含まれます。プロジェクトの見積承認の前と後のどちらのタイミングで在庫を引き当てるかを確定できます。プロジェクトが実際に進行するまでは在庫を引き当てず、会計上のコミットメントも作成しないようにできます。また、タスクに部品リストと作業工程指示を添付した後で、最初に入力した見積原価を計画原価で一時変更するかどうかも指定できます。

受注設計生産の作業原価機能を使用する場合、[作業原価] タブで [作業原価インターフェイス] オプションをオンにして、元帳クラス コードを入力する必要があります。タスクごとに補助科目が必要です。作業原価システムは計画原価のみを使用するため、作業原価を使用する前に、プロジェクトを “見積承認” 状況にする必要があります。

[プロジェクトの追加/改訂] フォームの [プロジェクト状況] タブには、プロジェクトの段階についての情報が表示されます。各段階を完了すると、[見積が承認済み] など、対応するオプションがオンになります。このタブのオプションは参照用で、ユーザーが入力できないようにロックされています。

[オーダー情報] タブでは、品目番号、数量、および計量単位などのオーダー情報を指定できます。[受注オーダー] タブでは、プロジェクトの請求方法を指定できます。このプログラムでは、レポート用のカテゴリ コードも必要に応じて使用できます。

プロジェクト情報を保存する際の技術的考慮事項

プロジェクト ワークベンチ プログラム (P31P001) を使用すると、プロジェクト情報の追加および変更が行えます。[OK] をクリックせずにプロジェクト ワークベンチ プログラムを閉じると、追加または変更した情報が保存されません。システムのパフォーマンスを向上させるために、情報はキャッシュに保存されません。ただし、データがキャッシュにある限り、該当するテーブルに情報が保存されません。プロジェクトの情報を保存するには、プロジェクト ワークベンチ プログラムを閉じる前に [OK] をクリックしてください。

プロジェクトの作成に使用するフォーム

フォーム名	フォーム ID	ナビゲーション	用途
[プロジェクトの処理]	W31P001B	[プロジェクト・ワークベンチ](G31P12)、[プロジェクト・ワークベンチ]	既存のプロジェクトの検討、プロジェクトのコピー、およびプロジェクトの改訂を行います。
[プロジェクトの追加/改訂]	W31P011A	[プロジェクトの処理] フォームの [ロー] メニューから [プロジェクト属性] を選択します。	プロジェクト見出し情報を定義します。
[プロジェクト照会]	W31P001F	[プロジェクトの処理] フォームでプロジェクトを選択し、[ロー] メニューから [プロジェクト照会] を選択します。	プロジェクトの作業階層構造を検討します。

プロジェクト ワークベンチ (P31P001) の処理オプションの設定

以下の処理オプションでは、プロジェクト ワークベンチ プログラムのデフォルト処理を制御します。

デフォルト

以下の処理オプションでは、オーダー タイプ、タスク、およびプロジェクト状況のデフォルト値を制御します。

1. **デフォルトのオーダー タイプを入力してください。** プロジェクト ワークベンチで新規タスクを作成するときに、デフォルト値として使用されるオーダー タイプを指定します。
2. **新規タスクの開始状況を入力してください。** 非コンフィギュレーション品目の新規タスクを作成するときに、デフォルト値として使用される開始状況を指定します。
3. **コンフィギュレーション タスクの開始状況を入力してください。** コンフィギュレーション オーダーの新規タスクを作成するときに、デフォルト値として使用される開始状況を指定します。
4. **表示するデフォルトのプロジェクト開始状況を入力してください。** [プロジェクト処理] フォームの [開始状況] フィールドのデフォルト値を指定します。
5. **表示するデフォルトのプロジェクト終了状況を入力してください。** [プロジェクト処理] フォームの [終了状況] フィールドのデフォルト値を指定します。

バージョン

以下の処理オプションでは、プロジェクト ワークベンチ プログラムから他のプログラムを呼び出した時に使用されるバージョンを制御します。以下の表では、[バージョン] タブに表示される順序で、プログラムとそのデフォルト バージョンがリストされています。この処理オプションをブランクにすると、デフォルト バージョンが使用されます。ビジネス プロセスに基づいて、別のバージョンを定義することもできます。

1. 製造作業オーダー入力 (P48013)	ZJDE0001
2. サービス作業オーダー入力 (P17714)	ZJDE0001
3. サービス作業オーダー入力 (P17714)	ZJDE0001
4. コンフィギュレータ (P32942)	ZJDE0001
5. 作業オーダー部品リスト (P3111)	ZJDE0001
6. 製造作業オーダーの作業工程 (P3112)	ZJDE0001
7. 設備作業オーダー部品リスト (P17730)	ZJDE0002
8. 設備作業オーダー労務詳細 (P17732)	ZJDE0002
9. サービス作業オーダーの部品リスト (R17730)	ZJDE0001
10. サービス作業オーダーの労務明細 (P17732)	ZJDE0001
11. 原価要素 (P30026)	ZJDE0001
12. プロジェクト見積 (P31P00)	ZJDE0001
13. 作業原価マスターの改訂 (P51006)	ZJDE0001
14. 作業原価予算のアップロード (R31P800)	ZJDE0001
15. 受注オーダー入力 (P4210)	ZJDE0001
16. 作業オーダー処理 (R31410)	ZJDE0001
17. プロジェクト締め切りアナライザ (R31P403)	ZJDE0001

18. 在庫出庫 (P31113)	ZJDE0001
19. 作業時間/作業量の入力/変更 (P311221)	ZJDE0001
20. 作業オーダーの完了 (P31114)	ZJDE0001
21. リソースの割り当て (P48331)	ZJDE0001
22. プロジェクト情報のエクスポート (R31P404)	ZJDE0001
23. プロジェクト情報のインポート (R31P801)	ZJDE0001
24. 正味変更 (R31430)	XJDE0001
25. 関連オーダー (P31P204)	ZJDE0001

処理

以下の処理オプションでは、プロジェクト ワークベンチ プログラムの処理に影響する設定を制御します。

- プロジェクト照会でのタスクの移動**

[プロジェクト照会] フォームで、ドラッグ アンド ドロップにより、別の親タスクにタスクを移動できるかどうかを指定します。有効値は以下のとおりです。

空白: タスクを移動できません。

1: タスクを移動できます。
- タスクの取消状況を入力してください。**

取り消されたタスクの状況を指定します。キャンセル タスク ロー エグジットを選択すると、選択されたタスクがこの状況に移動されます。この状況のタスクには、取り消し線が付きます。
- タスクの締め切り状況を入力してください。**

締め切られたタスクの状況を指定します。[プロジェクト・ワークベンチ] フォームで、[ロー] メニューから [タスクの締め切り] を選択すると、選択されたタスクがこの状況に移動されます。この状況のタスクには、取り消し線が付きます。
- 正味変更**

プロジェクト ワークベンチ プログラム (P31P001) を終了するときに、正味変更処理を実行するかどうかを指定します。部品リストおよび作業工程が添付されている作業オーダーにおいて、日付、数量、または計量単位などの情報を変更した場合、正味変更処理を実行する必要があります。[プロジェクト・ワークベンチ] フォームで [OK] をクリックすると、正味変更処理プログラム (R31430) が呼び出されます。有効値は以下のとおりです。

空白: 実行しません。

1: 実行します。

注: 部品リストおよび作業工程の情報を再計算するように、指定されたバージョンの製造作業オーダー入力プログラム (P48013) の [数量および日付] 処理オプションを設定してください。

コピー

以下の処理オプションでは、プロジェクト ワークベンチ プログラムのコピー機能を制御します。

- 1. 作業マスターの作成** プロジェクトを追加またはコピーするときに、作業マスター レコードを作成するかどうかを指定します。有効値は以下のとおりです。

1: 作成します。
空白: 作成しません。
- 2. 金額元帳タイプ** 更新する金額元帳タイプを指定します。空白の場合、JA 元帳が更新されます。更新される予算数量元帳タイプは、金額元帳タイプに基づいて、自動的に決定されます。たとえば、金額元帳タイプ JA に対応する予算数量元帳タイプは JU になります。
- 3. 非表示モードでのコピー** 勘定科目表のコピーを自動または対話形式のどちらで行うかを指定します。対話形式で勘定科目表をコピーする場合、フォーム エグジットを使用します。自動的に勘定科目表をコピーするよう指定した場合、作業マスター レコードが作成された後にコピーが行われます。作業にコピーする元のデータを定義する必要があります。有効値は以下のとおりです。

空白: 自動的にコピーされません。
1: コピーされます。
- 4. 作業のソースのコピー、
5. コピー元の作業、6. コピー元の勘定科目表** コピーする作業のデータ ソースを指定します。既存の勘定科目表からデータをコピーする場合、[コピー元の勘定科目表] 処理オプションに勘定科目表の名前を入力する必要があります。既存の作業からデータをコピーする場合、[コピー元の作業] 処理オプションに作業の名前を入力する必要があります。有効値は以下のとおりです。

1: 既存の勘定科目表から作業データをコピーします。
空白: 既存の作業から作業データをコピーします。
- 7. 当初予算のアップロード** 勘定科目表を非表示でコピーするときに、予算をコピーするかどうかを指定します。有効値は以下のとおりです。

空白: 予算をコピーしません。
1: 改訂予算をコピーします。
2: 当初予算をコピーします。
3: 改訂予算を当初予算にコピーします。
- 8. 補助科目の割り当て** [作業原価予算のロック] オプションを選択した場合に、当初予算を自動的にアップロードするかどうかを指定します。有効値は以下のとおりです。

空白: 手作業でアップロードします。
1: 自動的にアップロードします。
- 9. 新規プロジェクトのコストをコピー** 親タスクから全ての子タスクに補助科目を自動的に割り当てるかどうかを指定します。子タスク行の [補助科目] フィールドが空白の場合のみ、自動割り当てを使用できます。有効値は以下のとおりです。

空白: 自動的に割り当てません。
1: 自動的に割り当てます。

スケジュール

以下の処理オプションでは、プロジェクトのスケジュールを制御し、凍結作業オーダーの日付を修正可能にするかどうかを指定します。

- 1. リアルタイム スケジュールのモードを入力します。** プロジェクトに追加する、またはプロジェクト内で移動するタスクおよびサブタスクのリアルタイム スケジュールを有効にするかどうかを指定します。先行タスクのスケジュールが後続タスクのスケジュールに依存する場合、前進スケジューリングを使用できます。また、後続タスクのスケジュールが先行タスクのスケジュールに依存する場合、逆算スケジューリングを使用できます。有効値は以下のとおりです。
 - 0: リアルタイム スケジュールを有効にしません。
 - 1: 前進スケジューリングを有効にします。
 - 2: 逆算スケジューリングを有効にします。
- 2. 凍結した作業オーダー日付の修正** 凍結した作業オーダーの日付を修正できるようにするかどうかを指定します。有効値は以下のとおりです。
 - 空白: スケジュール機能では、作業オーダーの日付が調整されません。
 - 1: スケジュール機能では、必要に応じて、凍結した作業オーダーの日付が再スケジュールされます。

プロジェクトの作成

[プロジェクトの追加/改訂] フォームにアクセスします。

プロジェクト情報

[プロジェクト情報] タブを選択します。

プロジェクト・ワークベンチ - プロジェクトの追加/改訂

OK(O) キャンセル(L) フォーム(F) ツール(T)

プロジェクトNo. 598436

記述 Project 1

タブを選択: 1-プロジェクト情報

プロジェクト情報

事業所	EPMBP	EPM Branch Plant
ビジネスユニット	PC091604	TEST PROJECT COMMITS
顧客	376001	EPM Customer 1
状況	05	オーダー作成済み
オーダータイプ	ET	設計/オーダー

[プロジェクトの追加/改訂] フォーム : [プロジェクト情報] タブ

[事業所]

上位レベルのビジネスユニットを表すコードを入力します。このコードを使用して、下位に部署または作業（下位レベルのビジネスユニット）を持つ事業所を参照します。たとえば、以下のようになります。

Branch/Plant (MMCU)

Dept A (MCU)

Dept B (MCU)

Job 123 (MCU)

ビジネスユニット セキュリティは、上位レベルのビジネスユニットに基づきます。

[ビジネスユニット]

[ビジネスユニット] フィールドは、ビジネスユニットのデフォルト値です。作業原価システムを使用する場合、[ビジネスユニット] フィールドに作業番号を入力します。

[顧客]

プロジェクトの顧客の ID を入力します。

[状況]

プロジェクト状況を入力します。

[オーダー タイプ] プロジェクトを表す伝票タイプを識別するユーザー定義コード (00/DT) を入力します。

日付

[日付] タブを選択します。

[計画開始]、[計画終了] プロジェクトの計画日付範囲を入力します。

既存のプロジェクトをコピーして新規プロジェクトを作成した場合、このフィールドは空白になります。これらのフィールドに、プロジェクトの情報を入力する必要があります。

[実際開始]、[実際終了] プロジェクト見出しの [実際開始] および [実際終了] の日付フィールドは、プロジェクトの情報を基に更新されます。これは、タスクの実際開始/終了日付が、プロジェクトの実際開始/終了日付とまとめられるためです。

担当者

[担当者] タブを選択します。

[管理者] 管理者または計画担当者の住所番号を入力します。

[監督者] 監督者の住所番号を入力します。

[担当者] 作業の実行を割り当てられた担当者の住所番号を入力します。

[配布リスト] 親会社の住所番号を入力します。この番号は、特定の住所を親会社または所在地と関連付けるために使用されます。ここに入力した値は、住所組織構造マスター テーブル (F0150) で構造タイプが空白のレコードを更新します。住所録マスター テーブル (F0101) に設定されている住所番号のみ使用できます。

請負業者が働く作業現場

[組織構造タイプ] 住所録システムに独自の階層を持つ組織構造のタイプ (電子メールなど) を指定するには、ユーザー定義コード (01/TS) を入力します。

買掛管理システムに親/子関係を作成する場合は、この構造タイプを空白にしてください。

プロジェクト属性

[プロジェクト属性] タブを選択します。

プロジェクト・ワークベンチ - プロジェクトの追加/改訂

OK(O) キャンセル(L) フォーム(F) ツール(T)

プロジェクトNo. 598436

記述 Project 1

タブを選択: 4-プロジェクト属性

コミットメントのタイミング

見積一時変更フラグ

[プロジェクトの追加/改訂] フォーム : [プロジェクト属性] タブ

[コミットメントのタイミング] プロジェクト作業オーダーに部品リストを添付する場合、プロジェクトにおいて在庫を引き当てる段階を指定するには、このオプションをオンにします。このオプションをオンにすると、見積承認後に在庫を引き当てます。このオプションをオフにすると、見積承認前に在庫を引き当てます。

[見積一時変更フラグ] オーダーに部品リストおよび作業工程を添付する場合、見積原価を計画原価で上書きするかどうかを指定するには、このオプションをオンにします。

見積原価

[見積り原価] タブを選択します。

[資材]、[労務] プロジェクトレベルの資材および労務の原価見積を入力します。

重要: プロジェクトの見積原価を入力すると、これらの原価はプロジェクトの見出しレコードに保存され、作業階層構造 (WBS) の 1 行目に表示されます。[プロジェクト・ワークベンチ] フォームの下部にある集計フィールドを見ると、プロジェクト見出しで入力した原価が WBS からのその他プロジェクト原価に自動的に合算されたことがわかります。これらはその他プロジェクト原価がまとめられても一時変更されません。

[その他]	その他の見積原価を入力します。
[特殊数量]、[特殊金額]	プロジェクトレベルの特殊数量または特殊金額の概算を入力します。
[合計]	入力した各種原価から計算されたプロジェクトの原価合計が表示されます。

作業原価

[原価原価] タブを選択します。

[作業原価インターフェイス] プロジェクトに対して作業原価機能を使用できるようにする場合に選択します。

[活動コードの設定] 活動コードの任意入力を可能にする場合に選択します。

[プロジェクト元帳クラス・コード] 予算、コミットメント、および実績をプロジェクト勘定科目にアップロードするとき使用される元帳クラス勘定を識別するユーザー定義コード (41/9) を入力します。

[補助科目] 主科目の下の科目区分を入力します。補助科目は、取引レコードを主科目の下でさらに細分化します。

注: 任意勘定科目コードを使用して主科目コードを 6 桁にした場合は、6 桁全てを使用してください。たとえば、「000456」と入力する場合と「456」と入力する場合は異なります。「456」と入力すると、スペースが 3 つ追加されるため結果が異なります。

プロジェクト状況

[プロジェクト状況] タブを選択します。

このタブのフィールドは、プロジェクト状況に基づいて自動的に入力されます。このタブのフィールドは変更できません。以下のプロジェクト状況が表示されます。

- 見積が承認済み
- 作業原価予算アップロード・フラグ
- 作業原価予算のロック
- WBS のロック
- プロジェクト締め切り済み

オーダー情報

[オーダー情報] タブを選択します。

[品目No.] プロジェクトの品目番号を入力します。

[数量] このトランザクションの影響を受ける数量を入力します。

[タイプ] プロジェクトのオーダー タイプを入力します。

[優先度] プロジェクトの相対的優先度を示すユーザー定義コード (00/PR) を入力します。

[凍結コード] プロジェクトを凍結するかどうかを示すコードを入力します。有効値は以下のとおりです。

Y: オーダーを凍結します。

N: オーダーを凍結しません。これがデフォルト値です。

[このフェーズを出荷]

プロジェクト タスクの受注オーダー行を生成できるようにするかどうかを指定するには、このオプションを選択します。プロジェクト所要量計画で、プロジェクト固有の所要量を展開するときにこの値が使用されます。有効値は以下のとおりです。

ブランク: 生成しません。

1: 生成します。

カテゴリ

[カテゴリ] タブを選択します。

プロジェクトをさらに詳しく定義する場合、必要に応じて、カテゴリ コード フィールドを入力します。

受注オーダー

[受注オーダー] タブを選択します。

[プロジェクト請求方法] プロジェクトで使用する請求方法を指定します。有効値は以下のとおりです。

1: 受注管理

2: 契約請求

3: サービス請求

[オーダーNo.]、[オーダータイプ]、[オーダー会社] これらのフィールドには、受注管理システムで入力された受注オーダーの情報が表示されます。

プロジェクト情報の検討

[プロジェクト照会] フォームにアクセスします。

プロジェクト・ワークベンチ - プロジェクトの追加/改訂

選択(S) 検索(O) 閉じる(L) ツリーの制御 ツリーの展開 ロー(R) フォーム(F) ツール(T)

プロジェクトNo. 453122 EPM Job Cost Project ET

レコード 1 - 17

	記述	オーダー No.	事業所	オーダータイプ	作業オーダータイプ	作業オーダー状況	リソース割当て	完了%	順序 No.	出荷	計画開始
<input type="radio"/>	[-] EPM Job Cost Project	453122	M30	ET		05	0		1.000	0	2005/01/17
<input type="radio"/>	[-] Project Start	453131	M30	ET		05	0		2.000	0	2005/01/17
<input type="radio"/>	[-] Engineering Analysis	453190	M30	ET		05	0		3.000	0	2005/01/17
<input type="radio"/>	[-] Engineering	453149	M30	ET		05	0		4.000	0	2005/02/28
<input checked="" type="radio"/>	[-] Design Engineering	453202	M30	ET		05	0		5.000	0	2005/02/28
<input type="radio"/>	[-] Manufacturing Engineering	453211	M30	ET		05	0		6.000	0	2005/03/29
<input type="radio"/>	[-] Procurement	453157	M30	ET		05	0		7.000	0	2005/03/24
<input type="radio"/>	[-] Long LT Purchases	453229	M30	ET		05	0		8.000	0	2005/03/24
<input type="radio"/>	[-] Direct Shipment	453237	M30	ET		05	0		9.000	0	2005/06/21
<input type="radio"/>	[-] Contract Services	453245	M30	ET		05	0		10.000	0	2005/03/24
<input type="radio"/>	[-] Manufacturing	453165	M30	ET		05	0		11.000	0	2005/07/19

[プロジェクト照会] フォーム

プロジェクトは、そのプロジェクトに入力された全タスクを含むツリー階層構造として表示されます。処理オプションを設定していれば、タスクを移動することもできます。

[ツリーの展開] クリックすると、プロジェクトの全てのツリー ノードが展開されます。

プロジェクト タスクの利用

このセクションでは、プロジェクト タスクの概要と追加方法について説明します。

プロジェクト タスクについて

プロジェクトを設定し終わったら作業階層構造 (WBS) を作成します。WBS はプロジェクトで完了するタスクおよびサブタスクの階層構造を示します。また、プロジェクト スケジュールなど、プロジェクトの計画および実行を可能にする全ての明細情報を追加できます。処理には使用しない参照用のリソース情報も入力できます。最後に、顧客への見積を生成するための原価の見積を追加できます。

プロジェクト記述や事業所、計画開始日付および計画終了日付などプロジェクトの見出しレコードの設定が終わったら、プロジェクトを完了するために必要なステップとなる個々のタスクをプロジェクトに追加できます。プロジェクトを構成するタスクのグループを、作業階層構造 (WBS) といいます。WBS がロックされていなければタスクを追加できます。WBS をロックすると、プロジェクトの追加/改訂プログラム (P31P011) の [プロジェクト状況] の [WBSのロック] オプションがオンになります。

顧客への見積を準備する目的でプロジェクトを設定する際、概略または集計タスクのみを追加すると、プロジェクトの完了に必要なステップを識別できると同時にタスクに関連する原価も入力できます。この方法を使用すると、顧客から実際に受注する前に必要以上に労力を使うことなく見積金額を確定できます。ただし、ビジネスの要件や慣行によって、タスクを追加する段階やタスク構造の詳細レベルが決まります。プロジェクトへのタスクの追加方法は、追加のタイミングにかかわらず同じです。作業階層構造 (WBS) には、必要なだけ下位レベルを追加できます。タスクの入力時には、作業オーダー マスター テーブル (F4801) に各タスクのレコードが作成され、親の作業オーダー番号としてプロジェクト番号が割り当てられます。新規のタスクは、既存のプロジェクトからコピーするか、新しいタスク情報を入力して作成できます。タスクは WBS の中で移動したり、取り消すことも可能です。

ワークベンチの詳細グリッドにタスクを追加する際は、オーダー タイプを指定してください。設備保守管理またはサービス オーダーのタスクをプロジェクトに追加すると、このタスクがモデル作業オーダーとなります。モデル作業オーダーからは、割り当てられた設備保守管理オーダーまたはサービス オーダーが生成され、それらがプロジェクト ワークベンチ プログラム (P31P011) に読み込まれます。コンフィギュレーション作業オーダー (在庫タイプ C) を含むタスクを追加すると、プロジェクト ワークベンチ プログラムは、コンフィギュレーション品目仕様プログラム (P32942) を呼び出して品目のコンフィギュレーションを完了します。続いて、コンフィギュレーションに必要な新規の作業オーダーが全て作成され、子タスクとしてコンフィギュレーション品目に追加されます。

処理オプションを使用して、WBS に追加するタスクのデフォルト値を設定することもできます。たとえば、処理オプションにより、新しいタスクのオーダー タイプと開始状況のデフォルト値を設定できます。また、プロジェクトのツリーを自動的に展開して、タスクの階層を表示させるよう指定できます。

[プロジェクト・ワークベンチ] フォームで、タスクのコピー、移動、削除が行えます。既存のプロジェクトからタスクをコピーできます。タスクを移動するには、移動したいタスクを選択してから、移動先の親タスクを選択します。製造半組立品タスクを新しい親作業オーダーに移動できるのは、半組立品のタスク品目が親作業オーダーの部品リストの一部である場合のみです。

プロジェクト原価

プロジェクトの WBS を作成する上で重要な点は、プロジェクトの合計原価を計算できるように、各プロジェクトタスクに見積原価を割り当てることです。正確な原価の情報を入手することは、精度の高いプロジェクト予算を作成し、顧客に価格見積を提供するための必要条件です。受注設計生産では、見積、計画、予算、実績の原価をトラッキングします。

製造タスクの計画原価を入手するには、作業オーダーに対してオーダー処理プログラム (R31410) を実行することにより、作業オーダーに部品リストと作業工程指示を添付する必要があります。

注: オーダー処理プログラムは、個々の作業オーダーまたはプロジェクト全体に対して実行できます。この機能にアクセスするには、該当する [ロー] および [フォーム] メニュー オプションを使用してください。

参照: JD Edwards EnterpriseOne 製造現場管理 8.11 SP1 PeopleBook、「作業オーダーとレート スケジュールの使い方」、「作業オーダーおよびレート スケジュールの処理」

この時点でプロジェクトに在庫を割り当てずにこの処理を実行することにより、原価情報が得られるようプロジェクト属性で指定できます。最新の原価情報を入手するために、以前に入力した見積原価を計画原価で一時変更することも可能です。計画原価カラムではなく、見積原価カラムの情報から見積を作成する場合、以下の作業を実行する必要があります。

- プロジェクト属性で、該当するオプションを選択します。
- [プロジェクト・ワークベンチ] フォームの [ロー] メニューから該当するオプションを選択します。

[プロジェクト・ワークベンチ] フォームでは、実績原価の入力または変更は行えません。作業オーダーの時間入力プログラム (P311221) で労務費を入力するときなど、プロジェクトの進行に従って入力された原価データから実際の原価が更新されます。予算原価は、単一の [計画原価] カラムとして表示されます。プロジェクトワークベンチ プログラム (P31P001) で見積を受け入れると、合計見積原価がこのフィールドにコピーされます。プロジェクトの立ち上げフェーズで、見積原価と計画原価を設定して、プロジェクトの予算と見積を確定します。

これら全ての原価は、F4801 テーブルと作業オーダー マスター タグ テーブル (F4801T) に保存されます。

リソースとタスクの割り当て

プロジェクトワークベンチ プログラム (P31P001) を使用して、プロジェクト管理者は、WBS のタスクにリソースを入力できます。この機能を使用すると、プロジェクト管理者は、製造タスクおよびプロジェクトに割り当てられたリソースと、リソースの利用状況をトラッキングできます。一方、従業員は、自分に割り当てられたタスクや、タスクの開始日付および終了日付を参照できます。必要に応じてタスクに複数のリソースを割り当て、タスクを完了するのに必要な時間をカバーすることもできます。

リソースの割り当て情報と割り当ては、リソース割り当てプログラム (P48331) で設定します。リソースを割り当てた後、[プロジェクト・ワークベンチ] フォームで、[ロー] メニューから [リソース] オプションを選択すると、プロジェクトまたはタスクのレベルでリソースを検討できます。製造作業オーダーの場合は、作業オーダーの作業工程からリソースの割り当てプログラムにアクセスします。

プロジェクト タスクの処理に使用するフォーム

フォーム名	フォーム ID	ナビゲーション	用途
[プロジェクトの処理]	W31P001B	[プロジェクト・ワークベンチ] (G31P12)、[プロジェクト・ワークベンチ] [プロジェクトの処理] フォームで、フィルタフィールドに値を入力し、[検索] ボタンをクリックします。	既存のプロジェクトを確認したり、選択したりします。
[プロジェクト・ワークベンチ]	W31P001C	[プロジェクトの処理] フォームで、プロジェクトを選択します。	プロジェクトに個々のタスクを追加します。
[タスク追加情報]	W31P001D	[プロジェクト・ワークベンチ] フォームの [ロー] メニューから、[その他] の [追加情報] を選択します。	プロジェクトにカテゴリコード情報を追加します。

プロジェクト タスクの追加

[プロジェクト・ワークベンチ] フォームにアクセスします。

プロジェクト・ワークベンチ - プロジェクト・ワークベンチ

OK(O) 検索(S) 削除(D) キャンセル(L) フォーム(F) ロー(R) ツール(T)

プロジェクトNo. 453122 EPM Job Cost Project

レコード: 1 - 9 グリッドのカスタマイズ

記述	事業所	ビジネス ユニット	オーダー No.	オーダー * タイプ*	資源 割当て	作業オーダ- タイプ*	作業オーダ- 状況	完了 %	順序 No.
✓ EPM Job Cost Project	M30	JCEPM1	453122	ET	0		05		1.000
Project Start	M30	JCEPM1	453131	ET	0		05		2.000
Engineering	M30	JCEPM1	453149	ET	0		05		4.000
Procurement	M30	JCEPM1	453157	ET	0		05		7.000
Manufacturing	M30	JCEPM1	453165	ET	0		05		11.000
QA Review	M30	JCEPM1	453173	ET	0		05		13.000
Project Close	M30	JCEPM1	453181	ET	0		05		17.000
				ET					18.000
				ET					19.000

集計原価

見積 予算 計画 153,000.00 実績

[プロジェクト・ワークベンチ] フォーム

[オーダー タイプ]

プロジェクト タスクの作成に必要な最小限の情報が表示されます。

[補助科目]

作業原価を使用する場合、プロジェクト ワークベンチから作業原価システムに原価を正しくマッピングするために、このフィールドに情報を入力します。WBS に入力する補助科目の情報は、作業原価の勘定科目表の原価コードに関連します。

[事業所]、[ビジネスユニット]、[顧客 No.]、[管理者]、[監督者]、担当者

プロジェクト見出しに情報が入力されている場合、これらのフィールドに値が入力されます。

作業原価システムを使用する場合、ビジネスユニットのデフォルト値は作業マスター レコードの作業になります。

[期間]

集計タスクの期間を入力します。作業オーダーのタスクについては、品目の標準リードタイムを使用してタスクの期間が計算されます。

注: 標準リードタイムは、購買品目と製造品目で異なります。

購買品目の場合は、仕入先が購買オーダーを受け取ってから事業所に品目が到着するのに必要なカレンダー日数になります。

製造品目の場合は、全ての構成部品が入荷してから品目の製造または組み立てに必要な作業日数になります。

標準リードタイムは、事業所品目プログラムで手作業で入力するか、またはリードタイム積み上げプログラムを使用して計算できます。リードタイム積み上げプログラムを使用して標準リードタイムを計算するには、最初に事業所品目テーブル (F4102) の製造リードタイム数量フィールドに値を入力する必要があります。

[見積資材]、[見積労務]、[その他見積]、[見積特殊数量]、[見積特殊金額]

プロジェクトの見積原価を入力します。見積原価の入力方法は、集計タスクと製造作業オーダー タスクのどちらについて原価を入力するかによって異なります。

集計タスクの場合、製造原価が使用されないため、このフォームで原価を手作業で入力します。

作業オーダー タスクについても、見積原価を手作業で入力できます。ただし、作業オーダーの品目が標準原価品目（原価方式 07）であり、その品目に標準原価が存在する場合、これらの値をデフォルトとして使用できません。WBS で作業オーダー タスクを入力する際、利用可能な標準原価の値が見積原価フィールドに自動的に入力されます。プロジェクトに定義した原価の分類体系に応じて、原価のフィールドに原価が割り当てられます。

入力した原価は、フォーム下部にある [集計原価] グループ ボックスの [見積] フィールドに集計されます。

[計画資材]、[計画労務]、[計画その他]、[計画特殊数量]、[計画特殊金額]

計画原価を手作業で入力するか、またはオーダー処理プログラム (R31410) を実行してシステムにより計画原価を計算します。原価を手作業で入力してからオーダー処理プログラムを実行して部品リストと作業工程を作業オーダーに添付すると、その結果の原価情報によって [プロジェクト・ワークベンチ] フォームで入力した計画原価情報が上書きされます。

部品リストと作業工程を作業オーダーに添付して、最新の単位あたりの原価や労務、段取、機械稼働レートを読み込み、[プロジェクト・ワークベンチ] フォームの計画原価のフィールドに積み上げます。これらの単位あたりの原価とレートを、作業オーダー部品リスト (P3111) プログラムおよび作業オーダー作業工程指示 (P3112) プログラムで手作業で上書きできます。原価を変更すると、計画原価が更新されます。

見積を承認する段階で計画原価のフィールドがブランクの場合、見積原価のフィールドを基に計画原価のフィールドを更新できます。

さまざまなソースから入力または読み込んだ原価は、親オーダーのレベルに積み上げられます。これは、親が製造作業オーダーでも記述タスクの場合でも同じです。親レベルで入力した原価は、[集計原価] グループ ボックスの [計画] フィールドに集計されます。

[実際資材費]、[実際労務費]、[その他実費]、[実績特殊数量]、[実績特別金額]

これらのフィールドには、プロジェクトの実行によって生じる実績原価が表示されます。[プロジェクト・ワークベンチ] フォームでは、これらの値を変更できません。

プロジェクト タスクのスケジューリング

このセクションでは、プロジェクト タスクのスケジューリングの概要と以下の方法について説明します。

- タスク従属関係の定義
- タスクのスケジューリング

プロジェクト タスクのスケジューリングについて

特定の期間でプロジェクトを問題なく管理するには、プロジェクト管理者はプロジェクトを完了するのに必要な製品を購入または製造する時間を正確に反映したプロジェクトのスケジュールを作成する必要があります。また、スケジュールには、不可欠なスキルを持つリソースの利用状況からくる制限も反映させることが大切です。今日のビジネス環境では、効率的な時間とリソースの管理が非常に重要です。したがって、受注設計生産では、以下の操作を行えます。

- タスク従属関係やクリティカルパス、リソースの利用状況など、標準的なプロジェクトの制約を使用して、プロジェクトのスケジュールを作成します。
- 既存のタスクについて、Microsoft Project を使用して、期間や従属タスクなどのプロジェクトのタスク情報への変更を管理します。

プロジェクトの WBS にタスクを追加する際には、各タスクを完了するのに必要な時間を指定する必要があります。集計タスクの場合、期間を手作業で入力する必要があります。作業オーダーの場合、事業所品目プログラム (P41026) で品目に定義した標準リードタイムから期間が読み込まれます。この期間とシステムのスケジュール機能を使用して、タスクの開始および終了日付が計算されます。スケジュール機能を使用すると、サブタスクの期間が親の期間に積み上げられます。

タスクの従属関係を使用して、プロジェクト タスクの実行順序を指定します。使用できるタスクの従属関係タイプによって、重複するタスクをスケジュールすることができます。つまり、先に始まったタスク（先行タスク）が完了する前に、次のタスク（後続タスク）を開始できます。従属関係の他にも、遅延時間を使用してタスクの順序を構成できます。以下の 4 タイプのタスク従属関係を使用できます。

- 終了 - 開始 (FS) 後続タスクを開始する前に、先行タスクを完了する必要があります。たとえば、先行タスクにより生産される資材が後続タスクの製造処理に必要な場合、この従属タイプを使用できます。
- 終了 - 終了 (FF) 後続タスクを完了する前に、先行タスクを先に完了する必要があります。たとえば、先行タスクにより生産される資材が、後続タスクの製造処理の最終段階でのみ必要な場合、この従属タイプを使用できます。
- 開始 - 開始 (SS) 先行タスクは、後続タスクの開始より先に開始する必要があります。たとえば、設計および製造処理に常に変更を加えなければならない場合、この従属タイプを使用できます。この場合、先行タスクの設計仕様に最近加えた変更によって、後続タスクにも変更が発生します。
- 開始 - 終了 (SF) 後続タスクを完了する前に、先行タスクを開始する必要があります。

受注設計生産でタスクの従属関係を定義する際は、以下の規則に従う必要があります。

- 親タスク間には従属関係のリンクを設定できますが、親と関連する子タスクの間には設定できません。
- 親タスクとその親タスクに関連を持たない子タスクの間には、従属関係を作成できます。
- 既にリンクの付いているタスク同士に、逆方向のリンクを作成することはできません。この規則によって、再帰的な関係を防ぐことができます。

同じレベルのサブタスクについてタスク従属関係を定義します。この場合、計画開始日付および計画終了日付は、定義したタスク従属関係にのみ依存します。

前進スケジューリングにより、プロジェクト マネージャはある開始日付からタスクをスケジュールすることができます。前進スケジューリングでは、期間と従属タスクに応じてタスクをスケジュールします。これにより、各タスクは最も早い開始日付にスタートします。各タスクが最も早い開始日付に始まるため、“プロジェクト フロート”という状況が発生します。プロジェクト フロートが発生すると、プロジェクト マネージャがプロジェクトの条件に応じて、タスクの開始日付を決定する権限を持ちます。

逆算スケジューリングに基づいて作業オーダーの推奨開始日付のメッセージを生成する所要量計画は通常、プロジェクト ワークベンチ プログラムの逆算スケジューリング機能によって作成された日付と一致します。逆算スケジューリングでは、プロジェクト マネージャがプロジェクトの完了日付を入力し、逆算して開始日付を決定します。

前進および逆算スケジューリングのどちらの場合も、プロジェクト ワークベンチ プログラムでは、各タスクに設定したタスク従属性を使用して正しい開始/終了日付を提示します。

処理オプションを設定して、リアルタイムで自動的にスケジュールを前進または逆算したり、[フォーム] メニューのオプションを使用して前進や逆算処理が行えます。タスクの日付や期間を変更すると、そのタスクの従属タスクが全て再スケジュールされます。

プロジェクト ワークベンチ プログラム (P31P001) でプロジェクトの情報を設定したら、Microsoft Project などサードパーティのソフトウェアに WBS をエクスポートできます。タスクの期間および従属関係を、Microsoft Project を使用して処理できます。タスクの改訂は、プロジェクト ワークベンチ プログラムにインポートできます。Microsoft Project でタスクを追加したり削除すると、これらの変更はプロジェクト ワークベンチ プログラムにはインポートできません。

関連項目:

JD Edwards EnterpriseOne 製造現場管理 8.11 SP1 PeopleBook、「作業オーダーとレート スケジュールの使い方」、「作業オーダーの逆算スケジュールについて」

第 3 章、「受注設計生産の設定」、「ETO と Microsoft Project の統合」、19 ページ

事前設定

このセクションで説明されているタスクを実行するには、以下の点を確認してください。

- スケジュールする全タスクが WBS に含まれており、全てのタスクに期間が割り当て済みであること。
- 処理オプションが、自動的に計算されるスケジュールのタイプに設定されていること。この処理オプションを設定しない場合、プロジェクト ワークベンチ プログラム (P31P001) のスケジューリング機能を使用する必要があります。

プロジェクト タスクのスケジューリングに使用するフォーム

フォーム名	フォーム ID	ナビゲーション	用途
[タスクの従属関係]	W31P001G	[プロジェクト・ワークベンチ] フォームの [フォーム] メニューから [従属関係] を選択します。	タスク従属関係を定義します。
[プロジェクト・ワークベンチ]	W31P001C	[プロジェクトの処理] フォームで、プロジェクトを選択します。	[フォーム] メニューの逆算および前進スケジューリング オプションを使用して、WBS に入力したタスクをスケジュールします。

タスク従属関係の定義

[タスクの従属関係] フォームにアクセスします。

プロジェクト・ワークベンチ - タスクの従属関係

OK(O) 検索(F) 削除(D) キャンセル(L) ツール(T)

先行タスクNo. * プロジェクトNo. 452576
 後続タスクNo. * 依存タイプ *

レコード 1 - 8 グリッドのカスタマイズ

<input type="checkbox"/>	先行タスク No.	先行タスク 記述	後続タスク No.	後続タスク 記述	依存タイプ	遅延時間	記述テキスト
<input type="radio"/>	452584	Project Start	452592	Engineering	FS	5-	
<input type="radio"/>	452592	Engineering	452605	Procurement	SS	15	
<input type="radio"/>	452605	Procurement	452613	Manufacturing	FS	10-	
<input type="radio"/>	452613	Manufacturing	452621	QA Review	FS		
<input type="radio"/>	452621	QA Review	452630	Project Close	FS		
<input type="radio"/>	452656	Design Engineering	452664	Manufacturing Engineering	SS	15	
<input type="radio"/>							
<input type="radio"/>							

[タスクの従属関係] フォーム

- [先行タスク No.]** 先行タスクの番号を入力します。
- [後続タスク No.]** 入力した先行タスクと従属関係を持たせるタスクの番号を入力します。
- [依存関係タイプ]** タスクの実行順序を指定する従属タイプを入力します。有効値は以下のとおりです。
- FF: 終了 - 終了
 - FS: 終了 - 開始
 - SF: 開始 - 終了
 - SS: 開始 - 開始
- これらの値は、従属タイプ UDC (31P/DT) に保存されます。
- [遅延時間]** 従属関係のタスク間にスケジュールされる時間を入力します。遅延時間の計算方法に従って、入力する値は、絶対時間または先行タスクと後続タスクのいずれかの比率を表します。

プロジェクト タスクのスケジュールリング

[プロジェクト・ワークベンチ] フォームにアクセスします。

タスクをスケジュールするには、次の手順に従います。

- [フォーム] メニューから [スケジュール] を選択し、[前進スケジュール] または [逆算スケジュール] を選択します。
- 詳細グリッドで、調整済みの計画開始日付および計画終了日付を検討します。
日付の調整は定義した従属関係と各タスクの期間によって異なります。

スケジュールの処理オプションで、スケジュール タスクをリアルタイムで前進または逆算するよう設定した場合、日付または期間を変更すると、影響を受けるタスクの計画開始日付および計画終了日付が自動的に調整されます。

重要: 前進スケジューリングを使用すると、タスクの期間を考慮するために当初の計画終了日付が変更されることがあります。逆算スケジューリングに切り替える場合は、当初の計画終了日付をリセットする必要があります。こうしないと、新しい計画終了日付を使用してタスクのスケジュールが逆算されます。

見積および提案の生成

このセクションでは、見積および提案の生成処理の概要と以下の方法について説明します。

- プロジェクト見積 (P31P100) の処理オプションの設定
- プロジェクトの見積の作成

見積および提案の生成処理について

プロジェクト ワークベンチ プログラム (P31P001) でプロジェクトを作成してタスクと原価の情報を追加したら、プロジェクト見積プログラム (P31P100) を使用して、詳細かつ体系化された見積を作成できます。この見積は、顧客の承認用に提示できます。顧客が見積を承認したら、プロジェクトの作業を開始できます。顧客が変更を要求した場合、必要な回数だけ見積の情報を改訂できます。顧客に複数の見積を送ることもできます。たとえば、原価の金額を改訂したり、特定の行を計算に含めるかどうかを指定することができます。要件が満たされて顧客からプロジェクトを続行する最終的な承認が得られるまで、見積バージョンを顧客に繰り返し提出できます。要求された変更がプロジェクトへのタスクの追加や削除を含む場合、[プロジェクト・ワークベンチ] フォームで変更して、WBS から新しい見積を作成する必要があります。

ETO 見積生成用のプログラムを使用すれば、プロジェクトの WBS の各タスクに関連付けられた見積原価または計画原価を基準にして、見積を作成できます。プロジェクト ワークベンチ プログラムから見積プログラムへ、WBS をインポートできます。この目的は、十分な情報を持つ見積を作成し、顧客がそれに基づいて決定を下せるようにすることです。通常は、プロジェクト ワークベンチ プログラムの原価情報は、詳細レベルに応じて変わります。詳細な情報が多すぎることや、有効な見積として十分な詳細情報が含まれていない場合もあります。顧客への提示に表示させるタスク情報を、WBS から選択することができます。原価の見積よりも実際の作業に関連する明細情報を省略すると、見積を簡略化できます。反対に、詳しい製造原価の内訳や各行品目に適用されるマージンが必要な場合もあります。見積プログラムでは、個々のタスクの見積金額を小計と合計にまとめることもできます。それにより、顧客がプロジェクトの原価をより良く理解できるようになります。

見積処理では顧客とのやりとりを繰り返すこともあります。設計や価格の変更に関係なく、見積に変更を加える際は、変更のトラッキングが可能なように新しい見積のバージョンを作成します。見積バージョンは、プロジェクト見積明細テーブル (F31P11) に保存されます。最後に、見積情報を使用して、顧客に送付する見積文書を生成します。E ビジネス プロセスを使用する場合は、オンライン提案プログラム (P31P101) を使用すれば、顧客と Web を通してやりとりができます。

顧客が見積を承認したら、プロジェクト ワークベンチ プログラムでもその旨を記録する必要があります。[プロジェクト・ワークベンチ] フォームで、[フォーム] メニューから [見積承認] を選択することにより、手作業でプロジェクトを“見積承認”状況に移動できます。プロジェクト ワークベンチ プログラムで見積を承認したら、プロジェクトのプランニング フェーズを開始できます。

見積状況の情報を提供するために、電子メール通信メカニズムが用意されています。処理オプションを設定することにより、見積の状況が変わったときに管理者に自動的に通知できます。また、プロジェクト用に電子メールの配布リストを定義して、見積について顧客に連絡がいくようにすることもできます。

プロジェクト状況コード

受注設計生産では、さまざまな見積バージョンの進捗をトラッキングできるように、以下のプロジェクト状況コード (UDC 31P/QP) が用意されています。

プロジェクト状況コード	説明
保留	見積を生成したときのデフォルト状況。この段階では、見積は顧客に送られていないため、たとえば営業担当者は見積を何回でも変更したり調整できます。この段階で営業担当者は新しい見積バージョンを作成できます。1つのプロジェクトで複数の見積バージョンを“保留”の状況にできます。営業担当者が見積から提案を作成して見込み客に送ると、見積は“アクティブ”の状況になり、顧客は提案文書にアクセスできるようになります。
アクティブ	<p>見積が顧客への販売提案を準備するのに十分であると判断したら、見積の状況を“アクティブ”に変更できます。この状況では、顧客送付用の販売見積を生成できます。</p> <p>見積が検討のために顧客に送られたことを示します。当初の見積への変更を区別するために、見積の複数のバージョンにこの状況を割り当てることができます。新しいバージョンを作成しないでアクティブな見積に変更を加えると、変更のトラッキングが困難になります。複数の見積バージョンをアクティブな状況にして、顧客に送ることができます。顧客が区別できるように、同じ状況を持つ見積の各バージョンに違う名前を付けてください。この状況は、顧客が見積を検討中で交渉がまだ続いていることを意味します。顧客が見積を却下すると、作成者は見積の状況を“非アクティブ”に変更できます。</p>
非アクティブ	見積が無効なことを示す状況。非アクティブな見積は変更できません。これらは保存用です。見積を非アクティブにする理由を入力する必要があります。
現行	顧客が見積を承認したことを示す状況。1件のプロジェクトにつき1つの見積にだけこの状況を割り当てられます。見積がこの状況にあるときは、プロジェクトを再度協議する必要があるれば、新しい見積を作成できます。この場合、“現行”の見積の状況を“非アクティブ”に変更し、その理由を記録して新しい見積を生成してからアクティブにする必要があります。
完了	プロジェクトが完了または中止になり、締め切られたことを示す状況。見積がこの状況の場合、プロジェクトに新しい見積を作成したり、見積を変更することはできません。1件のプロジェクトにつき1つの見積にだけこの状況を割り当てられます。

オンライン見積および提案

ETO 見積では、見積をオンラインで顧客に直接送ることもできます。これにより、紙で提案を作成するステップを省略できます。状況がアクティブの見積を送付できます。EnterpriseOne のポータルで、オンライン提案プログラム (P31P101) にアクセスできるよう、顧客に一定のセキュリティを設定する必要があります。

顧客がプログラムを呼び出すと、全ての見積が表示されますが、各レコードの全てのフィールドは表示されません。たとえば、プロジェクト ワークベンチ プログラム (P31P001) からの当初の見積は非表示です。顧客は、見積を受け入れるか却下するかにより返答できます。顧客の返答をプロジェクト管理者など指定の担当者に伝えるには、ワークフロー システムが使用されます。また、回答を受け取った旨も顧客に通知されます。この処理は繰り返します。顧客が納得して見積を承認するまで、必要な全ての変更を入力できます。顧客から見積承認の連絡を受けたら、見積の状況を“現行”に変更し、プロジェクト ワークベンチ プログラムで、当該プロジェクトを“見積承認”状況に移動します。

事前設定

このセクションで説明されているタスクを実行するには、事前に以下の作業を行う必要があります。

- WBS に必須タスク、見積、スケジュール情報を入力したことを確認してください。
- プロジェクト見積プログラム (P31P100) の通知機能を利用する場合は、住所録システムの構造の改訂プログラム (P0150) を使用して電子メールの配布リストを設定します。

関連項目:

JD Edwards EnterpriseOne 住所録 8.11 SP1 PeopleBook、「親/子関係と組織構造の設定」、「親/子関係の設定」

見積の作成に使用するフォーム

フォーム名	フォーム ID	ナビゲーション	用途
[プロジェクト見積の処理]	W31P100B	[見積&提案] (G31P11)、[プロジェクト見積]	既存のプロジェクト見積を選択します。
[見積りの追加]	W31P100E	[プロジェクト見積の処理] フォームで、[プロジェクト No.] フィールドに値を入力し、[追加] ボタンをクリックします。	プロジェクト見積を追加し、見積金額が見積原価または計画原価のどちらに基づくかを決定します。
[プロジェクト見積の改訂]	W31P100C	[プロジェクト見積の処理] フォームで、フィルタフィールドを入力し、[検索] ボタンをクリックして、見積を選択します。	見積情報を改訂し、販売見積を生成します。

プロジェクト見積 (P31P100) の処理オプションの設定

以下の処理オプションでは、プロジェクト見積プログラムのデフォルト処理を制御します。

表示

これらの処理オプションでは、見積の計算に見積レコードを自動的に含めるかどうかや、表示方法、親タスクの見積金額を一時変更可能にするかどうかを指定します。

1. 改訂フォームへの自動入力

詳細グリッドの全ての見積明細行に対して、[プロジェクト見積の改訂] フォームの [見積計算用] カラムに選択値「1」を入力するかどうかを指定します。見積に含めたくない行を選択解除することもできます。この処理オプションをブランクにすると、見積に表示される明細行が自動選択されません。

2. ローの選択および販売見積行の作成

詳細グリッドの全ての見積明細行に対して、[プロジェクト見積の改訂] フォームの [ロー 表示] カラムに選択値「1」を入力するかどうかを指定します。見積に含めたくない行を選択解除することもできます。オンライン提案プログラム (P31P101) に計算された価格が存在する各選択行が表示され、各ローに対して販売見積行が作成されます。[合計計算の表示] オプションが有効になっている場合、見積合計金額が計算されます。

注: 親タスク行の金額は上書きできません。

この処理オプションをブランクにした場合、見積に含める各行に対して選択値を入力する必要があります。その際、どのレベルのタスクでも価格を上書きできますが、システムによって見積合計金額が計算されないことに注意してください。

3. 親の見積金額の一時変更

親タスクレベルで見積金額を上書きできるかどうかを指定します。有効値は以下のとおりです。

ブランク: 上書きできません。

1: 上書きできます。

デフォルト

以下の処理オプションでは、基本通貨として使用する通貨を指定します。

1. 基本通貨

ビジネスユニットと関連付けられていないプロジェクトでデフォルト値として使用する基本通貨を指定します。

処理

以下の処理オプションでは、見積の状況について通知を送る先を制御します。

1. 見積状況が「アクティブ」となった場合に管理者に通知する、2. 見積状況が「非アクティブ」となった場合に管理者に通知する、3. 見積状況が「最新」となった場合に管理者に通知する

見積状況が変わったときに、管理者に通知するかどうかを指定します。有効値は以下のとおりです。

ブランク: 通知しません。

1: 通知します。

4. 見積状況が「アクティブ」となった場合に管理者に通知する

見積状況が“アクティブ”に変わったときに、顧客に通知するかどうかを指定します。有効値は以下のとおりです。

0: 通知しません。

1: 通知します。

5. メーリングリスト、6. 組織構造タイプ

警告の配布リストを指定します。

バージョン

以下の処理オプションでは、プロジェクト見積プログラムから以下のプログラムを呼び出した時に使用されるバージョンを制御します。

1. 販売見積の入力 (P4210) 販売見積を生成するために実行する販売見積の入力プログラム (P4210) のバージョンを指定します。この処理オプションを空白にすると、バージョン ZJDE00018 が使用されます。
2. 生成伝票 (P00391) 提案の作成に使用する生成文書の改訂プログラム (P00391) のバージョンを指定します。この処理オプションを空白にすると、バージョン ZJDE0001 が使用されます。

プロジェクトの見積の作成

[プロジェクト見積の改訂] フォームにアクセスします。

見積計算用	ロー表示	順序 No.	オーダー記述	見積金額	一時変更用見積金額	マージン %	見積金額	詳細レベル	オーダー No.	オーダータイプ*
1	1	1.000	ACCEPT A QUOTE					1	602108	ET
1	1	2.000	TASK A	1,111.00	1,500.00	10.000	1,650.00	2	602116	ET
1	1	3.000	MFGITEM1					3	602141	WO
1	1	4.000	TASK B	2,222.00	2,500.00	20.000	3,000.00	2	602124	ET
1	1	5.000	TASK C	3,333.00	3,500.00	30.000	4,550.00	2	602132	ET

[プロジェクト見積の改訂] フォーム

プロジェクト情報

[プロジェクト情報] タブを選択します。

このタブには、見積を作成するプロジェクトに関する情報が表示されます。

[合計計算の表示]

プロジェクト見出しの [合計見積金額] フィールドに計算された見積合計を表示したい場合、このオプションをオンにします。

見積情報

[見積情報] タブを選択します。

プロジェクト見積 - プロジェクト見積の改訂

OK(O) キャンセル(L) フォーム(F) ツール(T)

プロジェクト情報 **見積情報** 関連販売見積 理由コード 担当者

見積バージョン: ACCEPTQUOT 見積状況: Q4 見積りが有効

見積記述: ACCEPT A QUOTE

記述2:

見積有効 - 開始: 2004/09/21 見積有効 - 終了: 2004/11/26

レコード 1-5 グリッドのカスタマイズ

	見積計算用	ロー表示	順序 No.	オーダー記述	見積金額	一時変更用見積金額	マージン %	見積金額	詳細レベル	オーダー No.	オーダータイプ
<input type="radio"/>	1	1	1.000	ACCEPT A QUOTE					1	602108	ET
<input type="radio"/>	1	1	2.000	TASK A	1,111.00	1,500.00	10.000	1,650.00	2	602116	ET
<input type="radio"/>	1	1	3.000	MFGITEM1					3	602141	WO
<input type="radio"/>	1	1	4.000	TASK B	2,222.00	2,500.00	20.000	3,000.00	2	602124	ET
<input checked="" type="radio"/>	1	1	5.000	TASK C	3,333.00	3,500.00	30.000	4,550.00	2	602132	ET

[プロジェクト見積の改訂] フォーム : [見積情報] タブ

[見積バージョン] 見積バージョンを一意に識別する値が表示されます。見積計算中に複数の見積バージョンが作成されますが、作成できるバージョンは 1 つだけです。

[見積有効 - 開始]、[見積有効 - 終了] 見積が有効である期間を入力します。デフォルト値は、現在のシステム日付です。

[一時変更用見積金額] このフィールドを使用して、計画原価または見積原価に基づく当初見積と異なる見積金額を入力します。このフィールドに値を入力すると、当初見積ではなくこの情報が見積金額の計算に使用されます。

[マージン%] 見積金額の計算時に見積を展開するパーセントを入力します。

[見積計算用] 見積生成プログラムの価格計算にそのローを含める場合、「1」を入力します。このフィールドを空白にすると、見積生成にそのローが含まれません。

[ロー表示] 販売見積を作成したいローに対して、「1」を入力します。
この選択は、オンライン提案プログラム (P31P101) に、計算された価格のローを表示するかどうかも指定します。

[見積状況] プロジェクト見積の状況を示すユーザー定義コード (31P/QP) を入力します。

関連販売見積

[関連販売見積] タブを選択します。

[関連オーダー No.] [フォーム] メニューから [見積の生成] を選択したときに生成した見積番号が表示されます。

作成した販売見積を検討するには、[フォーム] メニューから [販売見積] オプションを選択して、受注オーダー入力プログラム (P4210) にアクセスします。販売見積に含めるよう選択したプロジェクト見積の全ての行を確認できます。販売見積レコードは、プロジェクト見積プログラムで割り当てた行タイプに基づいて生成されます。

重要: 受注オーダー入力プログラムで見積を変更することも可能ですが、このプログラムではできるだけ変更しないでください。両方のプログラムで見積の情報が一致するように、変更にはプロジェクト見積プログラムのみを使用してください。プロジェクト見積プログラムからの見積金額は、常に販売見積の明細レコードの見積価格を一時変更します。

第 5 章

受注設計生産でのプロジェクト プランニングの利用

この章では、受注設計生産でのプロジェクト プランニングの概要、事前設定、および以下の方法について説明します。

- 作業原価予算へのプロジェクト予算のロード
- プロジェクト所要量計画 (PRP) の実行

ETO でのプロジェクト プランニングについて

一般的に、プロジェクトのプランニング フェーズは、顧客がプロジェクトの見積を承認して見積承認処理を実行してから始まります。プロジェクト プランニング フェーズには、プロジェクト情報を、プロジェクトの実行および統制フェーズにおいて実行される計画に変換するのに必要な全てのアクティビティが含まれます。プロジェクトの立ち上げフェーズでは、タスクや作業オーダー、スケジュール、リソース、予算の詳細な情報を準備できない場合もあります。プロジェクトのプランニング フェーズでは、プロジェクト管理者はプロジェクトの情報を詳細に定義できます。見積承認処理を実行する前後のどちらでも、プロジェクトタスクの取引を入力して会計および在庫管理上のコミットメントを実行できます。

注: 購買品目については、行タイプが設定されていて、伝票タイプがコミットメント伝票タイプ UDC (40/CT) に含まれていれば、会計上のコミットメントが自動作成されます。

製造作業オーダーについて会計上のコミットメントを作成するには、プロジェクトの [作業原価インターフェイス] オプションをオンにしてください。

作業原価の統合を使用する場合、[プロジェクト・ワークベンチ] フォームからのプロジェクトの計画原価が、見積承認処理中に作業原価の当初予算にアップロードされます。

WBS のタスク情報に応じて、MRP/MPS 所要量計画プログラム (R3482) を実行して、詳細メッセージを生成できます。このメッセージは、補充用の購買オーダーと作業オーダーを生成する際に使用します。部品リストの品目については購買オーダーを手入力できます。また、プロジェクトの製造作業オーダーによって消費されず、プロジェクトの一環として顧客に販売する品目の場合、購買オーダーも作成できます。

プロジェクト属性で [作業原価インターフェイス] オプションを選択して、見積承認処理を実行すると、プロジェクト情報を続けて定義および計画できます。[フォーム] メニューから [作業原価予算の凍結] を選択することにより、プロジェクトの次のステージに進むことができます。その結果、WBS からの計画金額が最終的に当初予算に読み込まれ、予算合計が凍結されます。

注: プロジェクトのアクティビティは繰り返しが非常に多いため、ここで説明した通りの順序で進むとは限りません。

事前設定

作業原価システムの機能を使用して製造作業オーダーに会計上のコミットメントを作成するには、プロジェクトの [作業原価インターフェイス] オプションを選択してください。

作業原価予算へのプロジェクト予算のロード

このセクションでは、作業原価予算へのアップロード処理の概要と以下の方法について説明します。

- 作業原価予算のアップロード (R31P800) の処理オプションの設定
- 作業原価予算のアップロード

作業原価予算のアップロード処理について

このプログラムは、プロジェクト ワークベンチ プログラム (P31P001) から作業原価システムに計画原価をアップロードする際に使用します。見積承認後にメニューからこのプログラムを呼び出し、作業原価予算のデータをプロジェクトの原価情報と同期させることができます。プロジェクトの 2 つのフェーズにおいて、プロジェクト ワークベンチ プログラムによって、このプログラムが自動的に実行されます。見積承認のフェーズでは、プロジェクトの計画原価が当初予算としてアップロードされます。原価予算の凍結フェーズでは、当初予算が最終的にアップロードされます (処理オプションで設定した場合)。作業原価予算をロックすると、作業原価予算のアップロード プログラム (R31P800) は、改訂のアップロードにしか使用できません。

作業原価予算のアップロード (R31P800) の処理オプションの設定

以下の処理オプションでは、作業原価予算のアップロード プログラムのデフォルト処理を制御します。

表示

以下の処理オプションは、レポートに表示される情報を制御します。

- | | |
|-------------------------|--|
| 1. 非アクティブ勘定科目の表示 | 勘定科目範囲の非アクティブ勘定科目を表示するかどうかを指定します。有効値は以下のとおりです。
ブランク: 表示しません。
1: 表示します。 |
|-------------------------|--|

編集

以下の処理オプションは、レポートに含める情報を制御します。

- | | |
|-------------------------|--|
| 1. デフォルトの原価コード範囲 | 勘定科目範囲の開始原価コード (補助科目) 勘定科目を表示するかどうかを指定します。ブランクにすると、全ての勘定科目が表示されます。
開始原価コード
終了原価コード |
| 2. デフォルトの原価タイプ範囲 | 勘定科目範囲の開始原価タイプ (主科目) 勘定科目を表示するかどうかを指定します。
開始原価タイプ |

終了原価タイプ

3. 勘定科目詳細レベル (3 - 9) の最小値を指定してください。

総勘定元帳の勘定科目を集計して分類するための勘定科目の最も詳細なレベルを指定します。最も詳細度が高いのがレベル 9 で、最も詳細度が低いのがレベル 1 です。レベル 1 と 2 は会社とビジネスユニットの合計用に予約されています。レベル 8 と 9 は、作業原価システムの作業原価転記勘定用に予約されています。

処理

以下の処理オプションは、予算情報の処理方法を指定します。

1. モード

プログラムをテスト モードと最終モードのどちらで実行するかを指定します。プログラムをテスト モードで実行すると、レポートが生成されますがテーブルは更新されません。有効値は以下のとおりです。

1: 最終モード

空白: テスト モード

2. 予算金額元帳タイプ

更新する予算金額元帳タイプを指定します。この処理オプションを空白にすると、元帳タイプ "JA" が自動的に更新されます。

3. 作業原価の改訂で元帳日付の編集をバイパス

元帳日付の編集を省略するかどうかを指定します。元帳日付がシステムによって編集されない場合、エラー メッセージや警告を受け取ることなく、より早いまたは遅い元帳日付を入力できます。有効値は以下のとおりです。

空白: 省略しません。

1: 省略します。

4. 作業原価当初予算の更新

更新する年度を指定します。オプション 2 を選択するかまたは空白にする場合、F0902 レコードが存在しなければなりません。有効値は以下のとおりです。

1: 現行年度のみ更新します。

2: 全ての年度を更新します。

空白: 現行年度および将来年度を更新します。

5. 伝票タイプ

AAI テーブル 3130 (半組立品/完成品) のキーの一部として必要な伝票タイプを指定します。デフォルトの伝票タイプは IC (在庫完了) です。他のキー コンポーネント (会社、元帳クラス コード、オーダー タイプ) は、プロジェクトから取得されます。この AAI を使用して、作業原価のアップロードに必要な主科目を取得します。

監査証跡

以下の処理オプションは、予算改訂のアップロードを制御します。

1. 伝票タイプ

AAI テーブル 3130 (半組立品/完成品) のキーの一部として必要な伝票タイプを指定します。

2. 作業原価予算の監査証跡の作成

予算改訂を入力するときに作成される取引明細の明細レコード (F0911) を指定します。速度の制約がない限り、変更ごとに F0911 レコードを作成することをお勧めします。有効値は以下のとおりです。

空白: 期間が変わるごとに監査証跡レコードを作成します。

- 1: 変更ごとに監査証跡レコードを作成します。
 - 2: 監査証跡レコードを作成しません。
3. 参照番号 資産番号、仕入先番号、または伝票番号など、特定の取引の監査証跡を示す番号を入力します。
4. 一時変更の説明 記述、備考、説明、名前、または住所を入力します。

作業原価予算のアップロード

[定期処理] (G31P20) の [作業原価予算のアップロード] を選択します。

作業原価予算をアップロードして更新するには、AAI 3130 (半組立品/完成品) を使用します。この AAI は、プロジェクト ワークベンチ プログラムからの計画原価を、作業原価システムにマッピングします。

注: 処理オプションで指定した伝票タイプは、AAI の伝票タイプと一致する必要があります。

このバッチ プログラムを実行するには、プロジェクト属性の [作業原価インターフェイス] オプションを選択する必要があります。選択しないと、エラー メッセージが表示されます。このプログラムをテスト モードで実行して、作業原価予算と、プロジェクトに適用した変更とを比較することもできます。最終モードでこのプログラムを実行すると、作業原価テーブルが予算変更により更新されます。

プロジェクト所要量計画の実行

このセクションでは、プロジェクト所要量計画 (PRP) の概要、事前設定、および以下の方法について説明します。

- 複数事業所プロジェクト所要量計画の生成
- 複数事業所 PRP のメッセージの処理
- 複数事業所 PRP の需要/供給の検討

PRP について

プロジェクト所要量計画は、MRP/MPS 所要量計画プログラム (R3482) のオプションであり、プロジェクト品目の作成に使用する構成品の補充スケジュールを生成する際に使用します。

PRP では最終品目の供給として出荷可能なプロジェクトの品目を認識し、この供給を構成品の需要に反映させるために使用します。このようにして、プロジェクトの需要が自ら満たされます。

従属需要は、部品表または最終品目に関連付けられた部品リストによって生成されます。入荷確認または作業オーダー完了によって在庫したこれらのプロジェクトに固有の在庫は、プロジェクトの需要を満たす目的にのみ使用します。

プロジェクトの需要/供給は独立したものとして見なします。それにより、最終品目の予測や受注オーダー、作業オーダー、購買オーダーからの需要/供給が、プロジェクトの所要量に影響しません。

PRP に関する設定上の考慮事項

プロジェクトに対して MRP/MPS 所要量計画プログラムを実行してプロジェクトを計画するには、システムの設定を確認する必要があります。

品目マスター プログラム (P4101) で、プロジェクト固有の品目の在庫タイプを、特殊取扱コード P (プロジェクト) と定義します。PRP では、この在庫タイプを使用して、品目がプロジェクトに固有であることを指定します。

重要: 同じ事業所内で、1 つの品目をプロジェクト固有と標準の両方として識別することはできません。

複数レベル部品表の場合、品目をプロジェクト固有として識別すると、最終品目も含む階層ツリーの全ての親品目をプロジェクト固有にする必要があります。このように設定しないと、当初のオーダー所要量 (ペギング レコード) がリンクされません。

PRP では下位レベル コードを使用して、部品表構造での品目の最下位レベルを識別します。下位レベル コードを製造部品表に追加すると、品目に割り当てられます。品目は、製造部品表とプロジェクトの作業階層構造 (WBS) のどちらか、または両方に存在することができます。WBS は、部品表の構造に似ていますが部品表ではないため、プロジェクトで使用する際に品目の下位レベル コードを割り当てるには何らかの方法が必要です。正しい下位レベル コードを割り当てるには、処理オプションでプロジェクトの品目を考慮するよう設定して、部品表の構造分析プログラム (R30601) を実行してください。

PRP では [出荷] フィールドの値が 1 の場合に、WBS でプロジェクト固有の最終品目の供給を識別します。

注: 最初に WBS に最終品目を追加するときには、半組立品を WBS に追加しないようにしてください。PRP では、親の最終品目の供給作業オーダーを使用して、需要を半組立品および構成部品に展開します。作業オーダー メッセージを処理すると、プロジェクトに固有の半組立品が WBS 上で更新されます。

PRP に使用する需要/供給組込規則を設定することもできます。PRP で需要/供給組込規則を使用する際は、WBS の製造作業オーダーの状況を考慮してください。

PRP 生成

プロジェクトに対して MRP/MPS 所要量計画プログラムを実行すると、プロジェクトの補充スケジュールが生成されます。

システムが手持在庫を分配する際に、プロジェクトの需要には優先情報が加味されます。プロジェクト引当明細テーブル (F410211) には、プロジェクトに固有の在庫品目の明細レコードが保存されます。PRP ではこのテーブルを使用して、プロジェクトに割り当てるプロジェクト固有の在庫を確定します。

プロジェクトの供給または最終品目の在庫状況は、F4801T テーブルに保存されます。一般的な作業オーダーの場合と同じですが、プロジェクト番号が自動的に入力されます。

PRP 出力

プロジェクトに対する MRP/MPS 所要量計画プログラムの実行が成功したら、システムで出力情報を確認できます。

数量タイプ UDC テーブル (34/QT) には、プロジェクトの需要/供給に固有の以下の数量タイプがあります。

数量タイプ	説明	未調整/調整済み
+BAPU	プロジェクト開始残数(未調整)	未調整
+POPU	プロジェクト購買オーダー	未調整
+WOPU	プロジェクト作業オーダー	未調整
-FWOPU	プロジェクト確定作業オーダー	未調整

数量タイプ	説明	未調整/調整済み
+BAP	プロジェクト開始残数	調整
+IRP	プロジェクト入荷工程	調整
+POP	プロジェクト購買オーダー	調整
+WOP	プロジェクト作業オーダー	調整
-PWD	プロジェクト作業オーダーの需要	調整
-FWOP	プロジェクト確定作業オーダー	調整
-PWOP	プロジェクト計画作業オーダー	調整
-SOP	プロジェクト受注オーダー	調整

プロジェクトに固有の半組立品と構成品の計画メッセージには、プロジェクト番号および親の作業オーダー情報が含まれます。プロジェクト番号を使用して、メッセージ集計 (P3401) および MRP/MPS 詳細メッセージの改訂 (P3411) プログラムで、プロジェクトに固有の計画メッセージをフィルタできます。計画メッセージから作成された作業オーダーおよび購買オーダーには、プロジェクト番号が含まれます。

ペギング レコードを作成する際、PRP では MPS/MRP/DRP 需要テーブル (F3412) にプロジェクト番号が保存されます。これにより、プロジェクトからの所要量のソースを識別します。プロジェクトに対してペギングしたオーダーは、そのプロジェクトでのみ使用します。

MPS/MRP/DRP 集計テーブル (F3413) にはプロジェクト番号は含まれませんが、プロジェクト固有の数量タイプが RPR によって使用され、プロジェクト固有の数量が計算されて表示されます。

MRP/MPS 詳細メッセージの改訂プログラム (P3411) を使用して、システムによって生成されたメッセージを確認します。タイム フェイズは、数量タイプ IDP (プロジェクト事業所間需要) を使用して、供給事業所が満たすプロジェクト需要を表示します。この情報は、MPS タイム フェイズ プログラム (P3413) で確認できます。

プロジェクト固有の品目用の補充オーダー メッセージを生成したら、次に、メッセージを検討し、オーダー品目の供給事業所が必要事業所と異なる場合、それらを転送オーダーで処理します。

MRP/MPS 詳細メッセージの改訂 (P3411) プログラムでメッセージを検討するとき、プロジェクト番号によって表示をフィルタできます。また、その他のフィルタ オプションを使用して、特定のプロジェクトに関連するオーダー メッセージのみ表示して作業することもできます。このプログラムでは、メッセージを修正したり、転送オーダーを作成することによってメッセージに回答することができます。

需要/供給照会プログラム (P4021) には、プロジェクトの需要/供給を表示するための追加のカラムがあります。PRP を表示するには処理オプションを設定してください。需要/供給照会プログラム (P4021) を使用して、プロジェクトの在庫の現行状況を確認できます。補充転送オーダーを含む、プロジェクトの供給/需要は、[需要/供給の処理] フォームに個別に表示されます。プロジェクト供給は、プロジェクト需要を満たす目的にしか使用できません。プロジェクト需要は、プロジェクト供給を全て使い果たしてから、特定のプロジェクト専用でない一般供給を使用します。

複数事業所のプロジェクト所要量計画

一般に MRP などのプロジェクト所要量計画には、複数の事業所や施設が含まれています。WBS の作業オーダーの部品リストにリストされているプロジェクト固有の構成部品は、プロジェクトが実行されている工場以外の事業所に配置されている場合があります。その場合、事業所間の関係を定義することにより、他の事業所にあるプロジェクト固有の品目をプロジェクトの事業所にリンクする必要があります。

別の事業所から取得される構成部品は、購買品目として扱われます。供給事業所によって需要全体が満たされるよう指定するには、供給事業所のソース率が 100 パーセントになるように、事業所間関係を設定します。

基準計画スケジュール - 複数事業所プログラム (R3483) を実行すると、補充オーダーのメッセージが作成されます。これらのメッセージを処理すると、転送オーダーが作成されます。転送オーダーにより、供給事業所にある在庫が使用されて、構成部品のプロジェクト需要が満たされます。供給事業所で需要を満たす場合は、作業オーダーが作成されます。

事前設定

プロジェクト プランニングを使用するには、以下の作業を行います。

- 基準計画スケジュール - 複数事業所プログラム (R3483) のプロジェクト プランニングの処理オプションが、プロジェクト固有の品目の供給/需要を含むよう設定されていることを確認します。
- プロジェクト需要事業所と供給事業所間の事業所間関係を設定します。

関連項目:

JD Edwards EnterpriseOne 所要量計画 8.11 SP1 PeopleBook、「複数事業所計画の利用」

JD Edwards EnterpriseOne 所要量計画 8.11 SP1 PeopleBook、「所要量計画の設定」、「需給関係の設定」

JD Edwards EnterpriseOne 所要量計画 8.11 SP1 PeopleBook、「資材所要量の計画」、「MRP/MPS 詳細メッセージの処理 (R3411) の処理オプションの設定」

プロジェクト所要量計画の実行に使用するフォーム

フォーム名	フォーム ID	ナビゲーション	用途
[詳細メッセージの処理]	W3411D	[複数事業所計画の日次処理] (G3414)、[詳細メッセージの検討]	複数事業所 PRP のメッセージを検討します。
[詳細メッセージの改訂]	W3411B	[詳細メッセージの処理] フォームでメッセージを選択し、[ロー]メニューから [メッセージの改訂] を選択します。	複数事業所 PRP のメッセージを処理します。
[需要/供給の処理]	W4021B	[複数事業所計画の日次処理] (G3414)、[需要/供給照会]	複数事業所 PRP の需要/供給を検討します。

複数事業所プロジェクト所要量計画の生成

[複数事業所計画] (G3423) の [MRP再生成] を選択します。

受注設計生産プロジェクトでは、プロジェクト作業オーダーの部品リスト行により、構成品の需要が決まります。事業所間環境では、供給事業所が特定の構成品の需要を満たします。

基準計画スケジュール - 複数事業所プログラム (R3483) を実行すると、プロジェクトの供給と需要の相関関係がシステムによって認識され、部品リスト上の構成品の転送オーダー メッセージが作成されます。作成されたメッセージには、プロジェクト番号が含まれており、[ソース需要] フィールドのタスク番号により、作業階層構造 (WBS) のどの作業オーダーがプロジェクト補充メッセージを生成したかが示されます。

複数事業所 PRP のメッセージの処理

[詳細メッセージの改訂] フォームにアクセスします。

メッセージを処理するには、[ロー] メニューから [メッセージ処理] を選択します。生成されたオーダーを表示するには、[表示] メニューから [処理済みメッセージ] を選択します。

関連項目:

JD Edwards EnterpriseOne 所要量計画 8.11 SP1 PeopleBook、「複数事業所計画の利用」

複数事業所 PRP の需要/供給の検討

[需要/供給の処理] フォームにアクセスします。

[プロジェクト供給数量] 別の事業所のプロジェクト需要を満たすために作成した転送オーダーが表示されます。このフィールドは、このプログラムの ETO 機能を有効にした場合にグリッドに表示されます。

プロジェクトのオーダーの作成

このセクションでは、プロジェクトのオーダーの作成の概要および以下の方法について説明します。

- プロジェクトの資材の購買オーダーの入力
- プロジェクト ワークベンチ プログラムを使用した購買オーダー情報の入力
- 関連オーダー (P31P204) の処理オプションの設定
- プロジェクトの関連オーダーの作成
- プロジェクトへの既存の作業オーダーの添付
- 関連オーダーの原価更新

プロジェクトのオーダーの作成について

計画メッセージに対する回答で、プロジェクト固有の品目について補充オーダー (購買オーダーと作業オーダー) を生成できます。プロジェクトに固有の品目用に作成した半組立品の作業オーダーは、自動的に作業階層構造 (WBS) に組み込まれます。既存の作業オーダーをプロジェクトのタスクに添付することもできます。

ビジネス プロセスに応じて、特定の品目についてプロジェクトに固有の購買オーダーを部品リストから作成できます。購買オーダー プログラム (P4310) で購買オーダーを作成してから、作業オーダー部品リスト プログラム (P31P201) で購買オーダーを必要とする品目を検索することもできます。

プロジェクトの作業オーダーの資材購入に加えて、作業オーダーによって消費はされないがプロジェクトの成果物の一部として顧客に直接再販する品目を調達できます。

プロジェクトの資材の購買

製造処理の一環として、最終品目の生産に使用する原材料を購入する必要があります。受注設計生産では、原材料の購買オーダーの作成方法をいくつか用意しています。計画メッセージから作業オーダーを生成する方法の他に、作業オーダーの部品リストから購買オーダーを手作業で入力するか、または購買オーダー プログラムで直接入力することができます。

プロジェクトに固有の在庫品目の購買オーダーを入力すると、勘定残高テーブル (F0902) のコミットメント金額を更新することにより、購買オーダーに対して会計上のコミットメントが作成されます。同時に、購買オーダー入力時に製造の債務があれば、その債務は削除されます。プロジェクトについて作業原価インターフェイスのオプションをオンにしていれば、製造の債務のみが作成されます。最後に、購買オーダーの取引が購買明細実績テーブル (F43199) に記録されます。

見積が承認済みであれば、特定の作業オーダーについて [プロジェクト・ワークベンチ] フォームから作業オーダー部品リスト プログラム (P3111) を呼び出し、購買オーダー プログラムにアクセスできます。見積承認処理を実行する前に、購買オーダー プログラムで購買オーダーを直接入力し、作業オーダー部品リスト プログラム (P31P201) にアクセスして購買オーダーの品目を選択できます。

再販するプロジェクト品目の購買

プロジェクトの成果物には自社で製造しない品目を含めることもできます。この場合、その他のソースから品目を購入してプロジェクトの顧客に再販することになります。購入する品目は、製造作業オーダーが消費する構成品ではありません。これらは、仕入先から顧客に直接出荷します。これらを別の事業所から購買し、プロジェクトの事業所に移動することもできます。その他の方法として、プロジェクトのその他の成果物と共に顧客に送るまで、これらの品目を購入してプロジェクトに固有の在庫として保管しておくこともできます。

プロジェクト ワークベンチ プログラム (P31P001) では、記述 (または集計) タスクを使用して、プロジェクトに固有の購買品目を作成およびトラッキングします。直送オーダー、転送オーダー、受注オーダー、または購買オーダーなどの関連オーダーを全てトラッキングできます。

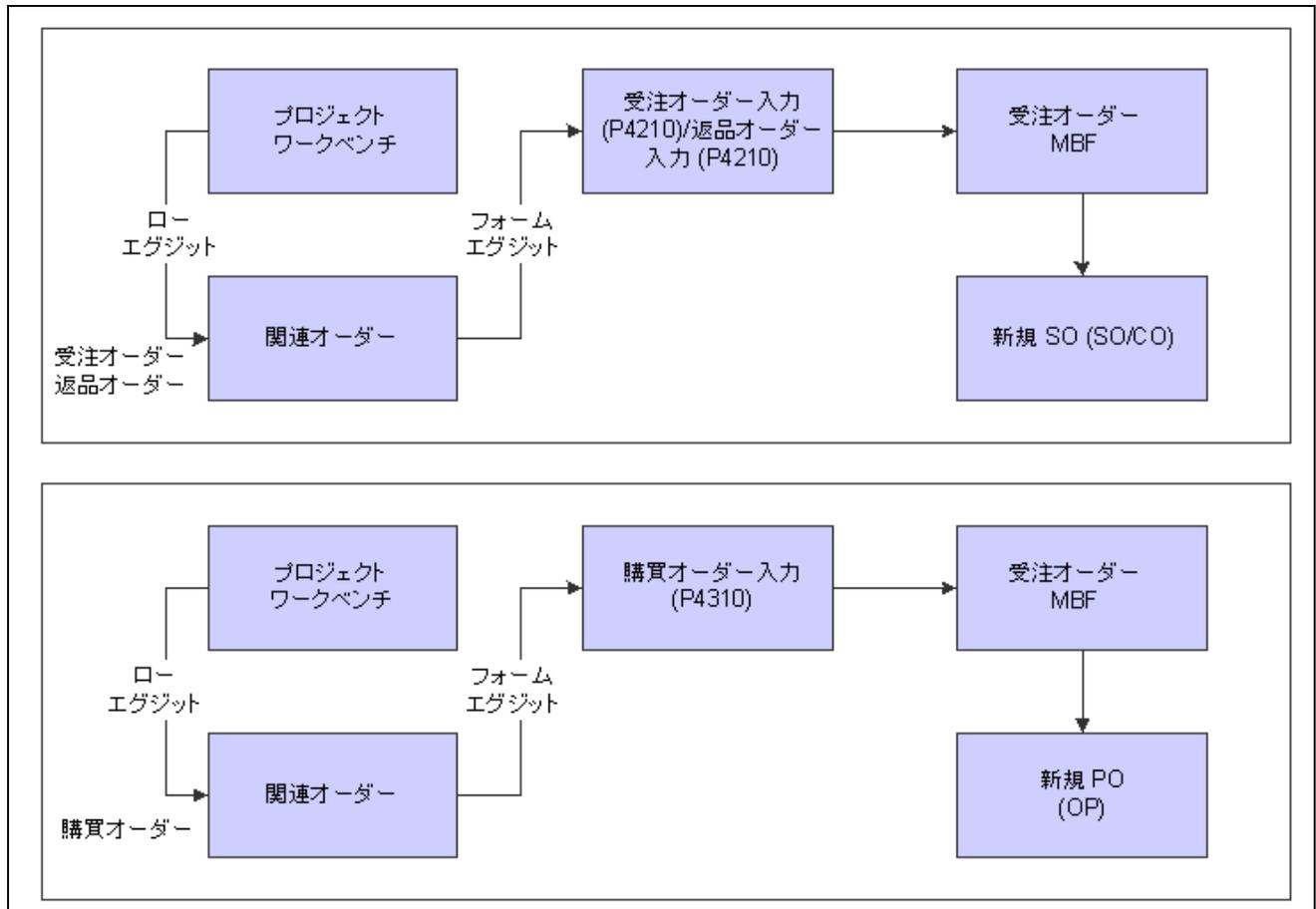
プロジェクトの記述タスクを関連オーダーに関連付けるために、オーダー情報が関連オーダー相互参照テーブル (F4080) に保存されます。このテーブルには、関連オーダーからの記述タスクのオーダー番号およびオーダー タイプ、伝票タイプや合計原価、オーダー状況 (参照のみ) などの明細情報が含まれます。

関連オーダー プログラム (P31P204) を使用して、プロジェクトの記述タスクの関連オーダーを作成およびトラッキングします。このプログラムは、プロジェクト ワークベンチ プログラムまたはメニューからアクセスできます。

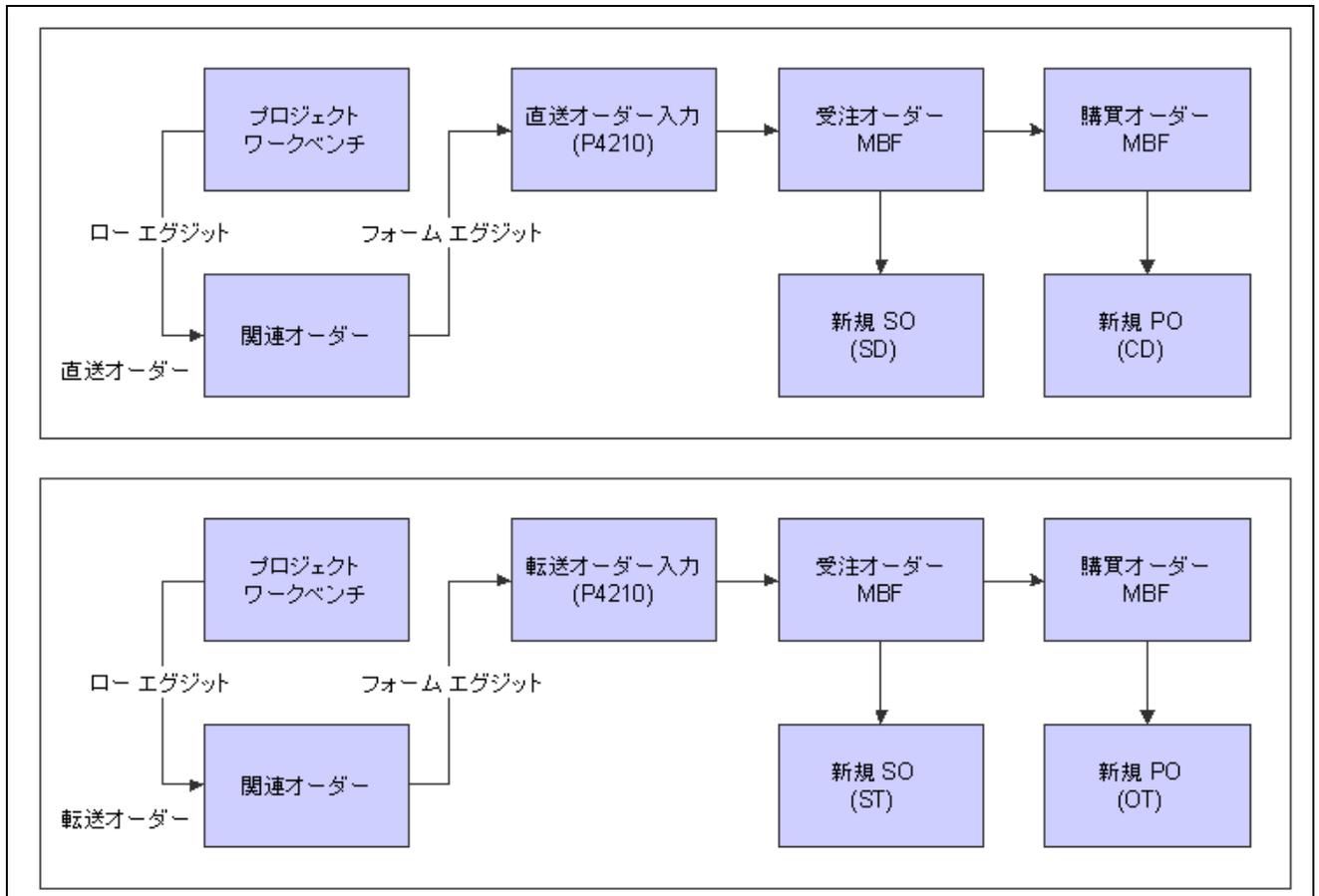
関連オーダーを作成するには、[関連オーダーの処理] フォームの見出しに、有効なプロジェクト番号、記述タスク オーダー番号、およびオーダー タイプが入力されている必要があります。直送や転送オーダー、受注オーダーの作成、返品オーダーの作成、購買オーダーの作成で使用するオーダー入力プログラムのバージョンにアクセスするには、[フォーム] メニューを使用します。プロジェクト番号は、受注オーダーや購買オーダー プログラムに渡されます。

関連オーダーを検討および改訂する際は、[ロー] メニューからオーダー入力プログラムを選択すると、オーダーの情報にアクセスできます。[関連オーダーの処理] フォームでは、全ての関連オーダーの固有の品目が、ツリー構造で表示されます。個々のオーダーは、詳細グリッドに表示されます。

次の図は、関連オーダー プログラムで作成されるさまざまなオーダー タイプのサイクルを示しています。



ETO の関連オーダー (1/2)



ETO の関連オーダー (2/2)

注: 関連オーダーが添付されている記述タスクは、全ての関連オーダーのオーダー活動状況が 999 (締め切り済み) でない限り、取り消したり締め切ることはできません。F4080 テーブルは、受注明細テーブル (F4211) および購買明細テーブル (F4311) からオーダー状況を読み込みます。

プロジェクトへの既存の作業オーダーの添付

受注設計生産では、既存の作業オーダーをプロジェクトに添付できます。既存の作業オーダーの検索は、[プロジェクト・ワークベンチ] フォームから実行できます。プロジェクトに添付する作業オーダーは、以下の条件を満たしている必要があります。

- 別のプロジェクトに含まれない。
- 作業オーダー部品リストの品目について出庫が実行されている。
- 作業オーダーの作業時間/作業量が転記されていない。
- 作業オーダーがコンフィギュレーション作業オーダーの場合、最上位の作業オーダーである。
作業オーダーの子も全て添付されます。

関連原価

関連オーダー費用の更新プログラム (R31P405) を使用して、プロジェクトの関連オーダーの計画原価および実際原価を更新し、それらを F4801T テーブルに転記します。

特定の記述タスクの計画原価と実際原価を累計するには、[関連オーダーの処理] フォームで [フォーム] メニューから [原価の累計] オプションを使用します。F4080 テーブルを使用して、以下のテーブルおよび計算により、オーダーの原価が選択されます。

原価	テーブル	フィールド
計画原価	購買明細 (F4311)	購買明細行の合計金額 (AEXP)
実際原価	入荷確認 (F43121)	照合タイプ 2 (伝票照合後) の購買明細行の累計支払金額 (APTD)

計算された計画原価および実際原価は、購買品目の資材費として作業オーダー マスター タグ テーブルに保存されます。

プロジェクトのオーダーの作成に使用するフォーム

フォーム名	フォーム ID	ナビゲーション	用途
[オーダー見出しの処理]	W4310I	[購買オーダー処理] (G43A11)、[購買オーダーの入力]	[オーダー明細] フォームにアクセスします。
[オーダー明細]	W4310A	[オーダー見出しの処理] フォームで、[追加] ボタンをクリックします。	プロジェクトの資材の購買オーダーを入力します。
[作業オーダー部品リストの処理]	W31P201B	[オーダー明細] フォームで、[ロー] メニューから [部品リスト] オプションを選択します。	構成部品を購入する作業オーダー行を選択します。
[プロジェクト・ワークベンチ]	W31P001C	[プロジェクト・ワークベンチ] (G31P12)、[プロジェクト・ワークベンチ] [プロジェクトの処理] フォームで、プロジェクトを選択します。	プロジェクトワークベンチを使用して購買オーダー情報を入力します。プロジェクトに既存の作業オーダーを添付します。
[関連オーダーの処理]	W31P204A	[プロジェクト・ワークベンチ] (G31P12)、[関連オーダー]	関連オーダー情報を検討し、オーダープログラムにアクセスして関連オーダーを作成します。

プロジェクトの資材の購買オーダーの入力

[オーダー明細] フォームにアクセスします。

必要な購買オーダー情報を入力します。

参照: JD Edwards EnterpriseOne 調達管理 8.11 SP1 PeopleBook、「購買オーダーの入力」

プロジェクトワークベンチ プログラムを使用した購買オーダー情報の入力

[プロジェクト・ワークベンチ] フォームにアクセスします。

プロジェクトワークベンチからプロジェクトの資材の購買オーダーを入力するには、次の手順に従います。

1. プロジェクトを選択し、[選択] をクリックします。
2. [プロジェクト・ワークベンチ] フォームで作業オーダーを選択し、[ロー] メニューから [製造タスク]、[製造部品リスト] オプションを選択します。
3. [作業オーダー部品リスト] フォームで、購買オーダーを作成するプロジェクト固有の部品を選択し、[ロー] メニューから [購買オーダー作成] を選択します。

注: 購買オーダーを作成する前に仕入先レコードが存在する必要があります。

購買オーダー情報 (オーダー番号、オーダー タイプ、行番号) が品目の部品リストの行に表示されます。

関連オーダー (P31P204) の処理オプションの設定

以下の処理オプションでは、関連オーダー プログラムのデフォルト処理を制御します。

バージョン

以下の処理オプションでは、関連オーダー プログラムから他のプログラムを呼び出した時に使用されるバージョンを制御します。

1. **直送オーダー (P4210)** [関連オーダーの処理] フォームの [ロー] メニューから [直送] オプションを選択したときに、使用される受注オーダー入力プログラム (P4210) のバージョンを指定します。この処理オプションを空白にすると、バージョン ZJDE0005 が使用されます。
2. **転送オーダー (P4210)** [関連オーダーの処理] フォームの [ロー] メニューから [転送オーダー] オプションを選択したときに、使用される受注オーダー入力プログラム (P4210) のバージョンを指定します。この処理オプションを空白にすると、バージョン ZJDE0007 が使用されます。
3. **受注オーダー (P4210)** [関連オーダーの処理] フォームの [ロー] メニューから [受注オーダー] オプションを選択したときに、使用される受注オーダー入力プログラム (P4210) のバージョンを指定します。この処理オプションを空白にすると、バージョン ZJDE0001 が使用されます。
4. **購買オーダー (P4310)** [関連オーダーの処理] フォームの [ロー] メニューから [購買オーダー] オプションを選択したときに、使用される購買オーダー プログラム (P4310) のバージョンを指定します。この処理オプションを空白にすると、バージョン ZJDE0030 が使用されます。
5. **返品オーダー (P4210)** [関連オーダーの処理] フォームの [ロー] メニューから [返品オーダー] オプションを選択したときに、使用される受注オーダー入力プログラム (P4210) のバージョンを指定します。この処理オプションを空白にすると、バージョン ZJDE0002 が使用されます。

プロジェクトの関連オーダーの作成

[関連オーダーの処理] フォームにアクセスします。

プロジェクトを選択し、プロジェクト用に作成済みのオーダーを検討します。

[フォーム] メニューの該当するオプションを使用して、プロジェクト用に新しい関連オーダーを作成するのに必要なオーダー入力プログラムにアクセスします。

関連項目:

JD Edwards EnterpriseOne 受注管理 8.11 SP1 PeopleBook、「受注オーダーの入力」

プロジェクトへの既存の作業オーダーの添付

[プロジェクト・ワークベンチ] フォームにアクセスします。

既存の作業オーダーをプロジェクトに添付するには、次の手順に従います。

1. [プロジェクト・ワークベンチ] フォームのツリー構造で、既存の作業オーダーを添付する親タスクを選択します。
2. [ロー] メニューから [作業オーダーの添付] を選択します。
3. [作業オーダーの検索] フォームで、[オーダーNo.] フィールドに値を入力し、プロジェクトに添付する作業オーダーを検索します。
4. 作業オーダーを選択し、[選択] をクリックします。
選択した作業オーダーが、[プロジェクト・ワークベンチ] フォームの詳細グリッドで、親タスクの下に表示されます。
5. 作業オーダーを WBS に保存するには、[OK] をクリックします。

関連オーダーの原価更新

[プロジェクト・ワークベンチ] (G31P12) の [関連オーダー費用の更新] を選択します。

このレポートには、プロジェクト属性テーブル (F31P01) からのプロジェクト情報と、タスク情報、WBS にアップロードする計画原価と実際原価が印刷されます。記述タスクの計画原価と実際原価が累計されている場合のみ、タスクおよび原価の情報を印刷できます。

プロジェクトのコミットメントの設定

このセクションでは、プロジェクトのコミットメントの概要と以下の方法について説明します。

- プロジェクトの作業オーダーの在庫引当の検討
- コミットメント再作成プログラム (R31P993) の処理オプションの設定
- コミットメント監査証跡の作成

プロジェクトのコミットメントについて

コミットメントが以前に作成されていない場合、プランニング フェーズでは、処理を実行して作業オーダーや購買オーダーについて在庫管理や会計上のコミットメントを実行します。受注設計生産では、顧客が見積を承認するまでコミットメントの作成を遅らせることができます。プロジェクト属性の [コミットメントのタイミング] オプションをオンにすると、在庫管理や会計上のコミットメントを作成せずに、オーダー処理プログラム (R31410) を実行して見積原価を入手できます。見積承認処理の前のコミットメントを省略すると、見積承認処理の一環としてオーダー処理プログラムを自動的に実行するときにコミットメントが作成されます。

在庫引当

オーダー処理プログラム (R31410) を実行すると、処理する作業オーダーに部品リストが添付され、製造固定情報プログラム (P3009) の引当制御の設定に従って、部品リストの部品に対して在庫引当が作成されます。特定のプログラム用に構成部品やその他資材を予約するには、特殊取扱コードを P にしてプロジェクト固有の在庫タイプを割り当てれば、品目をプロジェクト固有の資材として設定できます。品目がプロジェクトと関連付けられている場合、プロジェクトのハードコミットがクリアされていない場合は、プロジェクトに含まれない作業オーダーにはこの資材を出庫できません。

見積承認処理を実行する際に WBS の作業オーダーに対してオーダー処理が実行されると、事業所品目テーブル (F4102) で指定した引当方式に基づいて、全ての構成部品数量がハードコミットされます。プログラムは WBS の全作業オーダーを降順に処理して、プロジェクト引当明細テーブル (F410211) にプロジェクト固有の引当を作成します。

購買オーダーのプロジェクト固有品目については、入荷確認プログラム (P4312) を使用して購入品を入荷する際に、特定の保管場所およびロットにハードコミットが作成されます。資材を出庫すると在庫引当はリリースされます。処理オプションを設定して、行タイプ固定情報の [資材出庫プログラムの呼出し] オプションをオンにした品目について、在庫出庫プログラム (P4112) を自動的に呼び出すことができます。

注: 入荷の戻し (逆仕訳) を行うと、ほとんどのテーブルが自動的に更新されますが、F3111 テーブルは手作業で更新する必要があります。戻し (逆仕訳) を行うと、警告が表示されます。これは、製造作業オーダーの在庫構成部品に対して作成されたハードコミットが、戻し (逆仕訳) 処理によってキャンセルされないためです。

プロジェクトのコミットメント明細照会プログラム (P410211) を使用すれば、プロジェクト固有の在庫引当を検査できます。このプログラムは、保管場所とロット、シリアル番号の他に、プロジェクトの作業オーダーにハードコミットされた構成部品数量を基本計量単位で表示します。プロジェクトに引き当てられた在庫の合計数量は、保管場所品目テーブル (F41021) の [プロジェクト用にハードコミットした数量] フィールドに集計されます。この情報は、在庫状況集計プログラム (P41202) で検討できます。

会計上のコミットメント

作業原価システムを使用している場合、プロジェクト タスクに会計上のコミットメントを作成できます。会計上のコミットメントとは、将来の支払義務を認識することです。会計上のコミットメントを作成することにより、以下のことが可能になります。

- 予算と残りの金額を検査できます。

計画上の最終原価と実績累計を比較することにより、完了率を計算できます。実際原価の差異および期間による収益差異が発生するのを防げるため、完了率は利益認識につながります。

- 最終のプロジェクト原価を計算できます。
- 変更オーダーの実行を容易にします。
- プロジェクトがキャンセルされた場合に、引当済みの在庫に関連付けられた損失を差し引く際の基準となる情報を提供できます。

購買の債務を作成するだけでなく、製造作業オーダーの在庫構成部品に会計上のコミットメントを作成することもできます。会計上のコミットメントは、資材がハードコミットされたときに発生します。作業オーダーに関連付けられた労務費にはコミットメントは作成しません。

注: 製造作業オーダーの会計上のコミットメントを実行するには、プロジェクト会計 UDC テーブル (31P/AI) でプロジェクトで使用される AAI 3120 (仕掛品) を設定し、コミットメント伝票タイプ UDC テーブル (40/CT) に製造作業オーダーを含める必要があります。

対話形式で、またはオーダー処理プログラムを実行して、作業オーダーに部品リストと作業工程を添付すると、引き当てた在庫の合計金額を計算することにより、作業オーダーに対して会計上のコミットメントが作成されます。F0902 テーブルの関連レコードの PA/PU 元帳金額が更新され、F43199 テーブルに取引が入力されます。また、F4801T テーブルに、当初および残りのコミット済み金額が記録されます。

注: 半組立品について会計上のコミットメントが重複しないようにするために、半組立品の作業オーダーに部品リストを添付すると、親作業オーダーからコミットした金額が差し引かれます。親作業オーダーに構成部品を添付すると、システムはその構成部品に半組立品の作業オーダーが存在するかどうかチェックします。この場合、会計上のコミットメントの合計金額の計算にはそれらの原価も含まれます。

製造作業オーダーの在庫構成部品に対する会計上のコミットメントは、作業オーダーを完了するとリリースされます。プロジェクト関連の作業オーダーに対する出庫取引が転記されると、会計上のコミットメントは解除され、F4801T テーブル、F0902 テーブル、および F43199 テーブルのコミット済み金額が更新されます。続いて、元帳タイプ AA の実績金額が転記されます。

コミットメント整合性レポート (R40910) を実行して、未決済オーダー金額がコミット済み金額および F0902 テーブルの金額と一致するかどうか判断します。金額が一致しなければ、それらを除去してから、コミットメント再作成プログラム (R31P993) を使用して監査証跡を作成できます。

必要な場合には、作業へのコミット済み原価の転記プログラム (R00932) を実行して、F43199 テーブルの製造関連レコードの値などの PA 元帳のコミットメントを F0902 テーブルに再転記できます。

製造作業オーダーの構成部品の購買オーダーを作成すると、その作業オーダーの会計上のコミットメントはリリースされます。この時点から会計上のコミットメントは、調達管理システムで作成および管理されます。

仕訳の転記プログラム (R09801) を実行して資材取引を元帳に転記すると、関連の会計上のコミットメントはリリースされます。取引明細テーブル (F0911) の [補助元帳] フィールドの作業オーダー番号がプロジェクト作業オーダーを示す場合、その作業オーダーの会計上のコミットメントはリリースされます。会計上のコミットメントがリリースされると、F4801T テーブル、F0902 テーブル、および F43199 テーブルが更新されます。

会計期間の末に残っている会計上のコミットメントを繰り越す場合、債務繰越プログラム (R4317) を使用して前年の購買オーダーおよび作業オーダーのコミット済み行をリリースし、現行年度の元帳日付で再度コミットすることができます。製造作業オーダーの会計上のコミットメントを含めるには、処理オプションを設定する必要があります。

関連項目:

JD Edwards EnterpriseOne 製造現場管理 8.11 SP1 PeopleBook、「引当の使い方」

プロジェクトの作業オーダーの在庫引当の検討に使用するフォーム

フォーム名	フォーム ID	ナビゲーション	用途
[プロジェクト・コミットメント明細の処理]	W410211A	[プロジェクト・ワークベンチ] (P31P12)、[プロジェクト・コミットメント詳細照会] [プロジェクト・コミットメント明細の処理] フォームで、[プロジェクトNo.] フィールドに値を入力し、[検索] ボタンをクリックします。	プロジェクトの作業オーダーの在庫引当を検討します。

プロジェクトの作業オーダーの在庫引当の検討

[プロジェクト・コミットメント明細の処理] フォームにアクセスします。

[プロジェクト ハード コミット数量] プロジェクトにハードコミットされた在庫が表示されます。

コミットメント再作成 (R31P993) の処理オプションの設定

以下の処理オプションでは、コミットメント再作成プログラムのデフォルト処理を制御します。

処理

以下の処理オプションで、レポートに含めるレコードを制御します。

- | | |
|----------------------------|--|
| 1. 作業オーダーの締め切り状況 | 締め切り済み作業オーダーの状況を指定します。指定した締め切り済み作業オーダー状況未満の作業オーダーのみが、システムにより処理されます。この処理オプションを空白にすると、締め切り済み作業オーダーに対してデフォルト状況の 99 が使用されます。 |
| 2. 購買オーダー/外注契約の組み込み | F43199 コミットメント監査証跡の作成プログラムを実行して、購買明細実績テーブル (F43199) に、プロジェクトに関連する購買オーダーおよび外注契約のレコードを作成するかどうかを指定します。有効値は以下のとおりです。
空白：購買オーダーまたは外注契約を含めません。
1: プロジェクトに関連する購買オーダーまたは外注契約のみ含めます。
2: 勘定科目に関連する購買オーダーまたは外注契約のみ含めます。
3: 全ての購買オーダーまたは外注契約を含めます。 |

コミットメント監査証跡の作成

[定期処理] (G31P20) の [コミットメント再作成] を選択します。

会計上のコミットメントを手作業で除去した場合、コミットメント再作成プログラム (R31P993) を使用して、製造作業オーダーや購買オーダーに関連するプロジェクトの会計上のコミットメントの監査証跡を作成できます。このプログラムは、F4801 テーブル、F3111 テーブル、および F4311 テーブルの情報に基づいて処理を行います。

このプログラムでは、アクティブなプロジェクトの未処理の購買オーダーおよび作業オーダーが全て処理されます。このプログラムは、各オーダーの部品リストにコミットされた金額の合計レコードを F43199 テーブルに作成します。次に、コミットメント監査証跡の作成プログラム (R00993) を呼び出して、特定のプロジェクトまたは勘定科目に関連する購買オーダーの各行のレコードを F43199 テーブルに作成します。

第 6 章

プロジェクトの実行および統制の利用

この章では、プロジェクトの実行および統制の概要と以下の方法について説明します。

- プロジェクト ワークベンチへの実際原価の積み上げ
- プロジェクトのレポートと警告の生成
- プロジェクトの完了

プロジェクトの実行および統制について

予算を凍結したら、プロジェクトの実行および統制フェーズを開始します。実行ステージでは、製造現場の作業オーダーを完了して、プロジェクトの最終品目の生産で発生した実績資材、労務、機械稼働費の情報を集めます。プロジェクトの会計処理は、プロジェクトが作業原価システムとインターフェイスするかどうかによって変わります。

また、プロジェクトの実際原価の品目の仕掛在庫を再評価できます。実際原価のワークベンチへの積み上げプログラム (R31P301) を使用して、プロジェクトに設定した原価分類体型に基づき、報告済みの実際原価をワークベンチの対応する原価バケットに積み上げることができます。原価の積み上げによって、プロジェクト ワークベンチ プログラム (P31P001) の原価情報が最新となり、予実差異をトラッキングできます。

構成部品または再販品目として購入した品目を入荷して、それらの支払を処理します。プロジェクトについて作業原価システムと共にサービスおよび契約を使用している場合、サービス請求および契約請求システムとの統合機能を利用できます。

また、受注設計生産では、プロジェクト スケジュール レポート (R31P400) やプロジェクト原価レポート (R31P401) など、プロジェクト管理に使用できる多くのレポートを作成できます。受注設計生産と作業原価の両システムを併用する場合、作業原価のレポートを使用して予算情報をトラッキングし、収益性を分析することもできます。

プロジェクト作業オーダーの出庫および完了

在庫出庫プログラム (P31113) を使用してプロジェクトに固有な作業オーダーの構成部品を出庫すると、システムは在庫状況をチェックしてこの構成部品が他のプロジェクトにより予約済みでないことを確認します。在庫が別のプロジェクトのものである場合、その資材は出庫できません。使用できる在庫のある他の保管場所を指定する必要があります。

当初割り当てたよりも多くの資材がプロジェクトに必要な場合、他のプロジェクトに割り当て済みでなければ、在庫を持つ保管場所から資材を出庫できます。特定の品目の需要合計が満たされると、関連レコードが F410211 テーブルから消去されます。

プロジェクト固有の在庫を移動する場合、プロジェクト コミットメント明細ウィンドウ プログラム (P410211W) が呼び出されるので、移動するプロジェクト番号と数量を選択してください。プロジェクトにハードコミットした数量は、同じビジネスユニットの保管場所間でのみ移動できます。ビジネスユニット間の移動はできません。

プロジェクトの作業オーダーの半組立品を完了すると、作業オーダー完了プログラム (P31114) で指定した保管場所とロット/シリアル番号により、親作業オーダーの部品リストが更新されます。この更新により、親作業オーダーと作業オーダーが所属するプロジェクトに在庫が直接関連付けられます。

半組立品の作業オーダーが部分的に完了すると、親作業オーダーの部品リスト行が分割されます。当初の構成行は残数を示し、完了情報を含む新しい行が挿入されます。

完了超過の場合、関連の部品リスト行が完了保管場所およびロット/シリアル番号により更新されます。ただし、関連のプロジェクトコミットメントレコードは、当初の構成数量のみを示します。

完了せずにプロジェクトの作業オーダーを締め切ると、プロジェクト固有の構成数量はコミットされたままになります。転記を実行すれば、この不一致を解決できます。未処理作業オーダーの再転記プログラム (R3190) を実行すると、未処理の製造作業オーダーの数量を、F41021 テーブルと F410211 テーブルにある、プロジェクト固有のコミットメント数量と同期させることができます。

正味変更

プロジェクト ワークベンチ プログラムの処理オプションを設定して、正味変更処理 (オーダー数量、計量単位、または作業オーダーの日付に変更があった場合に、製造作業オーダーの部品リスト/作業工程を更新する) を実行するかどうかを指定できます。正味変更処理プログラム (R31430) が呼び出されて、正味変更が処理されます。この処理オプションを設定した場合、[プロジェクト・ワークベンチ] フォームで [OK] をクリックすると正味変更処理が実行されます。

注: サービス オーダー、設備オーダー、コンフィギュレーション作業オーダーについては正味変更処理は実行されません。製造作業オーダーの構成部品のいずれかが “倉庫にあり” の状況の場合、正味変更処理は実行できません。

[プロジェクト・ワークベンチ] フォームで製造作業オーダーの数量や計量単位、日付を変更する場合、変更した作業オーダーレコードは正味変更取引テーブル (F3115) に保存されます。部品リストや作業工程が製造作業オーダーに添付してある場合、システムは正味変更プログラムを呼び出して部品リストと作業工程を更新します。

正味変更処理では、以下の処理が行われます。

- 単位あたり数量を使用して、部品リストの構成数量を再計算します。
- 在庫引当を処理します。
- 単位あたり時間数を使用して、各工程作業の労務費および機械稼働費を再計算します。
- 正味変更係数を使用して、標準および最新の製造原価を再計算します。
- 原価見積を読み込んでから分類して積み上げます。
- 作業原価システムとインターフェイスするプロジェクトの作業オーダーについて会計上のコミットメントを調整します。
- 出庫や時間入力取引などのアクティビティが作業オーダーに対して記録された場合に、警告を表示します。

プロジェクトの会計処理に関する考慮事項

特定のプロジェクトの財務分析や収益性を判断するには、以下のタスクを行う必要があります。

- プロジェクト勘定科目と一般勘定科目を区別します。
- ETO プロジェクトを原価、収益面で独立して管理します。
- プロジェクト固有の勘定科目から一般勘定科目に勘定科目情報をスムーズに移行します。
- 受注管理システムなどの他のシステムとプロジェクト固有の勘定科目を統合します。

作業原価システムを使用していない場合、プロジェクト専用のビジネスユニットを作成することも、デフォルトのビジネスユニットとしてプログラムの事業所を使用することもできます。プロジェクト用にビジネスユニットを作成した場合、レポートされる原価はそのプロジェクト全体としてのみ参照できます。勘定科目コードに基づいて、実際原価はタスク別にレポートされますが、タスク明細レベルでは表示されません。

デフォルトのビジネスユニットとして事業所を使用した場合、作成した全てのトランザクションの仕訳はプロジェクト固有ではありません。プロジェクト ワークベンチ プログラム (P31P001) で原価をレポートし、原価がプロジェクト固有のものであっても、プロジェクト固有の勘定科目構造では、プロジェクト原価は財務分析用に認識されません。

作業原価システムを使用しないプロジェクト固有の会計処理について、[プロジェクトの追加/改訂] フォームの [作業原価] タブにプロジェクトの元帳クラス コードを定義できます。自動仕訳は、この元帳クラスコードを使用して、特定のプロジェクトに使用される勘定科目を決定します。

プロジェクトの [作業原価インターフェイス] オプションを選択する場合、プロジェクトのビジネスユニットとして作業ビジネスユニットと関連する勘定科目表を使用します。この勘定科目構造はプロジェクト固有です。

プロジェクト固有の半組立品や購入品などの部材の出庫の際、プロジェクト固有の仕掛勘定の借方と、プロジェクト固有の在庫勘定の貸方に項目を作成します。半組立品の場合、原価タイプ A1 または A2 に全ての原価をまとめてしまうのではなく、原価タイプ別に仕訳が作成されます。プロジェクトの最上位レベルの品目を完了する場合、一般の在庫勘定ではなく、プロジェクト固有の勘定科目に対してそれらを完了します。

受注管理システムが在庫品目の販売が可能かどうか判断する際、一般の在庫勘定がまず検討されます。受注管理システムがプロジェクトで生産された在庫にアクセスできるようにするには、仕訳のコピーを作成し、プロジェクト在庫勘定およびプロジェクト仕掛品勘定の他に、相手勘定の貸方 (AAI 3140) と一般在庫勘定の借方にそれぞれ項目を作成します。

注: プロジェクト会計 UDC テーブル (31P/AI) で、プロジェクトの会計処理に対して相手勘定 AAI (3140) をアクティブにする必要があります。

事前設定

オーダーの入力/変更プログラム (P48013) およびレポート スケジュールの入力/変更プログラム (P3109) の処理オプションを、変更になった作業オーダーの部品リストと作業工程を再計算および更新するように設定します。

関連項目:

JD Edwards EnterpriseOne 製造現場管理 8.11 SP1 PeopleBook、「出庫、資材移動、カンバンの使い方」

JD Edwards EnterpriseOne 製造現場管理 8.11 SP1 PeopleBook、「完了の処理」

JD Edwards EnterpriseOne 製造現場管理 8.11 SP1 PeopleBook、「作業時間と作業量の処理」

JD Edwards EnterpriseOne 製造原価計算および製造会計 8.11 SP1 PeopleBook、「製造会計システムの使い方」

プロジェクト ワークベンチへの実際原価の積み上げ

[原価分類] (G31P31) の [実際原価のワークベンチへの積み上げ] を選択します。

プロジェクト管理者は、原価をプロジェクト ワークベンチに積み上げて、どの時点でもプロジェクトの個々のタスクについて報告された実際原価を検討できます。たとえば、ある製造タスクについて資材の出庫、労働、完了が報告され、これらのアクティビティの実際原価が集計されます。また、実際原価の積み上げにより、プロジェクト管理者は、見積原価と実際原価を比較して差異がある場合にその差異を分析できます。

実際原価のワークベンチへの積み上げプログラム (R31P301) を使用して、製造処理の過程で作業オーダーについて収集する実際原価情報をプロジェクト ワークベンチ プログラム (P31P001) の以下の原価フィールドに積み上げます。

- 実際資材費
- 実際労務費
- その他実費
- 実績特殊数量
- 実績特別金額

プロジェクトは製造タスク、非製造タスクの 2 つのタスク タイプから成り立っているため、2 つの異なるソースから原価を集計する必要があります。製造タスクに関連した原価は、製造会計を通してトラッキングされます。原価は、製造原価テーブル (F3102) に保存されます。ただし、製造会計は非製造タスクには適用されません。非製造タスクに関連する原価は、F0911 テーブルに保存されます。

注: 非製造タスクは、製造バッチ タイプとは異なるバッチ タイプで取引明細に転記されます。ただし、この原価をトラッキングするには、原価が発生したタスクまたは作業オーダー番号を [補助元帳] フィールドに入力する必要があります。

原価分類プログラム (P31P301) で設定された原価タイプと勘定科目の原価分類に基づいて、プロジェクトの全てのタスクが評価され、タスク タイプに応じて、F3102 テーブルまたは F0911 テーブルから原価が取り込まれ、実際原価フィールドに原価が更新されます。原価フィールドの情報は、F4801T テーブルに保存されます。

事前設定

原価タイプと勘定科目をプロジェクト ワークベンチ プログラムの原価バケットにマッピングする原価分類テーブルを設定します。

プロジェクトのレポートと警告の生成

このセクションでは、プロジェクトのレポートと警告の概要と以下の方法について説明します。

- プロジェクト スケジュール レポート (R31P400) の処理オプションの設定
- プロジェクト スケジュール レポートの実行
- プロジェクト原価レポート (R31P401) の処理オプションの設定
- プロジェクト原価レポートの実行
- プロジェクト在庫レポート (R31P402) の処理オプションの設定
- プロジェクト在庫レポートの実行

プロジェクトのレポートと警告について

受注設計生産には、プロジェクトの実行/制御フェーズ中にプロジェクト情報を管理できるバッチ プログラムが数多く用意されています。これらのプログラムは、状況および例外情報を提供します。プロジェクトワークベンチで警告対象として設定されているタスクについては、各タスクの担当者に警告が送信されます。各タスクには、管理者、監督者、およびタスク担当者の 3 人を設定できます。各レポートは、各タスクの関係者のどの組み合わせにも警告を送信するよう設定できます。

受注設計生産には、以下のレポートが用意されています。

- プロジェクト スケジュール レポート (R31P400)
- プロジェクト原価レポート (R31P401)
- プロジェクト在庫レポート (R31P402)

プロジェクト スケジュール レポート (R31P400) の処理オプションの設定

以下の処理オプションでは、プロジェクト スケジュール レポートのデフォルト処理を制御します。

処理

以下の処理オプションは、警告の送信先、レポート実行の際に警告が送信される状況を制御します。

- | | |
|---|---|
| 1. タスク管理者への警告の送信 | <p>タスクに関連付けられている管理者にプロジェクト警告を送信するかどうかを指定します。有効値は以下のとおりです。</p> <p>空白：送信しません。</p> <p>1: 送信します。</p> |
| 2. タスク監督者への警告の送信 | <p>タスクに関連付けられている監督者にプロジェクト警告を送信するかどうかを指定します。有効値は以下のとおりです。</p> <p>空白：送信しません。</p> <p>1: 送信します。</p> |
| 3. タスクの担当者への警告の送信 | <p>タスクの [担当者] フィールドで指定されている住所番号にプロジェクト警告を送信するかどうかを指定します。有効値は以下のとおりです。</p> <p>空白：送信しません。</p> <p>1: 送信します。</p> |
| 4. メーリング リスト、組織構造タイプ | <p>警告の配布リストを指定し、組織構造タイプを選択します。</p> |
| 5. 計画終了または約束日付を基準とした、入荷遅延やオーダー完了のしきい値 (日数) | <p>オーダーの入荷または完了が可能な、計画終了日付または約束日付よりも後の日数を指定します。入荷または完了遅延のしきい値を超えると、作業オーダーのスケジュール例外メッセージが作業オーダーの担当者に送信され、購買オーダーのスケジュール例外メッセージが適切な担当者に送信されます。</p> |
| 6. 作業オーダーや購買オーダーのオーダー数量を基準とした、不足分のしきい値 (パーセント) | <p>作業オーダーまたは購買オーダーの不足分の許容パーセントを指定します。このしきい値を超えると、作業オーダーの数量例外メッセージが作業オーダー タスクの担当者に送信され、購買オーダーの数量例外メッセージが購買オーダー タスクの担当者に送信されます。</p> |

デフォルト

以下の処理オプションは、作業オーダーまたは購買オーダー行が終了していると考えられる状況を指定します。

- | | |
|----------------------|--|
| 1. 締切済みの作業オーダーの状況 | 作業オーダーの締め切り時に使用する状況を指定します。空白にすると、状況コード 99 が使用されます。 |
| 2. 締め切り済みの購買オーダー行の状況 | 明細行がクローズされるかまたは完全に入荷された後の、オーダーの“次の状況”を指定します。空白にすると、締め切られたかまたは完全に入荷された明細行に対して状況コード 999 が割り当てられます。 |

プロジェクト スケジュール レポートの実行

[プロジェクト・レポート] (G31P14) の [プロジェクト・スケジュール・レポート] を選択します。

プロジェクト スケジュール レポート プログラムを使用して、計画の開始/終了日および実際の開始/終了日を印刷します。F4801 テーブルに基づいて、1 件または複数のプロジェクトのタスク情報を印刷できます。

タスクに購買オーダーまたは外注契約が添付されている場合、これらのオーダーの情報もレポートに含まれます。たとえば、約束日付と入荷日付、オーダー数量、および入荷数量を含めることができます。

警告対象のタスクでは、実際の終了日付が処理オプションで指定する日数以上に計画より遅い場合、スケジュール例外メッセージが送信されます。購買オーダーや外注契約が添付されているタスクでは、入荷日付が指定した日数以上に約束日付より遅い場合に警告メッセージが送信されます。

またレポートでは、完了作業オーダー数量と入荷済み購買オーダー数量がオーダー数量と比較されます。完了または入荷済み数量が処理オプションで指定した規定値以上にオーダー数量より少ない場合、またオーダーが終了しているか取り消しになった場合、数量例外メッセージが送信されます。例外メッセージは、警告メッセージを送信するよう設定していない場合でもレポートに表示されます。

プロジェクト原価レポート (R31P401) の処理オプションの設定

以下の処理オプションでは、プロジェクト原価レポートのデフォルト処理を制御します。

処理

以下の処理オプションは、このレポート印刷時に警告が送信されるタイミングと状況を制御します。予算上の例外を算出する際、仕掛品の金額を含めるかどうかも指定できます。

- | | |
|------------------|---|
| 1. レポートの予算原価： | レポートの予算原価のソースを指定します。空白にすると、見積原価がソースとして使用されます。有効値は以下のとおりです。
1: 見積原価
2: 計画原価 |
| 2. タスク管理者への警告の送信 | タスクに関連付けられている管理者にプロジェクト警告を送信するかどうかを指定します。有効値は以下のとおりです。
空白：送信しません。
1: 送信します。 |
| 3. タスク監督者への警告の送信 | タスクに関連付けられている監督者にプロジェクト警告を送信するかどうかを指定します。有効値は以下のとおりです。
空白：送信しません。 |

- | | |
|---|--|
| | 1: 送信します。 |
| 4. タスクの担当者への警告の送信 | タスクの [担当者] フィールドで指定されている住所番号にプロジェクト警告を送信するかどうかを指定します。有効値は以下のとおりです。
空白: 送信しません。
1: 送信します。 |
| 5. メーリング リスト、組織構造 | プロジェクト警告を送信するための配布リストを指定し、配布リストの組織構造タイプを選択します。 |
| 6. 予算原価差異のしきい値 (パーセント) | 予算原価と実際原価の許容差異比率を指定します。しきい値を超えると、予算例外メッセージが担当者に送信されます。 |
| 7. 購買オーダー原価に対する入荷超過のしきい値 (パーセント) | 購買オーダーの原価に対する入荷超過の許容パーセントを指定します。しきい値を超えると、支払超過例外メッセージが担当者に送信されます。 |
| 8. 予算例外を計算するための実際原価の計算に仕掛品を含める | 予算例外の計算時に、仕掛金の金額を実際原価に含めるかどうかを指定します。有効値は以下のとおりです。
空白: 含めません。
1: 含めます。 |

プロジェクト原価レポートの実行

[プロジェクト・レポート] (G31P14) の [プロジェクト原価レポート] を選択します。

プロジェクト原価レポート (R31P401) を使用して、タスクのリストを印刷し、以下の原価金額を表示します。

- 仕掛品金額
- 計画および見積の資材費、労務費、その他費用、および特別費
- 実際原価の累計
- 部品リストおよび購買オーダーからのコミット済み金額

F4801 テーブルに基づいて、1 件または複数のプロジェクトのタスク情報を印刷できます。

仕掛品金額は、F3102 テーブルの全ての未計上の完了/仕損金額合計を差し引いて算出されます。結果がゼロになった場合、例外は存在せず、仕掛品金額は印刷されません。仕掛品金額が正の数の場合、完了金額の全てのアクティビティが報告されないことがレポートに示されます。値が負の数になった場合は、例外レポートが完了超過の状況であることを示します。

F4801 テーブルの対応する原価フィールドから、レポート用に見積、計画、および実際金額が取り込まれます。F3111 テーブルおよび F43199 テーブルの未決済コミットメント額からコミット済み金額が算出されます。

累計の実際原価の合計が処理オプションで指定したパーセント以上に予算を超過した場合、警告対象タスクに対して予算例外メッセージが作成されます。タスクに関連する購買オーダーまたは外注契約があり、入荷金額が処理オプションで指定したパーセント以上に合計金額を超過した場合、支払超過例外メッセージが送信されます。

例外メッセージは、警告メッセージを送信するよう設定していない場合でもレポートに表示されます。

プロジェクト在庫レポート (R31P402) の処理オプションの設定

以下の処理オプションでは、プロジェクト在庫レポートのデフォルト処理を制御します。

処理

以下の処理オプションは、このレポート印刷時に警告が送信されるタイミングと状況を制御します。

- 1. タスク管理者への警告の送信** タスクに関連付けられている管理者にプロジェクト警告を送信するかどうかを指定します。有効値は以下のとおりです。
空白：送信しません。
1: 送信します。
- 2. タスク監督者への警告の送信** タスクに関連付けられている監督者にプロジェクト警告を送信するかどうかを指定します。有効値は以下のとおりです。
空白：送信しません。
1: 送信します。
- 3. タスクの担当者への警告の送信** タスクの [担当者] フィールドで指定されている住所番号にプロジェクト警告を送信するかどうかを指定します。有効値は以下のとおりです。
空白：送信しません。
1: 送信します。
- 4. メーリング リスト** 警告を送信するための配布リストを指定します。
- 5. マイナスの在庫数量のしきい値 (絶対値)** マイナスの在庫数量のしきい値を指定します。しきい値を超えると、その状況を警告するメッセージが担当者に送信されます。

プロジェクト在庫レポートの実行

[プロジェクト・レポート] (G31P14) の [プロジェクト在庫レポート] を選択します。

プロジェクト在庫レポートを使用して、タスクの部品リストを印刷します (存在する場合)。F4801 テーブルおよび F31P01 テーブルに基づいて、1 件または複数のプロジェクトのタスク情報を印刷できます。部品リストの各構成成分については、発注残数が計算、印刷されます。つまりオーダー数量から在庫数量を差し引いていきます。各構成成分については、F41021 テーブルが検索され、引当可能数量が決定します。

タスクが警告対象で引当可能数量が処理オプションで指定した規定値以上にゼロを下回り、未処理数量がゼロより大きい場合、品目数量例外メッセージが送信されます。

例外メッセージは、警告メッセージを送信するよう設定していない場合でもレポートに表示されます。

プロジェクトの完了

このセクションでは、プロジェクトの完了の概要と以下の方法について説明します。

- プロジェクト締め切りアナライザ (R31P403) の処理オプションの設定
- プロジェクト締め切りアナライザ プログラムの実行

プロジェクトの完了処理について

プロジェクトがスケジュール上の完了日付に達したら、プロジェクト情報をチェックして、まだ遂行されていないアクティビティを確認します。全ての製造/購買アクティビティが完了しているかまたは取り消されていること、また顧客に配達すべき全ての製品が出荷済みであることを確認します。

作業原価システムを使用している場合、作業原価レポートとバッチ プログラムを使用して財務レポートを作成し、分析/収益を確認できます。

正式にプログラムを完了するには、[プロジェクト・ワークベンチ] フォームの [フォーム] メニューから [プロジェクトの締め切り] オプションを使用します。[プロジェクトの締め切り] オプションを選択すると、自動的にプロジェクト締め切りアナライザ プログラム (R31P403) が起動し、プロジェクトを完了するのに必要な情報が全て揃っているかが確認されます。プロジェクトを完了したら、プロジェクト状況が完了に変わります。プロジェクトの追加/改訂プログラム (P31P011) の [プロジェクト状況] タブでこの情報を確認できます。

プロジェクト締め切りアナライザ (R31P403) の処理オプションの設定

以下の処理オプションでは、プロジェクト締め切りアナライザ プログラムのデフォルト処理を制御します。

デフォルト

以下の処理オプションは、プロジェクトが完了可能であるかどうかの確認に使用されるデフォルト値を制御します。

1. 締め切った受注オーダー行の状況を入力してください。 受注オーダー行が締め切られる状況を入力します。空白にすると、状況コード 999 が使用されます。

2. 締め切った購買オーダー行の状況を入力してください。 購買オーダー行が締め切られる状況を入力します。空白にすると、状況コード 999 が使用されます。

プロジェクト締め切りアナライザ プログラムの実行

[プロジェクト・レポート] (G31P14) の [プロジェクト締め切りアナライザ] を選択します。

プロジェクト締め切りアナライザ プログラム (R31P403) を使用して、WBS を分析し、プロジェクトを完了できるかどうか判断します。[プロジェクト・ワークベンチ] フォームからプロジェクトを完了させる場合も、このプログラムが呼び出されます。このバッチ プログラムは、1 度に 1 つのプロジェクトに対してのみ実行できます。プログラムが終了したら、プロジェクトを終了できるかどうかを示す値が示されます。

プログラムは全てのタスクを確認し、以下の問題があるかどうか判断します。

- 終了/取り消しのいずれでもない製造作業オーダーがあるかどうか
- 未処理の在庫引当を持つ部品リストがあるかどうか
- 未決済の購買オーダーがあるかどうか

これらの問題がプロジェクトのタスクに存在する場合、その問題を解決しないとプロジェクトを完了できません。

EnterpriseOne 用語集

DNT - 変換なし	BLOB データの制約のため、iSeries サーバーに必要なデータソースのタイプです。
EnterpriseOne オブジェクト	アプリケーションのビルドに使用される再利用可能なコードです。オブジェクトタイプには、テーブル、フォーム、ビジネス関数、データ辞書項目、バッチ処理、ビジネスビュー、イベントルール、バージョン、データ構造体、メディアオブジェクトなどがあります。
EnterpriseOne プロセス	EnterpriseOne クライアントと EnterpriseOne サーバーでのプロセスリクエストの処理とトランザクションの実行のためのソフトウェア プロセスです。クライアントでは 1 つのプロセスが実行され、サーバーでは 1 つのプロセスの複数のインスタンスを処理することができます。EnterpriseOne プロセスをワークフロー メッセージやデータレプリケーションなどの特定のタスク専用指定することで、サーバーが大量のタスクを処理する場合でも重要なプロセスの実行を確保することができます。
FTP サーバー	ファイル転送プロトコルを通じてファイルへのリクエストに応答するサーバーです。
IServer サービス	JD Edwards 独自のサービスです。このインターネット サーバー サービスは Web サーバーに常駐し、データベースからクライアントへの Java クラスのファイル配信を高速化するために使用されます。
Java アプリケーション サーバー	サーバー中心のアーキテクチャの中間層に置かれるコンポーネントベースのサーバーです。このサーバーは、データアクセスや永続性と共に、セキュリティとステータスの管理を行うためのミドルウェア サービスを提供します
JDBNET	異種サーバー間でのデータアクセスを行うためのデータベースドライバです。
JDEBASE データベースミドルウェア	クライアント/サーバー間のアクセスとプラットフォーム非依存型の API を提供する JD Edwards 独自のデータベースミドルウェアパッケージです。
JDECallObject	ビジネス関数から他のビジネス関数を呼び出すための API です。
JD Edwards EnterpriseOne データベース	“JDEBASE データベースミドルウェア”を参照してください。
jde.ini	EnterpriseOne の初期設定に必要なランタイム設定を提供する JD Edwards EnterpriseOne のファイル(または iSeries 用のメンバー)です。EnterpriseOne を実行する各マシンには、ファイルまたはメンバーの特定バージョンを常駐させる必要があります。これには、ワークステーションとサーバーが含まれます。
JDEIPC	サーバーコードによって使用される通信プログラミングツールであり、マルチプロセス環境における同一データへのアクセス制限、プロセス間の通信と調整、新規プロセスの作成を行います。
jde.log	EnterpriseOne の主要な診断ログ ファイルです。このファイルは常に主ドライブのルートディレクトリに置かれ、EnterpriseOne の起動時からの状況とエラー メッセージが書き込まれます。
JDENET	JD Edwards 独自の通信ミドルウェアパッケージです。このパッケージは、ピアツーピア、メッセージベース、ソケットベースのマルチプロセス通信ミドルウェアソリューションです。EnterpriseOne の全てのサポート対象プラットフォームでクライアント/サーバー間、サーバー/サーバー間の通信を処理します。
Nota Fiscal	ブラジルでは、税務処理のために全ての商取引についてこの書式を作成し、税法で指定された情報を含めることが義務付けられています。
Nota Fiscal Factura	ブラジルで使用する書式です。伝票情報を伴う“Nota Fiscal”です。

	Nota Fiscal の説明も参照してください。
QBE	Query by Example (例示照会) の略語です。EnterpriseOne では、QBE 行は、詳細グリッドの最上段にあり、データのフィルタリングに使用されます。
wchar_t	ワイド文字の内部タイプです。国際市場向けの移植可能プログラムの記述に使用します。
Web アプリケーション サーバー	Web アプリケーションと、バックエンドシステムおよび電子商取引に使用されているデータベースとの間のデータ交換を可能にする Web サーバーです。
Web サーバー	ブラウザから送信されたリクエストに応じて、TCP/IP プロトコルを使用して情報を送信するサーバーです。Web サーバーでは、ブラウザからのリクエストへの対応以外にも、アプリケーションやデータの格納など、通常のサーバーが行うあらゆるタスクを処理することができます。どのようなコンピュータでも、サーバーソフトウェアをインストールし、インターネットに接続すれば、Web サーバーとして使用できます。
Windows ターミナル サーバー	マルチユーザー機能を持つサーバーであり、このサーバーに接続することで、それ自体では Windows ソフトウェアを実行できない端末や最小限構成のコンピュータでも Windows アプリケーションを使用することができます。全てのクライアント処理は、Windows ターミナル サーバーで集中的に実行され、画面表示、キー入力、およびマウス操作のコマンドのみがネットワーク経由でクライアントの端末機器とターミナル サーバー間で転送されます。
XAPI イベント	システム呼び出しを使用して EnterpriseOne のトランザクションを発生時に取得し、特定のトランザクションが発生した時点での通知を要求したサードパーティソフトウェア、エンドユーザー、およびその他の JD Edwards システムを呼び出すサービスです。
XML CallObject	ビジネス関数の呼び出しを行うためのインタオペラビリティ機能です。
XML サービス	EnterpriseOne システムからイベントをリクエストし、別の EnterpriseOne システムから応答を受信することを可能にするインタオペラビリティ機能です。
XML ディスパッチ	EnterpriseOne で受信する全ての XML ドキュメントへの応答のための、単一のエン트리ポイントを提供するインタオペラビリティ機能です。
XML トランザクション	事前定義済みのトランザクションタイプを使用して EnterpriseOne にデータをリクエストしたり、EnterpriseOne からデータを受信することを可能にするインタオペラビリティ機能です。XML トランザクションではインターフェイステーブル機能が使用されます。
XML トランザクション サービス (XTS)	EnterpriseOne のフォーマットではない XML ドキュメントを EnterpriseOne で処理可能なフォーマットに変換するサービスです。このサービスでは、応答時に、変換されたドキュメントが元の (発信側の) XML フォーマットに戻されます。
XML リスト	EnterpriseOne データベース情報のチャンク単位でのリクエスト/受信を可能にするインタオペラビリティ機能です。
Z イベント	インターフェイステーブル機能を使用して EnterpriseOne トランザクションを取得し、特定のトランザクションが発生した時点での通知を要求したサードパーティソフトウェア、エンドユーザー、およびその他の JD Edwards システムに通知を提供するサービスです。
Z テーブル	EnterpriseOne 以外のデータを保存し、EnterpriseOne 用に変換することができるワークテーブルです。EnterpriseOne データの取得にも Z テーブルを使用できます。Z テーブルはインターフェイステーブルとも呼ばれます。
Z トランザクション	EnterpriseOne データベースへの更新のためにインターフェイステーブルで正しくフォーマットされたサードパーティのデータです。
アクティビティルール	フロー内でオブジェクトがあるポイントから次のポイントに進むための条件です。

アプリケーション一時変更	代替的なデータ辞書項目の記述であり、現在のオブジェクトのシステムコードに基づいて EnterpriseOne や World で表示されます。
アプリケーション サーバー	ネットワーククライアントに共有されるアプリケーションを含む、ローカルエリアネットワーク内のサーバーです。
イベントルール	フォームの入力や、フィールド間の移動など、特定のアプリケーションで実行される操作に基づく処理(複数可)の実行をシステムに指示する論理ステートメントです。
イベントルールビジネス関数 (NER)	C 言語ではなく、イベントルールを使用して作成され、カプセル化された再利用可能なビジネスロジックです。イベントルールビジネス関数は、“NER”とも呼ばれます。NERは、複数のプログラムの複数の場所で再利用することができます。このモジュラー性の高さによって、コードの合理性や再利用性が高まり、必要な作業がより少なくなります。
インターフェイステーブル	“Zテーブル”を参照してください。
インタオペラビリティモデル	サードパーティシステムから EnterpriseOne への接続やアクセスを行うための機能です。
インテグレーション サーバー	コンピュータが内部および外部のネットワークで接続されたシステム環境で、各種のオペレーティングシステムやアプリケーション間でのデータの交換を行うための機能を提供するサーバーです。
埋め込みイベントルール	特定のテーブルやアプリケーションのためのイベントルールです。たとえば、フォーム間の呼び出し、処理オプションの値に基づくフィールドの非表示化、ビジネス関数の呼び出しなどが含まれます。“イベントルールビジネス関数”とは機能的に対照を成すルールです。
エスカレーション モニター	処理待ちのリクエストや活動を監視し、それらが非アクティブの状態のまま指定した時間が経過すると、再実行するか、または次のステップやユーザーに処理を進めるバッチプロセスです。
エラー表示の有効化	EnterpriseOne におけるフォームレベルのプロパティであり、有効時にはアプリケーションエラーのエラーメッセージがフォーム上に表示されます。
エンタープライズ サーバー	EnterpriseOne や World のデータベースとロジックを格納するサーバーです。
オープン データ アクセス (ODA)	データの集計とレポートの作成のために、SQL ステートメントを使用して EnterpriseOne のデータを抽出することができるインタオペラビリティモデルです。
オブジェクト構成マネージャ (OCM)	EnterpriseOne では、ランタイム環境のオブジェクトリクエストブローカーおよび制御センターとして機能します。OCMによって、ビジネス関数、データ、バッチアプリケーションのランタイムロケーションを追跡します。これらのオブジェクトのいずれかが呼び出されると、OCMでは、指定された環境/ユーザーのデフォルト値と一時変更情報に基づいて、そのオブジェクトにアクセス先が指定されます。
オブジェクトライブラリアン	アプリケーションのビルドに再利用可能な全てのバージョン、アプリケーション、ビジネス関数のリポジトリです。オブジェクトライブラリアンによって、開発者にチェックアウト機能とチェックイン機能が提供されます。また、EnterpriseOne オブジェクトの作成、変更、使用の制御も行われます。オブジェクトライブラリアンは複数の環境(生産環境や開発環境など)に対応しているため、異なる環境間でオブジェクトを簡単に移動することができます。
オブジェクトライブラリアン マージ	前のリリースでオブジェクトライブラリアンに加えられた全ての変更を新規リリースのオブジェクトライブラリアンに統合するプロセスです。
オフライン機能	サーバーと接続されていないユーザーがトランザクションを入力し、後にサーバーに接続してそれらのトランザクションをアップロードすることができる処理モードです。

拡張プランニング エージェント (APAg)	業務データの抽出、加工、読み込みに使用できる EnterpriseOne のツールです。APAg は、リレーショナル データベース、フラットファイル フォーマットおよび XML のような他のデータまたはメッセージ エンコーディング形式によるデータソースへのアクセスをサポートしています。
活動	EnterpriseOne の Form Design Aid で使用される、スケジュール機能をもつエンティティであり、カレンダー上で指定した時間の量を表します。
仮定処理	取引に実際に使用されている通貨とは異なる通貨で入力されたように、取引の金額を表示することができる処理です。
環境ワークベンチ	インストール ワークベンチ プロセスの実行時に、各環境の環境情報とオブジェクト構成マネージャテーブルを、プランナ データソースからシステム リリース番号のデータソースにコピーするアプリケーションです。コピーされたデータを反映するため、環境プラン詳細レコードも更新されます。
期間パターン	標準の会計処理と 52 期間会計で、会計年度の開始日とその会計年度内の各期間の終了日を表すカレンダーです。
基準日処理	ある時点を指定して、その日付までの取引を集計する処理です。たとえば、日付を指定して EnterpriseOne の各種のレポートを実行し、その時点での勘定科目やビジネスユニットなどの残高や金額を確認することができます。
計画ファミリ	設計と製造に類似点があるため、まとめて計画することが合理的である複数の最終品目をグループ化する手段です。
原価要素	EnterpriseOne 製造管理において、特定の品目 (資材費、人件費、間接費など) の原価の一要素を表します。
コスト割当	EnterpriseOne 収益性分析のプロセスであり、リソースのトレースや、活動やコストオブジェクトへの配賦に使用されます。
コネクタ	EnterpriseOne とサードパーティアプリケーションの間でのロジックとデータの共有を可能にするコンポーネントベースのインタオペラビリティ (相互運用) モデルです。EnterpriseOne コネクタアーキテクチャには Java コネクタと COM コネクタが含まれています。
コントロールテーブル マージ	顧客が変更したコントロールテーブルを新規リリースのデータに統合するプロセスです。
コントロールテーブルワークベンチ	インストール ワークベンチの処理中に、プランで指定したデータ辞書、ユーザー定義コード、メニュー、ユーザー時変更テーブルを更新するバッチアプリケーションを実行するアプリケーションです。
サーバーワークベンチ	インストール ワークベンチ プロセスの実行時に、サーバー設定ファイルを、プランナ データソースからシステム リリース番号データソースにコピーするアプリケーションです。コピーされたデータを反映するため、サーバープラン詳細レコードも更新されます。
差異	<p>キャピタルアセット マネジメントでは、1つの設備で発生した収益と、その設備に関連して発生した原価の差を意味します。</p> <p>JD Edwards EnterpriseOne プロジェクト原価管理と JD Edwards EnterpriseOne 製造管理では、同じ品目に対する2つの原価計算方式の間に生じる差異を意味します。たとえば、凍結標準原価と現行原価の差は設計差異です。凍結標準原価は原価要素テーブルから取得され、現行原価は資材、工程、間接費の各レートを使用して計算されます。</p>
最終モード	データレコードの更新や作成を行うプログラムの処理モードのレポート処理モードの1つです。
作業日カレンダー	JD Edwards EnterpriseOne 製造管理で、計画の作成に使用されるカレンダーです。稼働可能な日数に基づいて構成部品と作業指示のスケジュールを設定

	できるように、このカレンダーには作業日のみが連続的に表示されます。作業日カレンダーは、計画カレンダー、製造カレンダー、または製造現場カレンダーと呼ばれる場合もあります。
差し込み印刷ワークベンチ	業務文書を自動的に印刷するために、Microsoft Word 6.0(またはそれ以上のバージョン)の文書とEnterpriseOneのレコードをマージするアプリケーションです。雇用の証明に関する書式などの文書の印刷に、差し込み印刷ワークベンチを使用することができます。
サブスクリバテーブル	F98DRSUB テーブルを指しています。このテーブルは F98DRPUB テーブルと共にパブリッシャサーバーに置かれ、各パブリッシュ済みテーブルの全てのサブスクリバマシンの識別に使用されます。
3方向伝票突合せ	EnterpriseOne 調達管理および外注管理で、入荷情報と仕入先の請求書を比較して伝票を作成するプロセスです。3方向突合せでは、入荷レコードを使用して伝票を作成します。
施設	原価のトラッキング対象となる業務の単位の1つです。たとえば、倉庫所在地、ジョブ、プロジェクト、ワークセンター、事業所などがあります。施設は、ビジネスユニットと呼ばれる場合もあります。
指定通貨	会社の財務レポートで基準として使用される通貨です。
従業員ワークセンター	発信側のアプリケーションやユーザーに関係なく、システム生成メッセージとユーザー作成メッセージを含む全ての EnterpriseOne メッセージを送受信するための中心のロケーションです。各ユーザーには、アクティブメッセージなど、ワークフローやその他のメッセージを含むメールボックスが割り当てられます。
出力ストリーム アクセス (OSA)	EnterpriseOne のインターフェイスを設定し、別のソフトウェアパッケージ (Microsoft Excel など) にデータを渡して処理を実行することができるインタオペラビリティモデルです。
処理オプション	このデータ構造によって、ユーザーはバッチプログラムやレポートの実行を制御するパラメータを指定することができます。たとえば、処理オプションを使用して、特定のフィールドのデフォルト値の指定、情報の表示および印刷の方法、日付範囲の指定、プログラムの実行を制御するランタイム値の入力などがあります。
スペック	EnterpriseOne オブジェクトの完全な説明です。各オブジェクトには固有の仕様またはアプリケーションのビルドに使用される名称があります。
スペックテーブル マージ ワークベンチ	インストールワークベンチプロセスの実行時に、スペックテーブルを更新するバッチアプリケーションを実行するアプリケーションです。
スペック マージ	オブジェクトライブラリアン マージ、バージョンリスト マージ、およびセントラルオブジェクト マージで構成されるマージ機能です。この機能を使用して、顧客が変更したデータを新規リリースのデータに統合することができます。
スポットレート	トランザクションレベルで入力される為替レートです。このレートは、2つの通貨の間に設定されている為替レートより優先されます。
3ステップ処理	EnterpriseOne でのバッチトランザクションの入力、検討と承認、転記のタスクを指します。
整合性テスト	社内の貸借一致手順を補足するために使用するプロセスであり、問題のある残高情報やデータ不整合の特定とレポート作成を行うことができます。
セグメント間編集	コンフィギュレーション品目セグメント間の関係を設定する論理ステートメントです。セグメント間編集を使用して、製造不可能のコンフィギュレーションのオーダーを防ぐことができます。
選択	メニューに表示される選択項目は、メニューからアクセスできる各機能を表します。選択するには、関連する番号を選択フィールドに入力して Enter キーを押します。

セントラルオブジェクト マージ	現行のリリースで顧客がオブジェクトに加えた変更を、次の(新規の)リリースのオブジェクトに統合する処理です。
セントラル サーバー	クライアントマシンに配布されるソフトウェアの、最初にインストールされたバージョン(セントラルオブジェクト)の格納用に指定されたサーバーです。EnterpriseOne の典型的なインストールでは、ソフトウェアは1つのマシン(セントラルサーバー)にロードされます。次に、セントラルサーバーにつながっている各種のワークステーションに向けてソフトウェアのコピーがプッシュアウトされます(またはワークステーションからダウンロードされます)。このような構成にすることで、ワークステーション上での使用によってソフトウェアが変更されたり、破損した場合には、常にセントラルサーバー上にある変更前のオブジェクトのセット(セントラルオブジェクト)にアクセスすることができます。
相殺/仮勘定	EnterpriseOne Financial Management の一般会計勘定科目であり、仕訳入力 of 相殺(貸借一致)処理に使用されます。たとえば、相殺/仮勘定を使用して、EnterpriseOne 一般会計の配賦によって作成された会計入力の貸借一致を行うことができます。
即時バッチオブワン	処理をクライアントワークステーション上で実行してから、後続の処理のために全てを一度にサーバーアプリケーションに投入するトランザクションの方式です。バッチ処理はサーバー上で実行されるため、クライアントアプリケーションは引き続き他のタスクを実行できます。 “ダイレクト接続”と“オフライン処理”も参照してください。
ターミナルサーバー	このサーバーを使用して、端末、マイクロコンピュータ、その他の機器を、ネットワーク、ホストコンピュータ、または特定のコンピュータに取り付けられたデバイスに接続することができます。
代替通貨	取引通貨(国内のみの取引の場合は国内通貨)として指定した通貨と異なる通貨です。 EnterpriseOne Financial Management では、代替通貨を使用して、領収書や支払の入力を発行時と異なる通貨で行うことができます。
ダイレクト接続	クライアントアプリケーションとサーバーアプリケーションが対話形式で直接通信するトランザクション方式です。 “即時バッチオブワン”、“オフライン処理”の説明も参照してください。
チャート	EnterpriseOne の情報の表形式の表示であり、ソフトウェアのフォームに表示されます。
追加モード	ユーザーによるデータの入力可能なフォームの状態です。
通貨再換算	通貨を別の通貨に換算するプロセスであり、一般的にはレポートに使用されます。たとえば、通貨再換算のプロセスを使用して、さまざまな通貨を単一の通貨に換算する必要がある連結レポートの作成に対応することができます。
突き合わせ伝票	取引を完了または変更するために、当初伝票と関連付けられる伝票です。たとえば、EnterpriseOne Financial Management では、入金請求書の突き合わせ伝票であり、支払が支払伝票の突き合わせ伝票です。
データソースワークベンチ	インストールワークベンチの処理中に、インストールプランに定義された全てのデータソースを、プランナのデータソースに含まれるデータソースマスターとテーブル/データソースサイジングテーブルから、システムのリリース番号のデータソースにコピーするアプリケーションです。コピーされたデータを反映するため、データソースプラン詳細レコードも更新されます。
データベースサーバー	データベースの管理やクライアントマシンの検索を実行するローカルエリアネットワーク内のサーバーです。

テーブルアクセス管理 (TAM)	ユーザー定義データの保存と取得を処理する EnterpriseOne コンポーネントです。TAMには、データ辞書定義、アプリケーション/レポートスペック、イベントルール、テーブル定義、ビジネス関数入力パラメータ、ライブラリ情報などの情報と、アプリケーション、レポート、ビジネス関数を実行するためのデータ構造体の定義が保存されます。
テーブルイベントルール	データベーストリガに添付されるロジックであり、トリガに指定されたアクションがテーブルに対して発生した場合に起動します。EnterpriseOne では、イベントルールをアプリケーションイベントに添付できますが、この機能はアプリケーション固有です。テーブルイベントルールでは、テーブルレベルでの埋め込みロジックを提供します。
テーブル変換	EnterpriseOne と、EnterpriseOne 以外のテーブルを使用するサードパーティシステムとの間でデータ交換を行うためのインタオペラビリティモデルです。
テーブル変換ワークベンチ	EnterpriseOne と、EnterpriseOne 以外のテーブルを使用するサードパーティシステムとの間でデータ交換を行うためのインタオペラビリティモデルです。
デプロイメントサーバー	複数のエンタープライズサーバーとクライアントマシンへのソフトウェアのインストールや、それらのソフトウェアの管理、配布に使用されるサーバーです。
電子データ交換 (EDI)	EnterpriseOne システムとサードパーティシステムの間で、コンピュータ間の業務トランザクションデータの交換をペーパーレスに行うことを可能にするインタオペラビリティモデルです。EDIを使用する会社は、EDI標準フォーマットからその会社のシステムで使用されているフォーマットにデータを変換するためのソフトウェアを備えている必要があります。
トランザクション処理 (TP) モニター	ローカル端末およびリモート端末と、それらを設定したアプリケーションの間でのデータ交換を制御するモニター機能です。また、TP モニターによって、分散環境でのデータの整合性が守られます。TP モニターには、データの検証と端末画面のフォーマットのプログラムが含まれる場合もあります。
トランザクションセット	複数のセグメントで構成されている電子的ビジネストランザクション(電子データ交換標準ドキュメント)です。
トリガ	データ辞書項目に固有の複数のイベントの1つです。イベントの発生時にシステム内で自動的に処理されるデータ辞書項目にロジックを添付することができます。
トリガイベント	特殊なアクションが必須であるか、または結果アクションが定義済みの、特定のワークフローイベントです。
2重価格設定	商品やサービスに2つの通貨で価格を設定するプロセスです。
2方向伝票突合せ	EnterpriseOne 調達管理および外注管理で、購買明細行と仕入先の請求書を比較して伝票を作成するプロセスです。入荷情報は記録しません。
バックツールバックプロセス	EnterpriseOne ワークフロー管理で使用されるプロセスであり、別のプロセスで使用されるキーと同じキーが含まれています。
パッケージ	EnterpriseOne オブジェクトは、デプロイメントサーバーからのパッケージとしてワークステーションにインストールされます。パッケージは、部品表やキットに例えることができ、ワークステーションに必要なオブジェクトと、インストールプログラムがそれらのオブジェクトを検出できるようにデプロイメントサーバー上の位置情報を含んでいます。パッケージは、デプロイメントサーバー上のセントラルオブジェクトの特定時点のスナップショットでもあります。
パッケージビルド	ソフトウェアの変更や新規アプリケーションの既存ユーザーへの反映を容易に行うことができるソフトウェアアプリケーションです。また、EnterpriseOne では、パッケージビルドとは、ソフトウェアのコンパイル済みバージョンを指す場合もあります。たとえば、使用中の ERP ソフトウェアのアップグレード時に、パッケージビルドの実行を指示されたとします。

“パッケージビルド”という用語について、以下のコンテキストを検討してください。“パッケージビルド時に実行されるビジネス関数のグローバルビルドでは新規の関数が自動的に含まれるため、配布の準備が整うまでビジネス関数を本稼働用パスコードに転送しないでください。”このように、パッケージビルドを作成するプロセスが“パッケージビルド”と呼ばれる場合もあります。

パッケージロケーション

パッケージとそのパッケージのレプリケート(複製)オブジェクトのセットが格納されるディレクトリ構造上の位置です。通常は、`¥deployment server¥release¥path_code¥package¥package name`に置かれます。このパスの下のサブディレクトリに、パッケージ用のレプリケートオブジェクトが格納されます。パッケージがビルドまたは格納される場所を指す場合もあります。

パッケージワークベンチ

インストールワークベンチプロセスの実行時に、パッケージ情報テーブルを、プランナデータソースからシステムリリース番号データソースに転送するアプリケーションです。処理の結果を反映するため、パッケージプラン詳細レコードも更新されます。

バッチサーバー

バッチ処理リクエストの実行用に指定されたサーバーです。通常、バッチサーバーにデータベースは格納されず、対話型アプリケーションも実行されません。

バッチ処理

サードパーティシステムから EnterpriseOne にレコードを転送する処理です。

EnterpriseOne Financial Management では、バッチ処理を使用して、EnterpriseOne 以外のシステムで入力された請求書や伝票のデータを EnterpriseOne 売掛管理や EnterpriseOne 買掛管理のシステムに転送することができます。また、顧客レコードや仕入先レコードを含む住所録情報を EnterpriseOne に転送することも可能です。

パブリッシャ

パブリッシュされたテーブルを受け持つサーバーです。F98DRPUB テーブルでは、企業内の全てのパブリッシュ済みテーブルとそれらに関連付けられたパブリッシャの識別が行われます。

パブリッシュされたテーブル

マスターテーブルとも呼ばれ、他のマシンにレプリケートされる元のテーブルです。パブリッシャマシンに格納される F98DRPUB テーブルにより、企業内の全てのパブリッシュされたテーブルとそれらに関連付けられたパブリッシャが識別されます。

バージョンリストマージ

バージョンリストマージを実行すると、新規リリースにおいて有効なオブジェクトとそれらの処理オプションデータの、非 XJDE および非 ZJDE バージョンの仕様が維持されます。

ビジネス関数

ユーザーによって作成される命名済みの再利用可能なビジネスルールとログのセットであり、イベントルールを通じて呼び出すことができます。ビジネス関数では、トランザクションやそのサブセット(在庫チェック、作業オーダーの発行など)を実行することができます。また、ビジネス関数には API も含まれているため、フォーム、データベーストリガ、または EnterpriseOne 以外のアプリケーションからも呼び出すことができます。ビジネス関数は、他のビジネス関数、フォーム、イベントルール、その他の構成要素と組み合わせてアプリケーションを構成することができます。ビジネス関数の作成には、イベントルール、または C などの第 3 世代言語を使用します。ビジネス関数の例としては、Credit Check (与信チェック) や Item Availability (在庫照会) が挙げられます。

ビジネスビュー

アプリケーションやレポートでデータが使用されている複数の EnterpriseOne テーブルから特定の列を選択するための手段として使用される機能です。ビジネスビュー自体には特定の行を選択する機能はありません。また、ビジネスビューには実際のデータは含まれていません。ビジネスビューは、情報の表示専用の機能であり、このビューを介してデータを操作することができます。

ビジュアルアシスト

ユーザーがコントロールに属するデータを判別できるように、コントロールからトリガーを介して起動できるフォームです。

ファイル サーバー	ネットワーク上で他のコンピュータからアクセスされるファイルを保存するサーバーです。ユーザーにはリモート ディスクドライブとして表示されるディスクサーバーと異なり、ファイル サーバーには、単にファイルを保存するだけでなく、保存しているファイルを管理し、要求をユーザー リクエスト ファイルとして維持して、それらのファイルの更新も行う高度な機能が備えられています。
プリステイン環境	EnterpriseOne のデモ データを使用した未変更オブジェクトのテストに使用する EnterpriseOne 環境です。研修環境にも使用されます。変更したオブジェクトと変更前のオブジェクトを比較するには、この環境が必要です。
プリント サーバー	ネットワークとプリンタの間のインターフェイスであり、ネットワーククライアントはこれを利用してプリンタに接続し、印刷ジョブを送信することができます。コンピュータ、独立したハードウェア デバイス、またはプリンタ内部のハードウェアでもプリンタサーバーとして使用することができます。
プルレプリケーション	データを個別のワークステーションにレプリケートする方法の1つです。プルレプリケーションのレプリケーション先のマシンは、EnterpriseOne のデータレプリケーション ツールを使用して、プル サブスクライバとしてセットアップされます。プル サブスクライバに変更、更新、削除が通知されるのは、その情報を要求した場合のみです。要求は、通常は起動時に、プル サブスクライバから F98DRPCN テーブルが置かれているサーバーにメッセージの形式で送信されます。
プロキシサーバー	企業などがセキュリティ管理、管理統制、サービスのキャッシュ化を確実に行うことができるように、ワークステーションとインターネットの間で防壁として機能するサーバーです。
プログラム一時修正 (PTF)	磁気テープやディスクで提供される、JD Edwards ソフトウェアの変更です。
プロジェクト	EnterpriseOne で使用される、オブジェクト管理ワークベンチで開発されたオブジェクトのための仮想コンテナです。
プロモーション パス	ワークフロー内でオブジェクトやプロジェクトが進む、指定された工程です。標準的なプロモーション サイクル (パス) は以下のとおりです。 11>21>26>28>38>01 このパスでは、11 は検討待ちの新規プロジェクト、21 はプログラミング、26 は品質管理テスト/検討、28 は品質管理テスト/検討の完了、38 は本稼働、01 はサイクルの完了を表します。標準的なプロジェクト プロモーション サイクルの工程内で、開発者は、開発パスコードからオブジェクトをチェックアウトし、チェックインしてから、それらのオブジェクトをプロトタイプ パスコードにプロモートします。次に、オブジェクトは、工程の完了の前に、本稼働用のパスコードに移されます。
編集コード	レポートやフォームの特定の値がどのように表示/フォーマットされるかを示すコードです。レポートに属するデフォルトの編集コードは大量の情報に関連しているため、使用時には注意が必要です。
編集モード	ユーザーによるデータの変更が可能なフォームの状態です。
編集ルール	ユーザー入力を事前に定義されたルールやルールのセットに照合して、フォーマットや検証を行うための方法です。
補足データ	マスターで管理されない全ての情報のタイプを指す用語です。補足データは、通常、従業員、応募者、購買要求、作業 (従業員の技能、取得学位、語学力など) に関する追加情報です。補足データを使用して、組織が要求するあらゆる情報を追跡管理することができます。 たとえば、標準のマスター (住所録マスター、顧客マスター、仕入先マスター) とは別に、それらのテーブルでは管理されない情報を汎用データベースで管理することができます。このような汎用データベースを使用すると、EnterpriseOne システム全体にわたって、標準的な方法で補足データの入力と管理を行うことができます。
本稼働用環境	ユーザーが EnterpriseOne ソフトウェアを実務使用する EnterpriseOne 環境です。

本稼働レベルファイル サーバー	通常はユーザー サポート サービスと共に提供される、品質保証付きの商品化されたファイル サーバーです。
マスターテーブル	“パブリッシュされたテーブル”を参照してください。
マスタービジネス関数 (MBF)	データベース内の情報の追加、変更、更新のための中心のロケーションとして機能する対話型のマスターファイルです。マスタービジネス関数によって、データ入力フォームとテーブル間でのデータの交換が行われます。マスター関数によって、全ての必要なデフォルト値と編集ルールを含む関数の共通セットが、関連するプログラムに提供されます。MBFには、データベースの情報の追加、更新、削除の整合性を確保するロジックが含まれています。
見出し情報	テーブルやフォームの先頭に表示される情報です。見出し情報を使用して、後続のレコードグループの制御情報が識別または提供されます。
見積オーダー	EnterpriseOne 調達管理および外注管理では、仕入先からの品目情報と価格情報のリクエストであり、そこから購買オーダーを作成できます。 EnterpriseOne 受注管理では、受注オーダーに対してまだ引当を行っていない顧客の品目情報と価格情報を指します。
明細情報	たとえば、伝票支払品目や受注オーダー明細行など、EnterpriseOne のトランザクションの個別の行に関連する情報です。
メッセージアダプタ	サードパーティシステムから EnterpriseOne に接続し、メッセージング キューを使用したデータの交換を行うためのインタオペラビリティモデルです。
メッセージセンター	発信側のアプリケーションやユーザーに関係なく、システム生成メッセージとユーザー作成メッセージを含む全ての EnterpriseOne メッセージを送受信するための中心のロケーションです。
メッセージング サーバー	メッセージング APIを使用して、他のプログラムで使用するために送信されるメッセージを処理するサーバーです。メッセージング サーバーには、通常、関数を実行するためにミドルウェアプログラムが配備されます。
メディアストレージオブジェクト	テーブルフォーマットにまとめられていない、Gxxx、xxxGT、または GTxxx のいずれかの命名規則を使用するファイルです。
ユーザー一時変更のマージ	新規のユーザー一時変更レコードを顧客のユーザー一事変更テーブルに追加するプロセスです。
優先プロファイル	品目、品目グループ、顧客、および顧客グループについて、ユーザー定義の階層(順序)に基づいて指定したフィールドのデフォルト値を定義する機能です。
用語一時変更	特定の EnterpriseOne または World のフォームやレポートに表示される、データ辞書項目の代替的な説明です。
リアルタイム イベント	システム呼び出しを使用して EnterpriseOne のトランザクションを発生時に取得し、特定のトランザクションが発生した時点での通知を要求したサードパーティソフトウェア、エンドユーザー、およびその他の JD Edwards システムに通知を提供するサービスです。
リフレッシュ	EnterpriseOne ソフトウェアまたはそのサブセット(テーブルや業務データなど)を、新規リリースや PTF/Cum アップデートリリース(B73.2 や B73.2.1 など)に正しく対応させるための変更機能です。
略式コマンド	特定のコマンドを使用することで、メニューやアプリケーション間を迅速に移動できるコマンドプロンプト機能です。
レプリケーション サーバー	セントラル オブジェクトのクライアントマシンへのレプリケーションを受け持つサーバーです。

ロケーションワークベンチ	インストールワークベンチプロセスの実行時に、インストールプランに定義された全てのロケーションを、プランナデータソースの保管場所マスターからシステムデータソースにコピーするアプリケーションです。
ロジックサーバー	アプリケーションプログラムにビジネスロジックを提供する、分散ネットワーク内のサーバーです。典型的なコンフィギュレーションでは、プリスティンオブジェクトは、セントラルサーバーからロジックサーバーに複製されます。EnterpriseOneやWorldソフトウェアの実行時に、ロジックサーバーでは、ワークステーションと連動して、必要な処理が実際に実行されます。
ワークグループサーバー	マスターネットワークサーバーからレプリケートされたデータのサブセットが通常置かれるサーバーです。ワークグループサーバーでは、アプリケーションやバッチ処理は実行されません。
ワークフロー	ビジネスプロセスの一部または全体の自動化を意味する用語です。自動化されたプロセス(ワークフロー)の実行時には、ドキュメント、情報、タスクは、手順規則に従ってユーザーからユーザーへ渡されます。
ワークベンチ	関連のあるプログラムのグループに対する1つのエントリポイントからのアクセスを可能にするプログラムです。通常、ワークベンチからアクセスするプログラムは、大規模な業務プロセスに使用されています。たとえば、JD Edwards EnterpriseOne 支払サイクルワークベンチ(P07210)を使用して、給与計算、支払レポートの印刷、給与レポートの作成、仕訳入力の作成、給与履歴の更新に使用される全てのプログラムにアクセスすることができます。EnterpriseOneには、サービス管理ワークベンチ(P90CD020)、ラインスケジューリングワークベンチ(P3153)、計画ワークベンチ(P13700)、監査人ワークベンチ(P09E115)、支払サイクルワークベンチなどが用意されています。

索引

- Customer Connection Web サイト viii
DRP 未調整 UDC (34/DU) 14
DRP (流通所要量計画) UDC (34/DR) 13
F0902 テーブル 59, 66
F0911 テーブル 66, 72
F3102 テーブル 72, 75
F3111 テーブル 75
F3115 テーブル 70
F31P01 テーブル 8, 64
F31P10 テーブル 8
F31P11 テーブル 8, 43
F31P12 テーブル 8
F31P21 テーブル 8
F3412 テーブル 56
F3413 テーブル 56
F4080 テーブル 9, 59
F410211 テーブル 9, 55, 65, 70
F41021 テーブル 65, 70, 76
F4211 テーブル 61
F4311 テーブル 61, 62
F43121 テーブル 62
F43199 テーブル 59, 66, 75
F4801T テーブル 37, 66, 72
F4801 テーブル 24, 36, 74
F5108 テーブル 18, 24
JD Edwards EnterpriseOne アプリケーションの基礎 vii
Microsoft Project との統合 19
MMA Partners viii
MPS/MRP/DRP 集計テーブル (F3413) 56
MPS/MRP/DRP 需要テーブル (F3412) 56
MPS (基準生産日程計画) UDC (34/MS) 14
MPS タイム フェイズ プログラム (P3413) 56
MRP/MPS 詳細メッセージの改訂プログラム (P3411) 56
MRP/MPS 所要量計画プログラム (R3482) 51
MRP (資材所要量計画) UDC (34/MR) 14
MRP (資材所要量計画) 管理 UDC (34/MM) 14
MS Project からのインポート プログラム (R31P801)
処理オプション 20
用途 21
MS Project へのエクスポート プログラム (R31P404)
処理オプション 20
用途 20
P0150 プログラム 45
P31114 プログラム 22, 70
P3111 プログラム 39, 62
P311221 プログラム 37
P3112 プログラム 39
P31P001 プログラム
処理オプション 25
用途 62
P31P011 プログラム 24, 35
P31P100 プログラム
処理オプション 45
用途 24, 43
P31P101 プログラム 43, 44
P31P201 プログラム 58
P31P204 プログラム
処理オプション 63
用途 59, 63
P31P301 テーブル 72
P31P301 プログラム
処理オプション 15
用途 15
P32942 プログラム 36
P3401 プログラム 56
P3411 プログラム 56
P3413 プログラム 56
P40040 プログラム 11
P4021 プログラム 56
P410211W プログラム 69
P410211 プログラム 65
P41202 プログラム 65
P4310 プログラム 58, 62
P4312 プログラム 65
P4801S プログラム 64
P48331 プログラム 37
P51006 プログラム 18
P51091 プログラム 18
PeopleBook

- 注文 viii
 PeopleCode の表記規則 x
 R00932 プログラム 66
 R09801 プログラム 66
 R30601 プログラム 55
 R31410 プログラム 36, 39
 R31430 プログラム 70
 R3190 プログラム 70
 R31P301 プログラム 69, 71
 R31P400 レポート
 処理オプション 73
 用途 74
 R31P401 レポート
 処理オプション 74
 用途 75
 R31P402 レポート
 処理オプション 75
 用途 76
 R31P403 プログラム
 処理オプション 77
 用途 77
 R31P404 プログラム
 処理オプション 20
 用途 20
 R31P405 プログラム 64
 R31P800 プログラム
 処理オプション 52
 用途 52
 R31P801 プログラム
 処理オプション 20
 用途 21
 R31P993 プログラム
 処理オプション 67
 用途 66, 67
 R3482 プログラム 51
 R3483 プログラム 57, 58
 R40910 レポート 66
 R4317 プログラム 66
- あ**
 アプリケーションの基礎 vii
- い**
 印刷・製本されたドキュメンテーション viii
- お**
 オンライン提案 44
- オンライン提案プログラム (P31P101) 43, 44
 オンライン見積 44
 オーダー処理プログラム (R31410) 36, 39
 オーダー タイプ UDC (48/OT) 13
 [オーダー見出しの処理] フォーム 62
 [オーダー明細] フォーム 62
- か**
 会計コミットメント
 行タイプ 12
 行タイプ固定情報 12
 在庫インターフェイス 12
 会計上のコミットメントの監査証跡の作成 67
 会計上のコミットメントの作成 65
 [勘定科目コードの改訂] フォーム 15, 17
 [勘定科目コードの処理] フォーム 15
 勘定科目表 18
 勘定残高テーブル (F0902) 59, 66
 関連オーダー相互参照テーブル (F4080) 9, 59
 [関連オーダーの処理] フォーム 62, 63
 関連オーダーの図 59
 関連オーダー費用の更新プログラム (R31P405) 61, 64
 関連オーダー プログラム (P31P204)
 処理オプション 63
 用途 59, 63
 関連原価の更新 61
 関連ドキュメンテーション viii
- き**
 基準計画スケジュール - 複数事業所プログラム (R3483) 57, 58
 共通フィールド xii
- け**
 計画およびスケジューリング 40
 計画原価の割り当て 39
 警告 xi, 72
 [原価コードのコピー] フォーム 18
 [原価タイプの改訂] フォーム 15, 16
 [原価タイプの処理] フォーム 15
 原価分類 UDC (31P/CC) 13
 原価分類テーブル (F31P21) 8
 原価分類プログラム (P31P301)

処理オプション 15
用途 15

こ

ご意見 xii
工場保守管理 UDC (34/PM) 14
構造の改訂プログラム (P0150) 45
購買オーダー プログラム (P4310) 58,
62
購買明細実績テーブル (F43199) 59,
66, 75
購買明細テーブル (F4311) 61, 62
コミットメント再作成プログラム (R31P993)
処理オプション 67
用途 66, 67
コミットメント整合性レポート (R40910) 66
コミットメント伝票タイプ UDC (40/CT) 13
ご要望 xii
コンフィギュレーション品目仕様プロ
グラム (P32942) 36

さ

在庫インターフェイス UDC (H40/IV) 14
在庫状況集計プログラム (P41202) 65
在庫タイプ コード UDC (41/I) 13
在庫引当の作成 64
再販するプロジェクト品目の購買 59
債務繰越プログラム (R4317) 66
作業オーダー完了プログラム
(P31114) 70
作業オーダー在庫完了プログラム
(P31114) 22
作業オーダー作業工程指示 (P3112) 39
作業オーダーの検索プログラム
(P4801S) 64
作業オーダーの時間入力プログラム
(P311221) 37
作業オーダー部品リスト テーブル
(F3111) 75
[作業オーダー部品リストの処理] フォー
ム 62
作業オーダー部品リスト プログラム
(P3111) 39, 62
作業オーダー部品リスト プログラム
(P31P201) 58
作業オーダー マスター タグ テーブル
(F4801T) 37, 66, 72
作業オーダー マスター テーブル
(F4801) 24, 36

作業原価コード構造プログラム
(P51091) 18
作業原価の統合の設定 17
作業原価マスターの改訂プログラム
(P51006) 18
作業原価予算のアップロード プログラム
(R31P800)
処理オプション 52
用途 52
作業原価予算へのプロジェクト予算の
ロード 52
作業へのコミット済み原価の転記プロ
グラム (R00932) 66

し

システムの機能
警告 8
原価計算と予算作成 7
資材調達計画 8
スケジュールとレポート 8
提案 7
見積 7
実際原価のワークベンチへの積み上げ
プログラム (R31P301) 69, 71
受注設計生産
会計上のコミットメントの作成 65
警告 72
原価分類 15
システムの機能 7
設定 11
タスク タイプ 11
テーブル 8
プロジェクト完了 76
プロジェクトのオーダーの作成 58
プロジェクトの会計 70
プロジェクトの資材の購買 59
プロジェクトの実行および統制 69
プロジェクトのライフサイクル 6
プロジェクト プランニング 51
プロジェクトへの既存の作業オーダ
ーの添付 61
プロジェクト レポート 72
ユーザー定義コード 13
受注設計生産の設定 11
受注設計生産プロジェクトの各フェ
ーズ 5
受注明細テーブル (F4211) 61
需要/供給照会プログラム (P4021) 56
[需要/供給の処理] フォーム 57, 58
[詳細メッセージの改訂] フォーム 57, 58

[詳細メッセージの処理] フォーム 57
 正味変更 70
 正味変更処理プログラム (R31430) 70
 正味変更取引テーブル (F3115) 70
 仕訳の転記プログラム (R09801) 66

す

数量タイプ UDC (34/QT) 14, 58

せ

製造原価テーブル (F3102) 72, 75
 前提知識 vii

そ

相互参照 xi

た

タスク従属関係テーブル (F31P12) 8
 タスク従属関係の定義 39, 41
 タスク従属タイプ UDC (31P/DT) 13
 [タスク追加情報] フォーム 37
 [タスクの従属関係] フォーム 41
 タスクのスケジューリング 42
 タスクへのリソースの割り当て 37

ち

注 x
 注意事項 x

つ

追加作業マスター テーブル (F5108) 18,
 24
 追加ドキュメンテーション viii

て

テキスト代替コード UDC (42/02) 14
 テキスト代替の基準テーブル UDC
 (42/01) 14
 電子メールボックス UDC (02/MB) 14
 伝票タイプ保守管理プログラム
 (P40040) 11

と

統合

キャピタル アセット マネジメント 2
 契約請求 3
 在庫管理 1
 作業原価 2
 サービス請求 3

受注管理 2
 所要量計画 2
 製造現場管理 2
 製造データ管理 1
 調達管理 2
 品質管理 2

ドキュメンテーション

印刷・製本 viii

関連 viii

取引明細テーブル (F0911) 66, 72

に

入荷確認テーブル (F43121) 62
 入荷確認プログラム (P4310) 65

ひ

表記規則 x

ふ

複数事業所のプロジェクト所要量計
 画 57
 複数事業所プロジェクト所要量計画の
 生成 57
 部品表の構造分析プログラム
 (R30601) 55
 プロジェクト会計 UDC (31P/AI) 13
 プロジェクト完了 6
 プロジェクト原価 36
 プロジェクト原価レポート (R31P401)
 処理オプション 74
 用途 75
 プロジェクト コミットメント明細ウインドウ
 プログラム (P410211W) 69
 [プロジェクト・コミットメント明細の処理]
 フォーム 66, 67
 プロジェクト固有の資材の定義 12
 プロジェクト在庫レポート (R31P402)
 処理オプション 75
 用途 76
 プロジェクト作業オーダーの出庫および
 完了 69
 プロジェクト締め切りアナライザ プログ
 ラム (R31P403)
 処理オプション 77
 用途 77
 [プロジェクト照会] フォーム 25, 34
 プロジェクト状況コード 44
 プロジェクト情報を保存する際の技術的
 考慮事項 25

- プロジェクト所要量計画 54
 - プロジェクト所要量計画の出力 55
 - プロジェクト所要量計画の生成 55
 - プロジェクト スケジュール レポート (R31P400)
 - 処理オプション 73
 - 用途 74
 - プロジェクト請求方法 UDC (31P/AI) 13
 - プロジェクト属性テーブル (F31P01) 8, 64
 - プロジェクト タスク 35
 - プロジェクト タスクのスケジュールリング 39
 - プロジェクト立ち上げ 5
 - プロジェクトのオーダーの作成 58
 - プロジェクトの会計処理 70
 - プロジェクトの完了 76
 - プロジェクトのコミットメント 64
 - プロジェクトのコミットメント明細照会プログラム (F410211) 65
 - プロジェクトの資材の購買 59
 - プロジェクトの資材の購買オーダーの入力 62
 - プロジェクトの実行および統制 6, 69
 - [プロジェクトの処理] フォーム 18, 25, 37
 - プロジェクトの立ち上げ 23
 - [プロジェクトの追加/改訂] フォーム 18, 25, 29
 - プロジェクトの追加/改訂プログラム (P31P011) 24, 35
 - プロジェクトの見積の作成 47
 - プロジェクトのライフサイクル 6
 - プロジェクトのライフサイクルの図 7
 - プロジェクト引当明細テーブル (F410211) 9, 55, 65, 70
 - プロジェクト プランニング 6, 51
 - プロジェクトへの既存の作業オーダーの添付 61, 64
 - プロジェクト見出し情報の作成 24
 - プロジェクト見積状況 UDC (31P/QP) 13
 - [プロジェクト見積の改訂] フォーム 45, 47
 - [プロジェクト見積の処理] フォーム 45
 - プロジェクト見積プログラム (P31P100)
 - 処理オプション 45
 - 用途 24, 43
 - プロジェクト見積見出しテーブル (F31P10) 8
 - プロジェクト見積無効の理由コード UDC (31P/RC) 13
 - プロジェクト見積明細テーブル (F31P11) 8, 43
 - プロジェクト レポート
 - プロジェクト原価レポート (R31P401) 75
 - プロジェクト在庫レポート (R31P402) 76
 - プロジェクト スケジュール レポート (R31P400) 74
 - [プロジェクト・ワークベンチ] フォーム 37, 41, 62, 64
 - プロジェクト ワークベンチ プログラム (P31P001)
 - 処理オプション 25
 - 用途 62, 64
 - プロジェクト ワークベンチへの実際原価の積み上げ 71
- ほ**
- 保管場所品目テーブル (F41021) 65, 70, 76
- み**
- 未処理作業オーダーの再転記プログラム (R3190) 70
 - 見積および提案の生成 43
 - 見積原価の割り当て 39
 - [見積りの追加] フォーム 45
- め**
- メッセージ集計プログラム (P3401) 56
- り**
- リソースの割り当てプログラム (P48331) 37
 - リソース割り当てレベル UDC (48/RL) 14
- る**
- 累計した関連オーダーの原価更新 64
- れ**
- 連絡先 xii

